

エゼキエル書

Ezekiel

旧約聖書

第1章

- 1 第三十年の第四の月の五日、私がケバル川のほとりで捕囚の民とともにいたとき、天が開け、私は神々しい幻を見た。
- 2 それはエホヤキン王が捕囚となってから五年目の時であった。その月の五日に、
- 3 カルデア人の地のケバル川のほとりで、ブジの子、祭司エゼキエルに主のことばが確かに臨んだ。その場所で主の御手が彼の上にあった。
- 4 私が見ていると、見よ、激しい風が北からやって来た。それは大きな雲と、きらめき渡る火を伴い、その周りには輝きがあった。その火の中央からは琥珀のようなきらめきが出ていた。
- 5 その中に生きもののようなものが四つ現れ、その姿は次のようであった。彼らは人間のような姿をしていたが、
- 6 それぞれ四つの顔と四つの翼を持っていた。
- 7 その足はまっすぐで、足の裏は子牛の足の裏のようであり、磨かれた青銅のようにきらめいていた。
- 8 その翼の下から人間の手が四方に出ていた。また、その四つの生きものの顔と翼は次のようであった。
- 9 彼らの翼は互いに触れ合っていて、進むときには向きを変えず、それぞれ正面に向かってまっすぐに進んだ。
- 10 彼らの顔かたちは人間の顔で、四つとも右側には獅子の顔、四つとも左側には牛の顔、さらに四つとも鷲の顔を持っていた。
- 11 これが彼らの顔であった。彼らの翼は上方に広げられ、それぞれ、二つは互いに触れ合っていて、もう二つはそれぞれのからだをおおっていた。
- 12 彼らはそれぞれ前を向いてまっすぐに進んだ。霊が進ませるところに彼らは進み、進むときには向きを変えなかった。
- 13 それらの生きものの姿は燃える炭火のようであり、たいまつのように見えた。火がそれらの生きものの間を行き来していた。火には輝きがあり、その火から稲妻が出ていた。
- 14 それらの生きものは、閃光のように出たり入ったりしていた。
- 15 私がその生きものを見ていると、それら四つの顔の生きもののそばには、地の上にそれぞれ輪が一つずつあった。
- 16 それらの輪の形と作りは、輝く緑柱石のようで、四つともよく似ていた。それらの形と作りは、ちょうど、輪の中に輪があるようであった。
- 17 それらは四方のどの方向にも進み、進むときには向きを変えなかった。
- 18 その輪の周りの縁は高さがあって恐ろしく、四つの輪の周りの縁は一面、目で満ちていた。
- 19 生きものが進むときには輪もそのそばを進み、生きものが地上から上がるときには輪も上がった。
- 20 これらは霊が進もうとするところに進み、輪もまたそれらとともに上がった。生きものの霊が輪の中にあっただからである。
- 21 生きものが進むときには輪も進み、生きものが止まるときには輪も止まり、生きものが地上から上がるときには輪も上がった。生きものの霊が輪の中にあっただからである。
- 22 生きものの頭上には、まばゆい水晶のような大空に似たものがあり、頭上高く広がっていた。

- 23 その大空の下で、その翼が互いにまっすぐに伸び、それぞれ一対の翼が彼らをおおっていた。それぞれの一対の翼が彼らのからだをおおっていたのである。
- 24 彼らが進むとき、私は彼らの翼の音を聞いた。それは大水のとどろきのよう、全能者の声のようであり、そのどよめきは陣営の騒音のようであった。彼らが止まるときに、その翼は垂れた。
- 25 彼らの頭上にある大空から声があった。彼らが止まったとき、その翼は垂れた。
- 26 彼らの頭上、大空のはるか上の方には、サファイアのように見える王座に似たものがあり、その王座に似たもののはるか上には、人間の姿に似たものがあった。
- 27 私が見ると、その腰と見えるところから上の方は、その中と周りが琥珀のきらめきのように輝き、火のように見えた。腰と見えるところから下の方に、私は火のようなものを見た。その方の周りには輝きがあった。
- 28 その方の周りには輝きは、雨の日の雲の間にある虹のようであり、まさに主の栄光の姿のようであった。私はこれを見て、ひれ伏した。そのとき、私は語る者の声を聞いた。

第2章

- 1 その方は私に言われた。「人の子よ、自分の足で立て。わたしがあなたに語る。」
- 2 その方が私に語りかけると、霊が私のうちに入り、私を自分の足で立たせた。そのとき、私は自分に語りかけることばを聞いた。
- 3 その方は私に言われた。「人の子よ。わたしはあなたをイスラエルの民に、わたしに反抗する国民に遣わす。彼らもその先祖たちも、今日までわたしに背いてきた。
- 4 彼らは厚かましく、頑なである。わたしはあなたを彼らに遣わす。あなたは彼らに『神である主はこう言われる』と言え。
- 5 反逆の家だから、聞く聞かないに関わりなく、彼らは自分たちのうちに預言者がいることを知らなければならない。
- 6 人の子よ。あなたは彼らや彼らのことばを恐れるな。あざみと茨があなたと一緒にあり、サソリの中に住んでも、恐れるな。そのことばを恐れるな。彼らの顔におびえるな。彼らは反逆の家なのだから。
- 7 彼らは反逆の家だから、聞く聞かないに関わりなく、あなたはわたしのことばを彼らに語れ。
- 8 人の子よ。あなたは、わたしがあなたに語ることを聞け。反逆の家のように、あなたは逆らってはならない。あなたの口を大きく開けて、わたしがあなたに与えるものを食べよ。」
- 9 私が見ると、なんと、私の方に手が伸ばされていて、その中に一つの巻物があった。
- 10 その方はそれを私の前で広げた。それは表にも裏にも文字が書かれていた。そこに嘆きと、うめきと、悲痛が記されていた。

第3章

- 1 その方は私に言われた。「人の子よ。あなたの前にあるものを食べよ。この巻物を食べ、行ってイスラエルの家に告げよ。」
- 2 私が口を開けると、その方は私にその巻物を食べさせ、

- 3 そして言われた。「人の子よ。わたしがあなたに与えるこの巻物を食べ、それで腹を満たせ。」私がそれを食べると、それは口の中で蜜のように甘かった。
- 4 その方はまた、私に言われた。「人の子よ。さあ、イスラエルの家に行き、わたしのことばをもって彼らに語れ。
- 5 あなたは、難しい外国語を話す民にではなく、イスラエルの家遣わされるのだ。
- 6 あなたを、そのことばを聞いても分からないような、難しい外国語を話す多くの民に遣わすのではない。もし、わたしがこれらの民にあなたを遣わしたのなら、彼らはあなたの言うことを聞いたであろう。
- 7 しかし、イスラエルの家はあなたの言うことを聞こうとはしない。彼らがわたしの言うことを聞こうとしないからだ。イスラエルの全家は額が硬く、心が頑なだからだ。
- 8 見よ。わたしはあなたの顔を、彼らの顔に合わせて硬くし、あなたの額を、彼らの額に合わせて硬くする。
- 9 わたしはあなたの額を、火打石よりも硬いダイヤモンドのようにする。彼らを恐れるな。彼らの顔におびえるな。彼らは反逆の家なのだから。」
- 10 その方は私に言われた。「人の子よ。わたしがあなたに告げるすべてのことばをあなたの心に納め、あなたの耳で聞け。
- 11 さあ、捕囚になっているあなたの民のところへ行き、彼らに告げよ。彼らが聞いても、聞かなくても、『神である主はこう言われる』と彼らに言え。」
- 12 それから、霊が私を引き上げた。そのとき私は、うしろの方で、「主の栄光が御住まいでほめたたえられますように」という大きなとどろきを聞いた。
- 13 それは、互いに触れ合う生きものたちの翼の音と、そのそばの輪の音で、大きなとどろきになっていた。
- 14 霊は私を持ち上げ、私を捕らえた。それで、私は自分の霊の憤りを覚えつつ、苦々しい思いで出て行った。主の御手は私の上に強くのしかかっていた。
- 15 私はテル・アビブの捕囚の民のところへ行った。彼らはケバル川のほとりに住んでいたが、私は彼らが住んでいるその場所で、七日間、茫然として彼らの中に座っていた。
- 16 七日の終わりになって、次のような主のことばが私にあった。
- 17 「人の子よ。わたしはあなたをイスラエルの家の見張りとした。あなたは、わたしの口からことばを聞き、わたしに代わって彼らに警告を与えよ。
- 18 わたしが、悪い者に『あなたは必ず死ぬ』と言うとき、もしあなたが彼に警告を与えず、悪い者に悪の道から離れて生きるように警告しないなら、その悪い者は自分の不義のゆえに死ぬ。そして、わたしは彼の血の責任をあなたに問う。
- 19 もしあなたが悪い者に警告を与えても、彼がその悪と悪の道から立ち返ることがないなら、彼は自分の不義のゆえに死ななければならない。しかし、あなたは自分のいのちを救うことになる。
- 20 また、正しい人がその正しい行いをやめて不正を行うなら、わたしは彼の前につまずきを置く。彼は死ななければならない。あなたが彼に警告を与えなかったので、彼は自分の罪のゆえに死ぬ。彼が行った正しい行いは覚えられない。そして、わたしは彼の血の責任をあなたに問う。

- 21 しかし、もしあなたがその正しい人に、罪を犯さないように警告を与え、彼が罪を犯さないようになれば、彼は警告を聞いたのであるから、彼は必ず生き、あなたも自分のいのちを救うことになる。」
- 22 その場所で主の御手が私の上にあった。主は私に言われた。「さあ、平地に出て行け。そこでわたしはあなたに語ろう。」
- 23 私は平地に出て行った。すると、主の栄光が、かつて私がケバル川のほとりで見た栄光のように、そこにとどまっていた。それで私はひれ伏した。
- 24 それから、霊が私のうちに入り、私を自分の足で立たせた。主は私に語りかけられた。「行って、あなたの家に閉じこもっていなさい。
- 25 人の子よ。今に人々があなたに縄をかけて縛るので、あなたは彼らのところに出て行けなくなる。
- 26 わたしがあなたの舌を上あごに付かせるので、あなたは話せなくなり、あなたは彼らにとって責める者ではなくなる。彼らは反逆の家なのだから。
- 27 しかしわたしは、あなたと語るときにあなたの口を開く。あなたは彼らに『神である主はこう言われる』と言え。聞く者には聞かせ、聞かない者には聞かせるな。彼らは反逆の家なのだから。

第4章

- 1 人の子よ。あなたは粘土の板を一枚取り、それを自分の前に置き、その上にエルサレムの町を描け。
- 2 それから、それに対する包囲網を張れ。それに対して壘を築き、包囲壁を作れ。それに対して陣営を設け、周りに城壁崩しを配備せよ。
- 3 また、鉄の板一つを取り、それをあなたと町との間に鉄の壁として立てよ。あなたが自分の顔をしっかりとこの町に向けると、この町は包囲される。あなたがこれを攻め囲むのだ。これがイスラエルの家に対するしるしだ。
- 4 あなたは左脇を下にして身を横たえ、イスラエルの家の咎をその上に置け。あなたがそのように横たわっている日数だけ彼らの咎を負え。
- 5 わたしはあなたのために、彼らの咎の年数を日数にして三百九十日とする。このように、あなたはイスラエルの家の咎を負わなければならない。
- 6 あなたがこれらのことを終えたら、次に右脇を下にして身を横たえ、ユダの家の咎を四十日間、負わなければならない。わたしは一年を一日としてあなたに課す。
- 7 それから、あなたは顔をしっかりと、包囲されているエルサレムの方に向け、腕をまくり、これに向かって預言せよ。
- 8 見よ。わたしはあなたに縄をかけ、あなたの包囲の期間が終わるまで寝返りができないようにする。
- 9 あなたは小麦、大麦、そら豆、レンズ豆、粟、裸麦を取り、それらを一つの器に入れ、それで自分のためにパンを作り、あなたが脇を下にして横たわっている日数、すなわち三百九十日間それを食べよ。
- 10 あなたが食べる食物は、重さにして一日分二十シェケルである。一日一回それを食べよ。
- 11 あなたが飲む水も、六分の一ヒンを量って、それを一日一回飲め。

- 12 あなたは大麥のパン菓子を食べよ。それを彼らの目の前で、人の糞で焼け。」
- 13 主は言われた。「このようにイスラエルの民は、わたしが追いやる国々の中で、自分たちの汚れたパンを食べなければならない。」
- 14 そこで私は言った。「ああ、神、主よ。私は身を汚したことはありません。幼い時から今まで、死んだ動物や野獣にかみ裂かれたものを食べたことも、不浄な肉を口にすることもありません。」
- 15 すると、主は私に言われた。「では、人の糞の代わりに牛の糞でよい。あなたはその上で自分のパンを作れ。」
- 16 そして私に言われた。「人の子よ、見よ。わたしはエルサレムで、パンの蓄えをなくそうとしている。彼らは恐る恐る量ってパンを食べ、おびえながら水を量って飲む。」
- 17 こうしてパンと水が乏しくなり、だれもかれもが茫然として、自分たちの咎のゆえに朽ち果てる。

第5章

- 1 人の子よ、あなたは鋭い剣を取れ。それを床屋のかみそりのように使って、あなたの髪とひげを剃れ。それから秤を使って量り、その毛を分けよ。
- 2 その三分の一を、包囲の期間の終わるときに町の中で焼き、またもう三分の一を取って町の周りで剣で打ち、残りの三分の一を風に乗せて散らせ。わたしは剣を抜いてその後を追う。
- 3 あなたはそこからわずかな毛を取って、あなたの衣の裾に包み、
- 4 その中からさらにいくらかを取って、火の中に投げ入れ、火で燃やせ。火がそこから出て、イスラエルの全家に燃え移る。」
- 5 神である主はこう言われる。「これがエルサレムだ。わたしはこれを諸国の民のただ中に置き、その周りを国々が取り囲むようにした。
- 6 エルサレムは悪事を働き、諸国の民以上にわたしの定め、周囲の国々以上にわたしの掟に逆らった。実に、エルサレムはわたしの定めを嫌い、わたしの掟に従って歩まなかった。
- 7 それゆえ—神である主はこう言われる—あなたがたは周りの国々よりも粗暴な者たちで、わたしの掟に従って歩まず、わたしの定めを行わず、それどころか、あなたがたの周りの国々の定めさえ行わなかった。
- 8 それゆえ—神である主はこう言われる—今、わたしはあなたを敵とし、国々の目の前で、あなたのただ中でさばきを下す。
- 9 あなたのしたすべての忌み嫌うべきことのゆえに、これまでしたこともなく、これからもしないようなことを、あなたに対して行う。
- 10 それで、あなたのうちの父は自分の子どもを食べ、子どもは自分の父を食べようになる。わたしは、あなたにさばきを下し、あなたのうちの残りの者をみな四方に散らす。
- 11 それゆえ—神である主のことば—わたしは生きている。あなたが、あらゆる忌まわしいものと、あらゆる忌み嫌うべきことによって、わたしの聖所を汚したので、わたしもまた身を引き、あわれみをかけない。わたしもまた、惜しまない。
- 12 あなたの三分の一は疫病で死ぬか、あなたのただ中で飢饉によって滅び、三分の一はあなたの周りで剣に倒れ、残りの三分の一を、わたしは四方に散らし、剣を抜いて彼らの後を追う。

- 13 わたしの怒りが出し尽くされると、わたしは彼らに対する憤りを収めて満足する。わたしが彼らに対する憤りを終わらせたとき、彼らは、主であるわたしが、ねたみをもって語ったことを知る。
- 14 わたしは、あなたの周りの国々の中で、通り過ぎるすべての者の目の前で、あなたを廃墟とし、そしりの的とする。
- 15 わたしが、怒り、憤り、また憤りによる懲罰をもってあなたにさばきを下すとき、あなたは周りの国々のそしりとののしりの的、教訓と恐怖となる。主であるわたしがこれを告げる。
- 16 わたしが飢饉という悪しき矢を、滅びのため彼らに放ち、あなたがたを滅ぼそうとして放つとき、わたしは飢饉をあなたがたの上にいっそう増して、あなたがたのパンの蓄えをなくす。
- 17 わたしはあなたがたに飢饉と悪い獣を送る。それらはあなたに子を失わせる。疫病と流血があなたのうちに起こる。わたしはあなたの上に剣をもたらす。主であるわたしがこれを告げる。」

第6章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ。イスラエルの山々に顔を向け、それらに向かって預言せよ。
- 3 『イスラエルの山々よ、神である主のことばを聞け。神である主は、山や丘、谷川や谷に向かってこう言われる。見よ。わたしは剣をあなたがたの上にもたらし、あなたがたの高き所を滅ぼす。
- 4 あなたがたの祭壇は荒らされ、あなたがたの香の台は破壊される。わたしはあなたがたの中の刺し殺された者どもを、あなたがたの偶像の前に投げ捨てる。
- 5 わたしはイスラエルの民の屍を彼らの偶像の前に置き、あなたがたの骨をあなたがたの祭壇の周りに散らす。
- 6 あなたがたがどこに住もうとも、町々は廃墟となり、高き所は荒らされる。こうして、あなたがたの祭壇は廃墟となり、罰を受ける。あなたがたの偶像は破壊されて消滅し、あなたがたの香の台は切り倒され、あなたがたのわざは消し去られ、
- 7 刺し殺された者があなたがたのただ中に横たわる。そのときあなたがたは、わたしが主であることを知る。
- 8 しかし、わたしは、あなたがたのうちのある者を残しておく。あなたがたが諸国に追い散らされるとき、剣から逃れる者たちを国々の中に残す。
- 9 あなたがたのうちで逃れた者たちは、捕虜になって行った国々で、わたしから離れた彼らの姦淫の心と、偶像を慕う彼らの姦淫の目に、わたしがどんなに傷ついたかを思い起こす。自分たちのした悪や、あらゆる忌み嫌うべきことを、彼ら自らが嫌うようになるとき、
- 10 彼らは、わたしが主であること、また、わたしが理由もなく、このわざわいを彼らに下すと言ったのではないことを知る。』」
- 11 神である主はこう言われる。「あなたは手をたたき、足を踏み鳴らして、イスラエルの家の、忌み嫌うべきすべての悪のゆえに、『ああ』と嘆け。彼らが剣と飢饉と疫病によって倒れるからだ。
- 12 遠くにいる者は疫病で死に、近くにいる者は剣に倒れ、生き残って監視されている者は飢饉で死ぬ。こうして、わたしは彼らに対する激しい憤りを終わらせる。

- 13 彼らのうちの刺し殺された者たちが、祭壇の周りの自分たちの偶像の間に、すべての高い丘の上や山々の頂に、すべての青々とした木の下や、すべての茂った榎の木の下に、すなわち、彼らがあらゆる偶像に芳ばしい香りを供えた場所に横たわるとき、あなたがたは、わたしが主であることを知る。
- 14 わたしが彼らの上に手を伸ばし、すべて彼らの住む所、荒野からリブラまでの地を完全に荒廃した地とするとき、彼らは、わたしが主であることを知る。」

第7章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ、あなたは言え。『イスラエルの地に対して神である主はこう言われる。終わりが来た。終わりが来た。この国の四隅にまで。
- 3 今、あなたに終わりが臨む。わたしは怒りをあなたのうちに送り、あなたの生き方にしたがってあなたをさばき、あなたのすべての忌み嫌うべきわざに報いる。
- 4 わたしはあなたにあわれみをかけない。わたしはあなたを惜しまない。忌み嫌うべきことが、あなたの中にあるうちに、わたしはあなたの行いをあなたの上に返す。そのときあなたがたは、わたしが主であることを知る。
- 5 神である主はこう言う。わざわいだ。類のないわざわいだ。見よ、それは来る。
- 6 終わりが来る。終わりが来る。あなたのために機が熟した。見よ、それは来る。
- 7 地に住む者よ、あなたの上に終局が来る。その時が来る。その日は近い。山々での歓声の日ではなく、恐慌の日だ。
- 8 今、間もなく、わたしは憤りをあなたに注ぎ、わたしの怒りをあなたに出し尽くす。あなたの生き方のとおりにあなたをさばき、あなたのすべての忌み嫌うべきわざに報いる。
- 9 わたしはあわれみをかけない。惜しまない。忌み嫌うべきことが、あなたの中にあるうちに、わたしはあなたの行いのとおりに報いる。このとき、あなたがたは知る。わたしがあなたがたを打つ主であることを。
- 10 見よ、その日だ。その日が来る。あなたの終局が来ている。杖がつぼみを出し、横柄さを花咲かせた。
- 11 暴虐が起こって悪の杖となり、彼らもその群衆も、彼らの富もなくなり、彼らのために嘆く者もいなくなる。
- 12 その時が来た。その日がやって来た。買う者も喜ぶな。売る者も嘆くな。燃える怒りがそのすべての群衆に臨むからだ。
- 13 両者が生き延びても、売る者は、売った物を取り戻せないからだ。群衆すべてに関わる幻は取り消すことができず、だれもが自分の不義のうちにいるため、奮い立って生きることができないからだ。
- 14 ラッパが吹き鳴らされ、すべての準備ができて、戦いに行く者はいない。わたしの燃える怒りが群衆すべてに臨むからだ。
- 15 外には剣、内には疫病と飢饉。野にいる者は剣で死に、町にいる者を飢饉と疫病が滅ぼし尽くす。
- 16 逃れた者たちが逃れて山々の上にも、谷間の鳩のようにみな泣き悲しむ。自分の不義のゆえに。

- 17 どの手も力無く垂れ下がり、どの膝も震える。
- 18 彼らは粗布を身にまとい、戦慄に包まれ、みな恥じて顔を赤くし、彼らの頭からは毛が引き抜かれる。
- 19 彼らの銀は道端に投げ捨てられ、彼らの金は不浄の物のようになる。彼らの銀も金も、主の激しい怒りの日に彼らを救い出すことはできない。銀も金も、彼らの欲望を満足させることも、彼らの腹を満たすこともできない。それは彼らを不義に引き込むものであったから。
- 20 彼らはこれを、美しい飾り物として誇り、これで自分たちのために忌み嫌うべきもの、忌まわしいものの像を造った。だから、わたしはそれを不浄の物とする。
- 21 わたしはそれを他国人の手に獲物として、地の悪者どもに分捕り物として渡し、それを汚させる。
- 22 わたしは彼らから顔を背け、わたしが秘宝とする所は汚される。無法者がそこに入り込み、そこを侵す。
- 23 鎖を作れ。この国は流血のさばきに満ち、この都は暴虐に満ちているからだ。
- 24 わたしは異邦の民の最も悪い者どもを来させて、彼らの家々を占領させ、有力者たちの高ぶりをくじき、彼らのもろもろの聖所を汚させる。
- 25 恐怖がやって来る。彼らは平安を求めが、それはない。
- 26 災難の上に災難が訪れ、うわさがうわさを生む。彼らは預言者に幻を求めるようになる。祭司から律法が、長老から助言が失われる。
- 27 王は喪に服し、君主は恐怖に包まれ、民衆の手はわななく。わたしが、彼らの行いにしたがって彼らに報い、彼らのやり方にしたがって彼らをさばくとき、彼らは、わたしが主であることを知る。』」

第8章

- 1 第六年の第六の月の五日、私が自分の家に座っていて、ユダの長老たちも私の前に座していたとき、神である主の御手がそこで私の上を下った。
- 2 私が見ると、火のように見える姿があった。その腰と見えるところから下の方が火であり、腰から上の方が琥珀のきらめきのように輝いて見えた。
- 3 すると、その方は手の形をしたものを伸ばし、私の髪の手をつかまれた。すると、霊が私を地と天の間に持ち上げ、神々しい幻のうちに私をエルサレムへと携え行き、ねたみを引き起こす「ねたみ」という像がある、北に面した内門の入り口に連れて行った。
- 4 なんと、そこには、私がかつて平地で見た幻と同じような、イスラエルの神の栄光があった。
- 5 その方は私に言われた。「人の子よ。さあ、目を上げて北の方を見よ。」私が目を上げて北の方を見ると、なんと、北の方の祭壇の門の入り口に「ねたみ」という像があった。
- 6 この方は私に言われた。「人の子よ。あなたには彼らのしていることが見えるか。イスラエルの家は、わたしの聖所から遠く離れようとして、ここで大きな忌み嫌うべきことをしているではないか。あなたはなおもまた、大きな忌み嫌うべきことを見る。」
- 7 それから、この方は私を庭の入り口に連れて行かれた。見ると、壁に一つの穴があった。
- 8 この方は私に言われた。「人の子よ。さあ、壁に穴を開けて通り抜けよ。」私が壁に穴を開けて通り抜けると、一つの入り口があった。

- 9 この方は私に言われた。「入って行き、彼らがここでしている悪い忌み嫌うべきことを見よ。」
- 10 私が入って行って見ると、なんと、這うものや動物のあらゆる形、すなわち忌むべきものや、イスラエルの家のすべての偶像が、周りの壁一面に彫られていた。
- 11 また、イスラエルの家の七十人の長老が、その前に立っていて、その中にはシャファンの子ヤアザンヤも立っていた。彼らはみなその手に香炉を持ち、香の濃い雲が立ち上っていた。
- 12 この方は私に言われた。「人の子よ。あなたは、イスラエルの家の長老たちが、暗闇の中、それぞれ自分自身の偶像の部屋で行っていることを見たか。彼らは、『主は私たちを見ておられない。主はこの地を見捨てられた』と言っているのだ。」
- 13 また私に言われた。「あなたはなおもまた、彼らが行っている大きな忌み嫌うべきことを見る。」
- 14 それから、この方は私を主の宮の北の門の入り口へ連れて行かれた。するとそこには、女たちがタンムズのために泣きながら座っていた。
- 15 この方は私に言われた。「見たか、人の子よ。あなたはなおもまた、これよりも大きな忌み嫌うべきことを見る。」
- 16 それから、この方は私を主の宮の内庭に連れて行かれた。すると、なんと、主の神殿の入り口、すなわち、玄関広間と祭壇との間に二十五人ばかりの人がいた。彼らは主の神殿に背を向け、顔を東の方に向けていた。東の方を向いて、太陽を拝んでいた。
- 17 この方は私に言われた。「見たか、人の子よ。ユダの家にとって、彼らがここでしているような忌み嫌うべきことをするのは、些細なことだろうか。彼らはこの地を暴虐で満たし、わたしの怒りをいっそう駆り立てている。見よ、彼らはぶどうのつるを自分たちの鼻にさしているではないか。
- 18 だから、わたしも激しい憤りをもって応じる。わたしはあわれみをかけない。わたしは彼らを惜しまない。彼らがわたしの耳に大声で叫んでも、わたしは彼らの言うことを聞かない。」

第9章

- 1 この方は私の耳に大声で叫ばれた。「破壊する武器をそれぞれ手に持った、この都を罰する者たちを連れて来い。」
- 2 見ると、六人の男が、それぞれ打ち壊す武器を手に持って、北に面する上の門を通過してやって来た。もう一人の人が、亜麻布の衣をまとい、腰には書記の筆入れを付けて、彼らの中にいた。彼らは入って来て、青銅の祭壇のそばに立った。
- 3 ケルビムの上にあったイスラエルの神の栄光が、ケルビムから立ち上り、神殿の敷居へ向かっていた。腰に書記の筆入れを付け、亜麻布の衣をまとっている者と呼ばせて、
- 4 主は彼にこう言われた。「都の中、エルサレムの中を行き巡り、ここで行われているすべての忌み嫌うべきことを嘆き悲しんでいる人々の額に、しるしをつけよ。」
- 5 また、私が聞いていると、ほかの者たちに主はこう言われた。「この者の後について都の中を行き巡って、打ち殺せ。あわれみをかけてはならない。惜しんではならない。
- 6 年寄りも、若い男も、若い娘も、幼子も、女たちも殺して滅ぼせ。しかし、しるしが付けられた者には、だれにも近づいてはならない。まず、わたしの聖所から始めよ。」そこで、彼らは神殿の前にいた老人たちから始めた。

- 7 それから主は彼らに言われた。「神殿を汚し、庭を刺し殺された者で満たせ。さあ、行け。」彼らは出て行って、都の中で打ち殺した。
- 8 彼らが打ち殺しているとき、私だけが残された。私はひれ伏して叫んだ。「ああ、神、主よ。あなたはエルサレムの上にあなたの憤りを注ぎ出し、イスラエルの残りの者たちを、ことごとく滅ぼされるのですか。」
- 9 主は私に言われた。「イスラエルとユダの家の咎は非常に大きく、地は流血で満ち、都も不正で満ちている。彼らは『主はこの地を見捨てられた。主は見ておられない』と言っているのだ。
- 10 だから、わたしもあわれみをかけない。わたしは惜しまない。わたしは彼らの頭上に彼らの行いを返す。」
- 11 そのとき、腰に筆入れを付け、亜麻布の衣をまとった、あの人がかう報告した。「私は、あなたが私に命じられたとおりに行いました。」

第10章

- 1 私が見ていると、ケルビムの頭上の大空に、サファイアのような、王座に似たものがあり、それがケルビムの上に現れた。
- 2 主は亜麻布の衣をまとった者に命じられた。「ケルビムの下にある車輪の間に入り、ケルビムの間の炭火をあなたの両手に満たし、それを都の上にまき散らせ。」この人は私の目の前でここに入って行った。
- 3 その人が入って行ったとき、ケルビムは神殿の南側に立っていて、雲がその内庭を満たしていた。
- 4 主の栄光がケルビムの上から上り、神殿の敷居に向かった。神殿は雲で満たされ、また、庭は主の栄光の輝きで満たされた。
- 5 そのとき、ケルビムの翼の音が外庭にまで聞こえた。それは、全能の神が語られるときの声のようであった。
- 6 主が亜麻布の衣をまとった者に「車輪の間、ケルビムの間から火を取れ」と命じられると、この人は入って行き、輪のそばに立った。
- 7 すると、ケルビムのひとりがケルビムの中から、ケルビムの間にある火の方に手を伸ばして、その火を取り、亜麻布の衣をまとった者の両手にそれを盛った。この人はそれを受け取ると、出て行った。
- 8 ケルビムの翼の下には人間の手の形があった。
- 9 私が見ると、ケルビムのそばに四つの輪があり、一つの輪は一方のケルビムのそばに、もう一つの輪はもう一方のケルビムのそばに、それぞれあった。その輪は緑柱石の輝きのように見えた。
- 10 それらの形は四つとも同じで、一つの輪がもう一つの輪の中にあるようであった。
- 11 それらが進むとき、それらは四方のどの方向にも進み、進むときには向きを変えなかった。なぜなら、頭が向かうところにほかの輪も従い、それらが進むときには向きを変えなかったからである。
- 12 それらのからだ全体と、その背、その手、その翼、さらに輪、すなわちその四つの輪には、周りに目がたくさん付いていた。

- 13 私はそれらの輪が「車輪」と呼ばれるのを聞いた。
- 14 それぞれに四つの顔があり、第一の顔はケルビムの顔、第二の顔は人間の顔、第三の顔は獅子の顔、第四の顔は鷲の顔であった。
- 15 そのとき、ケルビムは飛び立った。それは、私がかつてケバル川のほとりで見た生きものであった。
- 16 ケルビムが行くと輪もそのそばを進み、ケルビムが翼を広げて地上から上るとき輪もそのそばを離れず、向きを変えなかった。
- 17 ケルビムが止まると輪も立ち止まり、ケルビムが上ると輪も一緒に上った。生きものの霊が輪の中にあっただからである。
- 18 主の栄光が神殿の敷居から出て行って、ケルビムの上にとどまった。
- 19 すると、ケルビムは翼を広げて、私の目の前で地上から上って行った。出て行くとき、輪もそのそばについて行き、主の宮の東の門の入り口で止まった。イスラエルの神の栄光が彼らの上にあった。
- 20 彼らは、かつて私がケバル川のほとりで、イスラエルの神の下に見た生きものであった。私は彼らがケルビムであることを知った。
- 21 彼らはそれぞれ四つの顔と、それぞれ四つの翼を持っていた。その翼の下には人間の手のようなものがあつた。
- 22 彼らの顔かたち、それは、私がかつてケバル川のほとりでその容貌と姿を見たとおりの顔であつた。彼らはみな、前の方へまっすぐに進んで行った。

第11章

- 1 霊は私を引き上げて、主の宮の東に面した東の門に連れて行った。見よ、その門の入り口には二十五人の者がいた。そしてその中に、民の長であるアズルの子ヤアザンヤと、ベナヤの子ペラテヤがいるのを私は見た。
- 2 主は私に言われた。「人の子よ。この者たちは、この都でよこしまなことを謀り、悪いはかりごとをめぐらし、
- 3 『当分、家を建てなくともよい。この都は鍋であり、われわれはその肉だ』と言っている。
- 4 だから、彼らに向かって預言せよ。人の子よ、預言せよ。」
- 5 主の霊が私に下り、私に言われた。「あなたは言え。『主はこう言われる。イスラエルの家よ。あなたがたはあのように言ったが、わたしは、あなたがたの霊の思いをよく知っている。
- 6 あなたがたはこの都で、刺し殺された者を増し加え、都の通りを刺し殺された者で満たした。
- 7 それゆえ、神である主はこう言われる。あなたがたが町の中に横たえた、刺し殺された者こそが肉であり、この町は鍋である。しかしわたしは、あなたがたをその中から連れ出す。
- 8 あなたがたは剣を恐れているが、わたしはあなたがたの上に剣をもたらず—神である主のことば—。
- 9 わたしはあなたがたを町から連れ出して、他国人の手に渡し、あなたがたにさばきを下す。
- 10 あなたがたが剣に倒れ、わたしがイスラエルの国境であなたがたをさばくとき、あなたがたは、わたしが主であることを知る。

- 11 この都はあなたがたにとって鍋とはならず、あなたがたはその中の肉とはならない。わたしは、イスラエルの国境でああなたがたをさばく。
- 12 あなたがたは、わたしが主であることを知る。あなたがたが、わたしの掟に従って歩まず、わたしの定めを守らず、あなたがたの周りの国々の慣わしに従ったからである。』」
- 13 私が預言していたとき、ベナヤの子ペラテヤが死んだ。それで、私はひれ伏して大声で叫んだ。「ああ、神、主よ。あなたはイスラエルの残りの者たちを滅ぼし尽くされるのでしょうか。」
- 14 そのとき、次のような主のことばが私にあった。
- 15 「人の子よ。エルサレムの住民は、あなたの兄弟、同胞、あなたに買い戻しの権利がある親類の者たち、またイスラエルの全家のすべての者に対して、こう言った。『主から遠く離れよ。この地はほかでもないわれわれの所有地として与えられているのだ。』
- 16 それゆえ言え。『神である主はこう言われる。わたしは彼らを遠く異邦の民の中へ移し、国々の中に散らした。しかし、わたしは彼らが行ったその国々で、しばらくの間、彼らの聖所となっていた。』
- 17 それゆえ言え。『神である主はこう言われる。わたしはあなたがたを諸国の民の中から集め、あなたがたが散らされていた国々からあなたがたを呼び寄せ、あなたがたにイスラエルの地を与える。』
- 18 彼らがそこに来るとき、すべての忌まわしいもの、すべての忌み嫌うべきものをそこから取り除く。
- 19 わたしは彼らに一つの心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしは彼らのからだから石の心を取り除き、彼らに肉の心を与える。
- 20 こうして、彼らはわたしの掟に従って歩み、わたしの定めを守り行う。彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。
- 21 しかし、忌むべきもの、忌み嫌うべきものの心を、自分の心として歩む者には、その行いを頭上に返す一神である主のことば。」
- 22 するとケルビムは翼を広げ、輪もその横についた。イスラエルの神の栄光がその上の方にあった。
- 23 主の栄光はその都の中心から上って、都の東にある山の上にとどまった。
- 24 霊は私を引き上げて、幻のうちに、私をカルデアにいる捕囚の民のところへ、神の霊によって連れて行った。そして、私が見たその幻は、私から去って上って行った。
- 25 私は、主が私に示されたことをことごとく捕囚の民に告げた。

第12章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ。あなたは反逆の家の中に住んでいる。彼らは見る目があるのに見ず、聞く耳があるのに聞こうとしない。彼らが反逆の家だからである。
- 3 人の子よ。あなたは捕囚のための荷物を整え、彼らが見ている前で、昼のうちに移れ。彼らの見ている前で、今いる場所からほかの場所へ移れ。もしかしたら、彼らに自分たちが反逆の家であることが分かるかもしれない。

- 4 あなたは、昼のうちに彼らが見ている前で、自分の荷物を捕囚のときの荷物のようにして持ち出せ。そして、捕囚に行く人々のように、彼らの見ている前で夕方出て行け。
- 5 彼らの見ている前で壁に穴を開け、そこから荷物を運び出せ。
- 6 彼らの見ている前で、あなたは荷物を肩に担ぎ、暗いうちに出て行き、顔をおおって地を見るな。わたしがあなたをイスラエルの家のためにしるしとするからだ。」
- 7 そこで、私は命じられたとおりにした。自分の荷物を捕囚のときの荷物のようにして昼のうちに持ち出し、夕方、自分の手で壁に穴を開け、彼らの見ている前で、暗いうちに荷物を背負って出て行った。
- 8 翌朝、私に次のような主のことばがあった。
- 9 「人の子よ。反逆の家、イスラエルの家は、あなたに『何をしているのか』と尋ねなかったか。
- 10 彼らに言え。『神である主はこう言われる。この宣告は、エルサレムの君主、およびそこにいるイスラエルの全家に関わるものである。』
- 11 また言え。『私は、あなたがたへのしるしである。私がしたようなことが彼らにもなされる。彼らは捕囚となって引いて行かれる。
- 12 彼らのうちにいる君主は、暗いうちに荷物を背負って出て行く。出て行けるように壁に穴が開けられる。彼は顔をおおう。自分の目でその地を見ることはもうないからである。』
- 13 わたしはまた、彼の上にわたしの網をかけ、彼はわたしの罨にかかる。わたしは彼をカルデア人の地、バビロンへ連れて行く。しかし、彼はその地を見ずに、そこで死ぬ。
- 14 わたしはまた、周囲にいて彼を助ける者たちや、彼の軍隊をみな四方に追い散らし、剣を抜いて彼らの後を追う。
- 15 わたしが彼らを諸国の間に散らし、国々に追い散らすとき、彼らは、わたしが主であることを知る。
- 16 わたしは彼らの中のわずかな者を、剣や飢饉や疫病から免れさせる。こうして彼らは、行く先の国々の中で、自分たちのした忌み嫌うべきわざをことごとく語り告げるようになる。そのとき彼らは、わたしが主であることを知る。」
- 17 次のような主のことばが私にあった。
- 18 「人の子よ。震えながらあなたのパンを食べ、おののきながら、恐る恐るあなたの水を飲め。
- 19 この国の人々に言え。『神である主は、イスラエルの地にいるエルサレムの住民について、こう言われる。彼らは自分たちのパンを恐る恐る食べ、自分たちの水をおびえながら飲むようになる。こうしてその地は、そこに住むすべての者の暴虐のゆえに痩せ衰える。
- 20 人の住んでいた町々が廃墟となり、その地が荒れ果てるそのとき、あなたがたは、わたしが主であることを知る。』」
- 21 次のような主のことばが私にあった。
- 22 「人の子よ。あなたがたがイスラエルの地について、『日は延ばされ、すべての幻は消え失せる』と言っている、あのことわざは何なのか。
- 23 それゆえ、彼らに言え。『神である主はこう言われる。わたしは、あのことわざをなくす。イスラエルでは、もうそのように言わなくなる。』かえって、彼らにこう告げよ。『その日は近づき、幻のすべては実現する』と。
- 24 もう、むなしい幻も、へつらいの占いも、ことごとくイスラエルの家からなくなるからだ。

- 25 それは、主であるわたしが語り、わたしが語ったことを実現し、決して引き延ばさないからだ。反逆の家よ。あなたがたが活着ているうちに、わたしは言ったことを実現させる—神である主のことば。」
- 26 次のような主のことばが私にあった。
- 27 「人の子よ。今、イスラエルの家は言っている。『彼が見ている幻はずっと後のことについてであり、はるか遠い将来について預言しているのだ。』
- 28 それゆえ、彼らに言え。『神である主はこう言われる。わたしのすべてのことば、わたしが語ることは、もはや引き延ばされることはなく、必ず成就する—神である主のことば。』」

第13章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ。預言をしているイスラエルの預言者どもに対して預言せよ。自分の心のままに預言する者どもに向かって言え。『主のことばを聞け。』
- 3 神である主はこう言われる。わざわざいだ。自分で何も見ないのに、自分の霊に従う愚かな預言者ども。
- 4 イスラエルよ。あなたの預言者どもは、廢墟にいる狐のようになった。
- 5 あなたがたは、主の日の戦いに耐えられるように、破れ口に上ったり、イスラエルを築いたりしなかった。
- 6 彼らはむなしい幻を見、まやかしの占いをし、「主のことば」などと言っている。主が彼らを遣わしたのではないのに。しかも、彼らはそのことが成就するのを待ち望んでいる。
- 7 あなたがたが見ているのはむなしい幻、あなたがたが語るのはまやかしの占いではないか。「主のことば」などと言っているが、わたしが語っているのではない。
- 8 それゆえ、神である主はこう言われる。あなたがたは、むなしいことを語り、まやかしの幻を見てきた。それゆえ今、わたしはあなたがたに敵対する—神である主のことば—。
- 9 わたしは、むなしい幻を見、まやかしの占いをしている預言者どもに手を下す。彼らはわたしの民の交わりに加えられず、イスラエルを築いた家の文書にもその名を記されぬ。イスラエルの地にも入ることができない。そのときあなたがたは、わたしが神、主であることを知る。
- 10 実に彼らは、平安がないのに「平安」と言って、わたしの民を惑わし、壁を築くとすぐ、それに漆喰で上塗りをしてしまう。
- 11 漆喰で上塗りをする者どもに言え。それははがれ落ちる、と。豪雨が起り、わたしが雷を降らせ、激しい風を吹きつけると、
- 12 壁は落ちる。人々はあなたがたに向かって「上塗りをした漆喰はどこにあるのか」と言わないだろうか。
- 13 それゆえ、神である主はこう言われる。わたしは、憤りによって激しい風を吹きつける。怒りによって豪雨が起り、激しい憤りによって破壊のための雷が降る。
- 14 あなたがたが漆喰で上塗りした壁を、わたしが壊し、地に倒してしまうので、その土台までもあらわにされる。それが倒れ落ち、あなたがたがその中で滅びるとき、あなたがたは、わたしが主であることを知る。
- 15 わたしは、その壁と、それを漆喰で上塗りした者どもへのわたしの憤りを終わらせて、あなたがたに言う。「壁もなくなり、それに漆喰を塗った者どももいなくなった」と。

- 16 エルサレムについて預言し、平安がないのに平安の幻を見ていたイスラエルの預言者どもよ—神である主のことば。』
- 17 人の子よ。あなたは、自分の心のままに預言するあなたの民の娘たちに顔を向け、彼女たちに預言せよ。
- 18 『神である主はこう言われる。わざわざいだ。どの人の手首にも呪法のひもを縫い合わせ、あらゆる高さの頭にも合うようにベールを作って、人々のたましいを罨にかける女たち。あなたがたは、わたしの民のたましいを罨にかけ、自分たちのたましいのために人々を生かしているのだ。
- 19 あなたがたは、ひとつかみの大麦のため、少しばかりのパンのために、まやかしに聞き従うわたしの民にまやかしを行い、死んではならないたましいを死なせ、生きていてはならないたましいを生かして、わたしの民のうちでわたしを汚した。
- 20 それゆえ、神である主はこう言われる。見よ。あなたがたが、鳥を捕るように人々のたましいを罨にかけた、呪いのひもにわたしは敵対する。それらをあなたがたの腕からもぎ取り、あなたがたが鳥を捕るように罨にかけたたましいを、わたしは解き放つ。
- 21 わたしはあなたがたのベールをはがし、わたしの民をあなたがたの手から救い出す。罨にかかった者たちは、もうあなたがたの手のうちにはいなくなる。そのときあなたがたは、わたしが主であることを知る。
- 22 あなたがたは、わたしが悲しませなかったのに、正しい人の心を偽りで悲しませた。悪しき者を力づけ、彼が悪の道から立ち返って生きることがないようにした。
- 23 それゆえ、あなたがたは、もう、むなしい幻を見ることができず、占いもできなくなる。わたしは、わたしの民をあなたがたの手から救い出す。そのときあなたがたは、わたしが主であることを知る。』」

第14章

- 1 イスラエルの長老たちの何人かが来て、私の前に座った。
- 2 そのとき、私に次のような主のことばがあった。
- 3 「人の子よ。これらの者たちは自分たちの偶像を心の中に秘め、自分たちを不義に引き込むものを、顔の前に置いている。わたしは、どうして彼らに应じられるだろうか。
- 4 それゆえ、彼らに告げて、こう言え。『神である主はこう言われる。心の中に偶像を秘めて、不義に引き込むものを自分の顔の前に置きながら、預言者のところに来るすべてのイスラエルの家の者には、その偶像の多さに応じて、主であるわたしが答える。
- 5 こうして、偶像のゆえにみなわたしから離されてしまったイスラエルの家の心を、わたしがとらえる。』
- 6 それゆえ、イスラエルの家に言え。『神である主はこう言われる。立ち返れ。あなたがたのすべての偶像から身を翻せ。すべての忌み嫌うべきものをあなたがたの前から遠ざけよ。
- 7 イスラエルの家の者でも、イスラエルに寄留している者でも、だれでもわたしから離れ、心の中に偶像を秘めて、自分を不義に引き込むものを顔の前に置きながら、わたしに尋ねようと預言者のところに来る者には、主であるわたし自身が答える。
- 8 わたしはそのような者に敵対してわたしの顔を向け、彼をしるしとし、語りぐさとして、わたしの民の間から絶ち滅ぼす。そのときあなたがたは、わたしが主であることを知る。

- 9 もし預言者が惑わされてことばを語るなら、主であるわたしがその預言者を惑わしたのである。わたしはその者に手を伸ばして、わたしの民イスラエルのうちから根絶やしにする。
- 10 このような者たちは自分の咎を負う。その預言者の咎と、尋ね求めた者の咎は同じである。
- 11 こうしてイスラエルの家は、もうわたしから迷い出ることはなく、重ねて自分たちの背きによって自分自身を汚すことはなくなる。彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる—神である主のことば。』」
- 12 次のような主のことばが私にあった。
- 13 「人の子よ。国が、わたしに対して罪あるものとなって信頼を裏切り、そのためわたしがその国に手を伸ばし、そこのパンの蓄えをなくし、その国に飢饉を送り、人や家畜をそこから絶ち滅ぼすとき、
- 14 たとえ、そこにノアとダニエルとヨブの、これら三人の者がいても、彼らは自分たちの義によって自分たちのいのちを救い出すだけだ—神である主のことば—。
- 15 もし、その国にわたしが悪い獣を行き巡らせ、それを不毛にし、荒れ果てさせ、獣ゆえに通る過ぎる者もいなくなるなら、
- 16 たとえ、その中にこれら三人の者がいても—わたしは生きている。神である主のことば—彼らは決して自分の息子も娘も救い出すことはできない。ただ彼ら自身だけが救い出され、その地は荒れ果てる。
- 17 あるいは、わたしがその地の上に剣をもたらし、『剣よ、この地を歩き巡れ』と言って、人や家畜をそこから絶ち滅ぼすとき、
- 18 たとえ、その地にこれら三人の者がいても—わたしは生きている。神である主のことば—彼らは決して自分の息子も娘も救い出すことはできない。ただ彼ら自身だけが救い出される。
- 19 あるいは、わたしがその地に疫病を送って、人や家畜をそこから絶ち滅ぼすために、流血をもってわたしの憤りをその地に注ぐとき、
- 20 たとえ、そこにノアとダニエルとヨブがいても—わたしは生きている。神である主のことば—彼らは決して息子も娘も救い出すことはできない。彼らは自分たちの義によって自分たちのいのちを救い出すだけだ。」
- 21 まことに、神である主はこう言われる。「人や家畜を絶ち滅ぼすために、わたしが剣と飢饉と悪い獣と疫病の、四つのひどい刑罰をエルサレムに送るとき、
- 22 見よ。そこに逃れの者が残っていて、息子や娘たちを連れ出し、あなたがたのところに来て来る。あなたがたは彼らの生き方と行いを見て、わたしがエルサレムにもたらしたわざわいと、わたしがそこにもたらしたことすべてについて、慰めを受ける。
- 23 あなたがたは、彼らの生き方と行いを見て慰められる。このとき、あなたがたは、わたしがそこでしたすべてのことは、理由もなくしたのではないことを知る—神である主のことば。」

第15章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ。ぶどうの木は森の木立の中であって、ほかの木より枝がどれだけすぐれているのか。
- 3 何か役に立つものを作る木材が、そこからとれるというのか。それとも、何かの器具を掛ける木鉤を作ることができるというのか。

- 4 見よ。それは薪として火に投げ入れられ、火がその両端を焼き尽くす。その中まで焦げてしまえば、それは何の役に立つだろうか。
- 5 見よ。それが完全なときでも何も作れないのに、まして、火がそれを燃やして焦がせば、それで何が作れるだろうか。」
- 6 それゆえ、神である主はこう言われる。「わたしが薪として火に投げ入れた、森の木立の間のぶどうの木のように、わたしはエルサレムの住民を火に投げ入れる。
- 7 わたしは彼らに敵対して顔を向ける。彼らが火から逃れても、火は彼らを焼き尽くす。わたしが彼らに顔を向けるそのとき、あなたがたはわたしが主であることを知る。
- 8 彼らがわたしの信頼を裏切ったので、わたしはこの地を荒れ果てさせる—神である主のことば。」

第16章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ。エルサレムにその忌み嫌うべきわざを告げ知らせよ。
- 3 『神である主はエルサレムについてこう言われる。あなたの出身、あなたの生まれはカナン人の地、あなたの父はアモリ人、あなたの母はヒッタイト人であった。
- 4 あなたの生まれについて言えば、あなたが生まれた日に、あなたは、へその緒を切られず、水で洗いきよめられず、塩でこすられず、布で包まれることもなかった。
- 5 だれもあなたにあわれみをかけず、これらのことの一つでもあなたにしてやって、あなたに同情しようとはしなかった。あなたの生まれた日に、あなたは嫌われ、野に捨てられた。
- 6 わたしがあなたのそばを通りかかったとき、あなたが自分の血の中でもがいているのを見て、わたしは血に染まったあなたに「生きよ」と言い、血に染まったあなたに、繰り返して「生きよ」と言った。
- 7 わたしはあなたを野原の新芽のように育て上げた。あなたは成長して大きくなり、十分に成熟して、乳房はふくらみ、髪も伸びた。しかし、あなたは丸裸であった。
- 8 わたしがそばを通りかかってあなたを見ると、ちょうど、あなたは恋をする年ごろになっていた。わたしは衣の裾をあなたの上に広げ、あなたの裸をおおった。わたしはあなたに誓って、あなたと契りを結んだ—神である主のことば—。そして、あなたはわたしのものとなった。
- 9 わたしはあなたを水で洗い、あなたの血を洗い落とし、あなたに油を塗った。
- 10 わたしはまた、あや織りの衣服をあなたに着せ、じゅごんの皮の履き物をはかせ、亜麻布をかぶらせ、絹物でおおった。
- 11 それから、わたしは飾り物であなたを飾り、腕には腕輪をはめ、首には首飾りをかけ、
- 12 鼻には鼻輪、両耳には耳輪を着け、頭には輝かしい冠をかぶらせた。
- 13 あなたは金や銀で飾られ、亜麻布や絹やあや織物を着て、上等の小麦粉や蜜や油を食べた。こうして、あなたは非常に美しくなり、女王の位に進んだ。
- 14 あなたの美しさのゆえに、あなたの名は国々の間に広まった。それは、わたしがあなたにまとわせた、わたしの飾り物が完全であったからだ—神である主のことば。
- 15 ところが、あなたは自分の美しさに拠り頼み、自分の名声に乗じて姦淫を行い、通りかかる人がいれば、だれにでも身を任せて姦淫をした。

- 16 あなたはまた、自分の衣服を取り出して、自分のために、斑に色どった高き所を造り、その上で淫行を行った。このようなことはかつてなく、あってはならないことだ。
- 17 あなたは、わたしが与えた金や銀の美しい品々を取って、自分のために男の像を造り、それらと姦淫を行った。
- 18 あなたはまた、あや織りの衣を取って、それらの像をおおい、わたしの油と、わたしの香をその前に供えた。
- 19 あなたは、わたしが与えたわたしのパンや、あなたに食べさせた上等の小麦粉や、油や蜜までも、その前に供えて芳ばしい香りとした。そうではなかったか—神である主のことば—。
- 20 あなたはまた、わたしのために産んだ自分の息子や娘たちを取り、それらの像にいけにえとして献げて食べさせた。これでもまだ、あなたは姦淫が十分ではないかのように、
- 21 わたしの子どもたちを殺し、これを焼いて、ささげ物とした。
- 22 あらゆる忌み嫌うべきことや姦淫をしているとき、あなたは、かつて自分が丸裸のまま、血の中でもがいていた若いころのことを思い出さなかった。
- 23 あなたはこのすべての悪行の後で—ああ、何ということか。神である主のことば—
- 24 どの広場にも自分のために祭儀台を設け、高台を造り、
- 25 道のどの分かれ目にも高台を築き、通りかかるすべての人に身を任せ、姦淫を重ねて、自分の美しさを汚した。
- 26 あなたは、良いからだをした隣のエジプト人と姦通し、ますます姦淫を重ねて、わたしの怒りを引き起こした。
- 27 見よ、わたしは、あなたに手を伸ばして、あなたの食糧を減らした。そして、あなたを憎み、あなたの淫らな行いによって辱めを受けたペリシテ人の娘たちの欲望にあなたを委ねた。
- 28 あなたは飽き足りず、アッシリア人と姦通した。彼らと姦通しても、まだ飽き足りず、
- 29 商業の地カルデアとますます姦淫を重ねたが、それでも、あなたは飽き足りなかった。
- 30 あなたの心は、なんと燃え盛っていることか—神である主のことば—。厚かましい遊女のするようなこれらのことを、ことごとく行うとき。
- 31 あなたはどの通りの角にも自分の祭儀台を設け、どの広場にも高台を造った。しかし、あなたは報酬を嘲ったので、遊女ようではなかった。
- 32 姦婦は自分の夫の代わりに、ほかの男と通じるものだ。
- 33 すべて遊女には代価が支払われるのに、あなたは自分のほうから愛人たちすべてに持参金を与え、贈り物もして、四方からあなたのところに来させて姦淫をした。
- 34 だから、あなたの姦淫はほかの女の場合と反対だ。だれも、あなたを求めて姦淫をする者はいなかった。あなたが報酬を支払い、あなたには、だれも報酬を支払わなかった。あなたは反対のことをしたのだ。
- 35 それゆえ、遊女よ、主のことばを聞け。
- 36 神である主はこう言われる。あなたは愛人たちや忌み嫌うべき偶像と姦淫をして、自分の恥ずかしいところを見せ、自分の裸をあらわにし、それらに自分の子を献げて血を流したのだ。
- 37 それゆえ、見よ。わたしは今、あなたが戯れたすべての愛人たちや、あなたが恋した者や、憎んだ者をすべて寄せ集め、彼らを四方から集めて、あなたの裸を彼らにさらけ出す。彼らは丸裸のあなたを見る。

- 38 わたしは、姦通した女と殺人を犯した女に下す罰によってあなたをさばき、ねたみと憤りをもってあなたの血に報いる。
- 39 わたしはあなたを彼らの手に委ねる。彼らはあなたの祭儀台を壊し、高台を打ち壊し、あなたの着ている物をはぎ取り、あなたの美しい品々を奪い取り、あなたを丸裸にしておく。
- 40 彼らは集団をあおってあなたを襲わせ、石であなたを打ち殺し、剣であなたを八つ裂きにする。
- 41 そのうえ、あなたの家々を火で焼き、多くの女たちの目の前であなたにさばきを下す。こうして、わたしはあなたの淫行をやめさせる。あなたはもう報酬を支払わなくなる。
- 42 わたしはあなたに対する憤りを収めるので、わたしのねたみはあなたから離れる。わたしは安んじて、二度と怒ることはない。
- 43 あなたが、自分の若かった日々を思い出さず、かえって、これらすべてのことでわたしを怒らせたので、見よ、わたしもまた、あなたの頭上にあなたの行いを返す一神である主のことば一。あなたはすべての忌み嫌うべきわざに、淫らな行いを加えなかったか。
- 44 見よ。ことわざを用いる者は、あなたについてこういうことわざを用いる。「あの母にして、この娘あり」と。
- 45 あなたは、自分の夫と子どもを嫌った母の娘。自分たちの夫や子どもを嫌った姉妹があなたの姉妹。あなたがたの母はヒッタイト人、あなたがたの父はアモリ人であった。
- 46 あなたの姉は、その娘たちと一緒にあなたの北に住んでいるサマリアであり、あなたの妹は、その娘たちと一緒にあなたの南に住んでいるソドムである。
- 47 あなたは彼女たちの道に歩み、彼女たちのした忌み嫌うべきわざをまねなかつただろうか。ほんのわずかの間に、あなたはすべての道において彼女たちよりも墮落してしまった。
- 48 わたしは生きている一神である主のことば一。あなたの妹ソドムとその娘たちさえ、あなたと、あなたの娘たちがしたほどのことを決してしなかった。
- 49 だが、あなたの妹ソドムの咎はこのようだった。彼女とその娘たちは高慢で、飽食で、安逸を貪り、乏しい人や貧しい人に援助をしなかった。
- 50 彼女たちは高ぶって、わたしの前で忌み嫌うべきことをしたので、わたしはこれを見たとき、彼女たちを取り除いた。
- 51 サマリアも、あなたの罪の半分ほども罪深くはなかった。あなたが彼女たち以上に多くの忌み嫌うべきことをしたので、あなたのしたすべての忌み嫌うべきことが、あなたの姉妹たちを正しいとした。
- 52 あなたも、あなたの姉妹たちをかばった恥辱を負え。あなたが彼女たちよりも忌み嫌うべきことをして、罪が重かったため、彼女たちはあなたよりも正しいとされた。あなたも恥じて、あなたの姉妹たちを正しいとした恥辱を負え。
- 53 わたしは彼女たちを元どおりにする。ソドムとその娘たち、サマリアとその娘たち、また彼女たちの中にいるあなたを元どおりにする。
- 54 こうして、あなたは自分自身の恥辱を負い、あなたが彼女たちを慰めたときにしたすべてのことによって、辱めを受ける。
- 55 あなたの姉妹たち、ソドムとその娘たちは元のところに帰り、サマリアとその娘たちも元のところに帰り、あなたとあなたの娘たちも元のところに帰って来る。

- 56 あなたは、高ぶっていたときには、あなたの妹ソドムを悪いうわさの種にしていたではないか。
- 57 しかしそれは、あなたの悪がさらけ出される前のことであって、今はアラムの娘たちや、その周りのすべての者、およびペリシテ人の娘たちのそしりの的となっている。彼女たちはあなたを四方から侮っている。
- 58 あなたは、自分の淫らな行いと忌み嫌うべきわざの報いを受けている—主のことば。
- 59 まことに、神である主はこう言われる。わたしは、あなたがしたとおりのことをあなたに返す。あなたは誓いを蔑んで、契約を破ったのだ。
- 60 だが、わたしは、あなたが若かった日々あなたと結んだ契約を覚えて、あなたと永遠の契約を立てる。
- 61 わたしがあなたの姉と妹を選び取って、あなたとの契約には含まれていないものの、わたしが彼女たちをあなたの娘としてあなたに与えるとき、あなたは自分の生き方を思い出し、恥じることになる。
- 62 わたしがあなたとの契約を新たにするとき、あなたは、わたしが主であることを知る。
- 63 こうして、わたしが、あなたの行ったすべてのことについてあなたを赦すとき、あなたはそれらを思い出して恥を見、もう自分の恥辱のために口を開くことはない—神である主のことば。』」

第17章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ。イスラエルの家に謎をかけ、たとえを語れ。
- 3 『神である主はこう言われる。大きな翼、長い羽、色とりどりの豊かな羽毛の大鷲が、レバノンに飛んで来て、杉のこずえを取り去り、
- 4 その若枝の先を摘み取り、それをカナンの地へ運び、商人の町に置いた。
- 5 また、その地の種も取って来て、肥えた土地に植え、豊かな水のそばに柳のように植えた。
- 6 それは生長し、丈は低いが、よく生い茂るぶどうの木となった。その枝は鷲の方に向き、根は鷲の下に張り、こうして、ぶどうの木となって、枝を作り、若枝を出した。
- 7 さて、大きな翼と豊かな羽毛を持つ もう一羽の大鷲がいた。すると、このぶどうの木は、潤いを得るために根をその鷲の方に向けて伸ばし、その枝を、自分が植わっているところからその鷲の方に伸ばした。
- 8 このぶどうの木は、枝を伸ばし、実を結んで見事なぶどうの木となるように、水の豊かな良い地に植えられていた。』
- 9 言え。『神である主はこう言われる。それはうまく育つであろうか。その根は抜き取られ、その実は摘み取られ、芽の付いた若枝はことごとく枯れないだろうか。それは枯れる。それを根こそぎ引き抜くのに、大きな力や多くの人々を必要としない。
- 10 見よ。それは植えられたが、うまく育つだろうか。東風がそれに吹きつけると、すっかり枯れてしまわないだろうか。その芽を出した苗床で、それは枯れてしまう。』」
- 11 次のような主のことばが私にあった。
- 12 「さあ、反逆の家に言え。『これらがどういうことなのか、あなたがたは知らないのか。』こう言え。『見よ。バビロンの王がエルサレムに来て、そこの王とその首長たちを捕らえ、バビ

ロンの自分のところへ連れて行った。

- 13 そして彼は王族の一人を選んで、その者と契約を結び、忠誠を誓わせた。彼はこの国のおもだった者たちも連れ去っていた。
- 14 それは、この王国を低くして立ち上がれないようにし、その契約を守らせて存続させるためであった。
- 15 ところが、彼はバビロンの王に反逆し、使者をエジプトに送り、馬と軍勢を得ようとした。そんなことをして、うまく行くだろうか。助かるだろうか。契約を破って助かるであろうか。
- 16 わたしは生きている一神である主のことば一。彼は、自分を王位に就けた王との誓いを自ら蔑み、また、自ら契約を破ったので、その王の住む場所、バビロンで必ず死ぬ。
- 17 戦争になって、多くの者を絶ち滅ぼそうとして、壘が築かれ包囲壁が設けられるときでも、ファラオは決して大軍勢と大集団で彼をかばうことはない。
- 18 彼は誓いを蔑み、契約を破った。彼は誓っていないが、これらすべてのことをしたのだ。彼は助からない。
- 19 それゆえ、神である主はこう言われる。わたしは生きている。彼が蔑んだわたしの誓い、彼が破ったわたしの契約、これを必ず彼の頭上に返す。
- 20 わたしは彼の上にわたしの網をかけ、彼はわたしの罨にかかる。わたしは彼をバビロンへ連れて行き、そこで、わたしの信頼を裏切ったことについて彼をさばく。
- 21 彼の軍隊の逃れた者もみな剣に倒れ、残された者も四方に散らされる。このとき、あなたがたは、主であるわたしが語ったことを知る。』」
- 22 神である主はこう言われる。「わたしは高い杉のこずえを取り去り、そのうちから柔らかい若枝の先を摘み取り、わたし自ら、それを高くそびえる山に植える。
- 23 わたしがそれをイスラエルの高い山に植えると、それは枝を伸ばし、実を結び、見事な杉の木となる。その下にはあらゆる種類の鳥が宿り、その枝の陰に住む。
- 24 このとき、野のすべての木は、主であるわたしが高い木を低くし、低い木を高くし、生木を枯らし、枯れ木に芽を出させることを知る。主であるわたしが語り、わたしが行く。」

第18章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「あなたがたは、イスラエルの地について、『父が酸いぶどうを食べると、子どもの歯が浮く』という、このことわざを繰り返しているが、いったいどういうことか。
- 3 わたしは生きている一神である主のことば一。あなたがたがイスラエルでこのことわざを用いることは、もう決していない。
- 4 見よ、すべてのたましいは、わたしのもの。父のたましいも子のたましいも、わたしのもの。罪を犯したたましいが死ぬ。
- 5 人が正しい者であるなら、公正と義を行う。
- 6 丘の上で食事をせず、イスラエルの家の偶像を仰ぎ見ず、隣人の妻を汚さず、月のさわりのある女に近寄らず、
- 7 だれも虐げず、質物を返し、物をかすめ取らず、飢えている者に自分の食物を与え、裸の者に衣服を着せ、

- 8 利息をつけて貸さず、高利を取らず、不正から手を引き、人と人との間を正しくさばき、
- 9 わたしの掟に従って歩み、わたしの定めを守って真実を行う。このような人が正しい人であり、この人は必ず生きる—神である主のことば。
- 10 しかし、彼が子を生み、その子が無法者で、人の血を流し、先に述べたことの一つにでも違反する場合、
- 11 すなわち、それらすべてのことをしようともせず、かえって丘の上で食事をし、隣人の妻を汚し、
- 12 乏しい人や貧しい人を虐げ、物をかすめ取り、質物を返さず、偶像を仰ぎ見、忌み嫌うべきことをし、
- 13 利息をつけて貸し、高利を取ったなら、こういう者ははたして生きるだろうか。彼は生きられない。これらすべての忌み嫌うべきことをしたのだから、必ず死ぬ。その血の責任は彼自身にある。
- 14 ただし、彼が子を生み、その子が父の行ったすべての罪を見て反省し、そのようなことを行わない場合には、
- 15 すなわち、丘の上で食事をせず、イスラエルの家の偶像を仰ぎ見ず、隣人の妻を汚さず、
- 16 だれも虐げず、質物をとどめておかず、物をかすめ取らず、飢えている者に自分の食物を与え、裸の者に衣服を着せ、
- 17 貧しい者を苦しめることから手を引き、利息や高利を取らず、わたしの定めを行い、わたしの掟に従って歩むなら、そのような人は自分の父の咎のゆえに死ぬことはなく、必ず生きる。
- 18 彼の父は虐げを行い、兄弟の物をかすめ取り、良くないことを自分の民の中で行ったのだから、確かに自分の咎のゆえに死ぬ。
- 19 あなたがたは『なぜ、その子は父の咎を負わなくてよいのか』と言う。その子は、公正と義を行い、わたしのすべての掟を守り行ったのだから、必ず生きる。
- 20 罪を犯したたましいが死ぬのであり、子は父の咎について負い目がなく、父も子の咎について負い目がない。正しい人の義はその人の上にある、悪しき者の悪はその者の上にある。
- 21 しかし、悪しき者でも、自分が犯したすべての罪から立ち返り、わたしのすべての掟を守り、公正と義を行うなら、その人は必ず生きる。死ぬことはない。
- 22 彼が行ったすべての背きは覚えられることがなく、彼が行った正しいことのゆえに、彼は生きる。
- 23 わたしは悪しき者の死を喜ぶだろうか—神である主のことば—。彼がその生き方から立ち返って生きることを喜ばないだろうか。
- 24 しかし、正しい人が正しい行いから離れ、不正を行い、悪しき者がするようなあらゆる忌み嫌うべきことをするなら、彼は生きるだろうか。彼が行ったどの正しいことも覚えられず、彼が犯した不信と陥った罪のゆえに、彼は死ななければならない。
- 25 あなたがたは『主の道は公正でない』と言っている。さあ聞け。イスラエルの家よ、わたしの道は公正でないのか。公正でないのはあなたがたの道ではないのか。
- 26 正しい人が自分の正しい行いから離れ、不正を行うなら、彼はそれゆえに死ぬ。自分が行った不正によって死ぬ。
- 27 しかし、悪しき者でも、自分がしている悪事から立ち返り、公正と義を行うなら、彼は自分のたましいを生かす。

- 28 彼は反省して、自分のすべての背きから立ち返ったのだから、必ず生き、死ぬことはない。
- 29 しかし、イスラエルの家は『主の道は公正でない』と言う。イスラエルの家よ、わたしの道は公正でないのか。公正でないのはあなたがたの道ではないのか。
- 30 それゆえ、イスラエルの家よ、わたしはあなたがたを、それぞれその生き方にしたがってさばく—神である主のことば—。立ち返り、あなたがたのすべての背きから身を翻せ。不義に引き込まれることがないようにせよ。
- 31 あなたがたが行ったすべての背きを、あなたがたの中から放り出せ。このようにして、新しい心と新しい霊を得よ。イスラエルの家よ、なぜ、あなたがたは死のうとするのか。
- 32 わたしは、だれが死ぬのも喜ばない—神である主のことば—。だから立ち返って、生きよ。」

第19章

- 1 「あなたはイスラエルの君主たちのためにこの哀歌を唱えよ。
- 2 あなたの母は何であったのか。雌獅子だ。彼女は雄獅子の間に伏し、若い獅子の間で子獅子を養った。
- 3 雌獅子は子獅子のうちの一頭を取り上げた。それは若い獅子となり、獲物をかみ裂くことを習い、人を食い滅ぼすようになった。
- 4 諸国の民はその獅子のうわさを聞いた。その獅子は落とし穴で捕らえられた。彼らはこれに鉤をつけ、エジプトの地へ引いて行った。
- 5 雌獅子は待ちくたびれて、自分の望みが消え失せたことを知ったとき、子獅子のうちのほかの一頭を取り、若い獅子と定めた。
- 6 これも雄獅子の間を歩き回り、若い獅子となって、獲物をかみ裂くことを習い、人を食い滅ぼすようになった。
- 7 この獅子は、やもめたちを犯し、町々を廃墟とした。その吼える声のために、地とそこに満ちているものは、おののいた。
- 8 そこで、諸国の民は周りの州から攻め上り、その獅子に彼らの網を打ちかけた。その獅子は彼らの落とし穴で捕らえられた。
- 9 彼らはそれに鉤をかけて檻に入れ、バビロンの王のもとに引いて行った。彼らはそれを砦に閉じ込め、二度とその声がイスラエルの山々に聞こえないようにした。
- 10 あなたの母は、水のほとりに植えられた、あなたのぶどう園のぶどうの木のような木だった。水が豊かなために実りが良く、枝も茂った。
- 11 その強い枝は王の杖となり、その背丈は茂みの中でひととき高く、多くの小枝をつけて、際立って見えた。
- 12 しかし、激しい憤りをもってそれは引き抜かれ、地に投げ捨てられ、東風はその実を枯らした。その強い枝も折られて枯れ、火がそれを焼き尽くした。
- 13 今や、それは荒野に、乾いた、潤いのない地に移し植えられ、
- 14 火がその枝から出て、その若枝と実を焼き尽くした。もう、それには王の杖となる強い枝がなくなった。」これは悲しみの歌、哀歌となった。

第20章

- 1 第七年の第五の月の十日、イスラエルの長老たちの何人かが、主に尋ねるために来て、私の前に座った。
- 2 そのとき、私に次のような主のことばがあった。
- 3 「人の子よ、イスラエルの長老たちにこう告げよ。『神である主はこう言われる。あなたがたが来たのは、わたしに尋ねるためなのか。わたしは生きている。わたしは決してあなたがたの求めに応じない—神である主のことば。』
- 4 あなたは彼らをさばくのか。人の子よ、あなたはさばくのか。彼らの先祖たちの、忌み嫌うべきわざを彼らに告げ知らせよ。
- 5 彼らに言え。『神である主はこう言われる。わたしがイスラエルを選んだとき、わたしはヤコブの家の子孫に誓い、エジプトの地でわたしを彼らに知らせた。彼らに誓って、わたしがあなたがたの神、主であると言った。
- 6 その日、わたしは彼らをエジプトの地から導き出して、わたしが彼らのために探しておいた乳と蜜の流れる地、どの地よりも麗しい地に入れることを彼らに誓った。
- 7 わたしは彼らに言った。「それぞれ、その目の慕う忌まわしいものを投げ捨てよ。エジプトの偶像で身を汚すな。わたしがあなたがたの神、主である」と。
- 8 しかし、彼らはわたしに逆らい、わたしに聞き従おうとはしなかった。それぞれ、その目の慕う忌まわしいものを投げ捨てず、エジプトの偶像を捨てなかった。そこでわたしは、エジプトの地のただ中でわたしの憤りを彼らの上に注ぎ、彼らにわたしの怒りを出し尽くそうと思った。
- 9 しかし、わたしはわたしの名のことを思い、彼らが住んでいる国々の目の前でわたしの名が汚されないようにした。国々の目の前で彼らをエジプトの地から導き出す、と知らせていたからだ。
- 10 こうしてわたしは、エジプトの地から彼らを導き出し、荒野に導き入れ、
- 11 わたしの掟を彼らに与え、わたしの定めを告げ知らせた。人は、それらを行うなら、それらによって生きるからである。
- 12 わたしはまた、彼らにわたしの安息日を与えて、わたしと彼らとの間のしるしとし、わたしが彼らを聖なる者とする主であることを、彼らが知るようにした。
- 13 しかし、イスラエルの家は荒野でわたしに逆らった。彼らはわたしの掟に従って歩まず、わたしの定めを忌み嫌った。人は、それらを行うなら、それらによって生きるのに。さらに、彼らはわたしの安息日を甚だしく汚した。そこでわたしは、荒野でわたしの憤りを彼らの上に注ぎ、彼らを絶ち滅ぼそうと考えた。
- 14 しかし、わたしはわたしの名のことを思い、彼らを導き出すのを見ていた国々の目の前で、わたしの名が汚されないようにした。
- 15 だがわたしは、わたしが与えた、乳と蜜の流れる地、どの地よりも麗しい地に、彼らを導き入れない、と荒野で彼らに誓った。
- 16 それは、彼らがわたしの定めを忌み嫌い、わたしの掟に歩まず、わたしの安息日を汚したからだ。それほど彼らの心は偶像を慕っていた。
- 17 それでも、わたしは彼らをあわれんで滅ぼさず、荒野で彼らを滅ぼし尽くさなかった。

- 18 わたしは荒野で彼らの子どもたちに言った。「あなたがたの父たちの掟に従って歩むな。彼らの慣わしを守るな。彼らの偶像で身を汚すな。
- 19 わたしがあなたがたの神、主である。わたしの掟に従って歩み、わたしの定めを守り行え。
- 20 また、わたしの安息日を聖なるものとせよ。これをわたしとあなたがたとの間のしるしとし、わたしがあなたがたの神、主であることを知れ」と。
- 21 しかし、子どもたちはわたしに逆らった。彼らはわたしの掟に従って歩まず、わたしの定めを忌み嫌った。人は、それらを行うなら、それらによって生きるのに。さらに、彼らはわたしの安息日を汚した。そこで、わたしは、荒野でわたしの憤りを彼らの上に注ぎ、彼らにわたしの怒りを出し尽くそうと思った。
- 22 しかし、わたしは手を引いた。わたしの名のことを思い、彼らを導き出すのを見ていた国々の目の前で、わたしの名が汚されないようにした。
- 23 だがわたしは、彼らを諸国の間に散らし、国々に追い散らす、と荒野で彼らに誓った。
- 24 彼らがわたしの定めを行わず、わたしの掟を忌み嫌い、わたしの安息日を汚し、彼らの心が父たちの偶像を慕ったからである。
- 25 わたしもまた、良くない掟と、それによっては生きられない定めを彼らに与えた。
- 26 彼らがすべての初子に火の中を通らせたとき、わたしはそのささげ物で彼らを汚した。それは、わたしが彼らを滅ぼすため、わたしが主であることを彼らが知るためである。』
- 27 それゆえ、人の子よ、イスラエル之家にこう告げよ。『神である主はこう言われる。あなたがたの先祖は次のことにおいても、わたしの信頼を裏切ることにより、わたしを冒瀆している。
- 28 わたしが、彼らに与えると誓った地に彼らを連れて行くと、彼らは高い丘や茂った木を見て、どこでもいけにえを献げた。彼らはそこで主の怒りを引き起こすささげ物を献げ、そこで芳ばしい香りを供え、そこで注ぎのぶどう酒を注いだ。
- 29 それで、わたしは彼らに言った。「あなたがたが通う高き所とは何なのか」と。今日でもその名はバマと呼ばれている。』
- 30 それゆえ、イスラエル之家に言え。『神である主はこう言われる。あなたがたは父たちの生き方をまねて自分自身を汚し、彼らの忌まわしいものを慕って姦淫を犯そうとするのか。
- 31 しかも、ささげ物を供え、幼子に火の中を通らせて、今日まであらゆる偶像で身を汚してきた。イスラエル之家よ。わたしはどうして、あなたがたの求めに応じられるだろうか。わたしは生きている一神である主のことば一。わたしは決してあなたがたの求めに応じない。
- 32 あなたがたが、「私たちは、木や石を拜んでいる異邦の民、国々の諸族のようになろう」と言っている、その霊の思いは決して実現しない。
- 33 わたしは生きている一神である主のことば一。わたしは必ず、力強い手と伸ばした腕、ほとばしる憤りをもって、あなたがたを治める。
- 34 わたしは、力強い手と伸ばした腕、ほとばしる憤りをもって、あなたがたを諸国の民の中から導き出し、その散らされている国々からあなたがたを集める。
- 35 わたしはあなたがたを国々の民の荒野に連れて行き、そこで顔と顔を合わせて、あなたがたをさばく。
- 36 わたしは、あなたがたの先祖をエジプトの地の荒野でさばいたように、あなたがたをさばく一神である主のことば一。

- 37 わたしはまた、あなたがたにむちの下を通らせ、あなたがたを契約のくびきの下に連れて行き、
- 38 あなたがたの中から、わたしに背く反逆者をより分ける。わたしは彼らをその寄留している地から導き出すが、彼らはイスラエルの地に入ることはできない。そのときあなたがたは、わたしが主であることを知る。
- 39 さあ、イスラエルの家よ、神である主はこう言われる。それぞれ自分の偶像のところに行って仕えるがよい。後には必ず、あなたがたはわたしに聞くようになる。あなたがたは二度と、自分たちのささげ物や偶像で、わたしの聖なる名を汚さなくなる。
- 40 わたしの聖なる山、イスラエルの高い山の上で—神である主のことば—そこで、この地にいるイスラエルの全家、そのすべてがわたしに仕えるからだ。そこで、わたしは彼らを喜んで受け入れ、そこで、あなたがたのすべての聖なるものとともに、あなたがたの奉納物と最上のささげ物を求める。
- 41 わたしが諸国の民の中からあなたがたを導き出し、その散らされている国々からあなたがたを集めるとき、わたしは、あなたがたを芳ばしい香りとともに喜んで受け入れる。こうしてわたしは、国々の民が見ている前で、あなたがたのうちに、わたしが聖であることを示す。
- 42 わたしが、あなたがたの父祖たちに与えると誓った地、イスラエルの地にあなたがたを導き入れるとき、あなたがたは、わたしが主であることを知る。
- 43 あなたがたはそこで、自分の身を汚した自分たちの生き方と、すべての行いを思い起こし、自分たちの行ったすべての悪のゆえに、自分自身を嫌うようになる。
- 44 わたしが、あなたがたの悪しき生き方や、腐敗した行いによってでなく、ただわたしの名のためにあなたがたに報いるとき、イスラエルの家よ、あなたがたはわたしが主であることを知る—神である主のことば。』」
- 45 さらに、私に次のような主のことばがあった。
- 46 「人の子よ。顔を右の方に向け、南に向かって語りかけ、ネゲブの野の森に向かって預言し、
- 47 ネゲブの森に言え。『主のことばを聞け。神である主はこう言われる。見よ、わたしはおまえのうちに火をつける。その火はおまえのうちの、すべての生木とすべての枯れ木を焼き尽くす。その燃える炎は消されず、南から北まで地の面すべてが焼かれる。
- 48 そのとき、すべての肉なる者は、主であるわたしが燃やしたのを見る。その火は消えることがない。』」
- 49 そのとき、私は叫んだ。「ああ、神、主よ。彼らは私について、『彼は、たとえを言っているだけではないか』と言っています。」

第21章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ。エルサレムに顔を向け、聖所に向かって語りかけよ。イスラエルの地に向かって預言せよ。
- 3 イスラエルの地に言え。『主はこう言われる。今、わたしはおまえを敵とする。わたしは剣をさやから抜き、おまえのうちの、正しい者も悪い者も絶ち滅ぼす。
- 4 おまえのうちの、正しい者も悪い者も絶ち滅ぼすため、わたしの剣はさやを離れ、南から北まですべての肉なる者を敵とする。

- 5 このとき、すべての肉なる者は、主であるわたしが剣をさやから抜いたことを知る。剣は二度とさやに収められることはない。』
- 6 人の子よ、あなたは、うめけ。彼らが見ているところで、腰が砕けるほど激しくうめけ。
- 7 彼らがあなたに、『何のために、あなたはうめくのか』と言うなら、そのとき、あなたは言え。『この知らせのためだ。それが来ると、すべての者は心が萎え、すべての手は力無く垂れ下がり、みな意気消沈し、どの膝も震える。今、それが来る。それは実現する一神である主のことば。』」
- 8 次のような主のことばが私にあった。
- 9 「人の子よ、預言せよ。『主はこう言われる。剣、一振りの剣が研がれ、磨かれている。
- 10 虐殺のために研がれ、稲妻のようにそれは磨かれた。それとも、われわれは喜ぶべきか。すべての木を退ける、わが子の杖を。
- 11 その剣は磨かれて手に握られ、研がれ、磨かれて殺す者の手に渡される。』
- 12 人の子よ、わめけ。泣き叫べ。それがわたしの民の上により、イスラエルのすべての君主たちに下るからだ。彼らはわたしの民とともに剣に投げ込まれる。だから、あなたはももを打って嘆け。
- 13 試みのとき、退ける杖さえなかったら、どうなるか一神である主のことば。
- 14 人の子よ、あなたは預言せよ。手を打ち鳴らせ。剣を二倍、三倍にして、人を刺し殺す剣とし、彼らを一貫する大なる殺戮の剣とせよ。
- 15 それは、彼らの心が震えおののいて、つまずき倒れる者が増えるようにするためだ。わたしは彼らのすべての門に、殺戮の剣を置く。ああ、剣は稲妻のようにされ、屠るために磨かれる。
- 16 剣は顔を右に向け、左に向けて切りまくれ。おまえの顔の向くところを。
- 17 わたしもまた、手を打ち鳴らし、わたしの憤りを収める。主であるわたしが語るのだ。」
- 18 次のような主のことばが私にあった。
- 19 「人の子よ。あなたは、バビロンの王の剣が来るように、二つの道を備えよ。その二つの道はともに一つの国から出るようにし、町に向かう道の始まりにそれぞれの道しるべを刻みつけよ。
- 20 剣が、アンモン人のラバ、あるいはユダ、すなわち城壁のあるエルサレムに行くように、道を備えよ。
- 21 バビロンの王は道の分かれ目、その二つの道の始まりに立って占いをする。彼は矢を振り混ぜ、テラフィムに伺いを立てて、肝を調べる。
- 22 彼の右の手に、エルサレムについての占いが現れる。それは、彼が城壁崩しを配置し、口を開いて叫び、ときをあげて、城壁崩しを門に向かわせ、壘を築き、包囲壁を設けるといふものである。
- 23 しかしこれは、厳かな誓いをしているエルサレムの民の目には、むなしい占いと映る。だが、バビロンの王は彼らに自分たちの咎を思い起こさせることになり、こうして彼らは捕らえられる。
- 24 それゆえ、神である主はこう言われる。あなたがたの背きはあらわにされ、あなたがたのすべての行いに罪が現れて、あなたがたの咎がわたしに思い起こされる。あなたがた自身が思い起こされるゆえに、あなたがたは彼らの手に捕らえられるのだ。

- 25 汚れた悪者、イスラエルの君主よ。あなたの日、最後の刑罰の時が来た。
- 26 神である主はこう言われる。かぶり物を取り、冠を外せ。すべてがすっかり変わる。低い者を高くし、高い者を低くせよ。
- 27 荒廃だ。荒廃だ。廢墟をわたしはもたらず。これは、さばきを執行する者が来て、わたしがさばきの権威を授けるまで、起こったことのないような出来事だ。
- 28 人の子よ、あなたは預言せよ。こう言え。『神である主は、アンモン人と彼らのそしりについてこう言う。剣、一振りの剣が、虐殺のために抜き放たれた。絶ち滅ぼすために、稲妻のように研ぎ澄まされて。
- 29 おまえのためにむなしい幻があり、おまえのためにまやかしの占いがなされても、その剣は汚れた悪者どもの首に当てられ、彼らの日、最後の刑罰の時が来る。
- 30 剣をさやに収めよ。おまえが創造された場所、おまえの出身地で、わたしはおまえをさばく。
- 31 わたしはおまえの上にわたしの憤りを注ぎ、激しい怒りの火を吹きつけ、滅ぼすことにたけた残忍な者たちの手に、おまえを渡す。
- 32 おまえは火の薪となり、おまえの血はその国の中で流され、おまえはもう思い出されることはない。主であるわたしが語ったからだ。』」

第22章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ、あなたはさばくのか。この流血の都をさばくのか。それなら、この都にその忌み嫌うべきわざを残らず告げ知らせて、
- 3 このように言え。『神である主はこう言われる。自らのただ中で血を流して自分の刑罰の時を招き、自らのために偶像を造って自分を汚す都よ。
- 4 おまえは自分が流した血で咎を負う者となり、自分が造った偶像で身を汚し、自分の日を近づかせ、自分の年を来させた。だから、わたしはおまえを国々のそしりの的とし、すべての国の笑いぐさとする。
- 5 おまえの近くにいる者も遠くにいる者も、名を汚されて大いに混乱したおまえをあざ笑う。
- 6 見よ。イスラエルの君主たちは、おまえの中でそれぞれ力をふるい、人の血を流している。
- 7 おまえの中で父や母は軽んじられ、おまえのただ中で寄留者は抑圧され、おまえの中にあるみなしごややもめは虐げられている。
- 8 おまえはわたしの聖なるものを蔑み、わたしの安息日を汚した。
- 9 おまえの中には、血を流そうと他人を中傷する者がいて、ある者は丘の上で食事をし、おまえのただ中で淫らなことをした。
- 10 おまえの中では父の裸があらわにされ、おまえの中では月のさわりのある女が犯された。
- 11 ある者は隣人の妻と忌み嫌うべきことをし、またある者は淫らなことをして嫁を汚し、ある者はおまえの中で、自分の父の娘である自分の姉妹を辱めた。
- 12 おまえの中では、血を流すために賄賂が使われ、おまえは利息と高利を取り、隣人を抑圧して利得を貪った。おまえはわたしを忘れた—神である主のことば。
- 13 見よ。おまえが得た不正な利得と、おまえの中で流された血のために、わたしは手を打ち鳴らす。

- 14 わたしがおまえをさばく日に、おまえの心は耐えられるだろうか。おまえの手は強くあり得るだろうか。主であるわたしが語り、事を行う。
- 15 わたしはおまえを諸国の間に散らし、国々に追い散らし、おまえの汚れをすっかり取り除く。
- 16 国々の民が見ている前で、おまえはおまえ自身によって汚される。そのときおまえは、わたしが主であることを知る。』」
- 17 次のような主のことばが私にあった。
- 18 「人の子よ、イスラエルの家はわたしにとって金かすとなった。彼らはみな、炉の中の青銅、すず、鉄、鉛であり、銀の金かすとなった。」
- 19 それゆえ、神である主はこう言われる。「あなたがたはみな金かすとなったから、今、わたしはあなたがたをエルサレムの中に集める。
- 20 銀、青銅、鉄、鉛、すずが炉の中に集められるのは、火を吹きつけて溶かすためだ。そのように、わたしは怒りと憤りをもってあなたがたを集め、そこに入れて溶かす。
- 21 わたしがあなたがたを集め、あなたがたに向かって激しい怒りの火を吹きつけると、あなたがたは町の中で溶ける。
- 22 銀が炉の中で溶かされるように、あなたがたも町の中で溶かされる。このとき、あなたがたは、主であるわたしがあなたがたの上に憤りを注いだことを知る。」
- 23 次のような主のことばが私にあった。
- 24 「人の子よ、この都に言え。『おまえは憤りの日にきよめられず、雨も降らない地である。
- 25 そのただ中には預言者たちの陰謀がある。彼らは、獲物をかみ裂きながら吼えたける雄獅子のように人々を食らい、富と宝を奪い取り、その町にやもめの数を増やした。
- 26 その祭司たちはわたしのおしえを冒瀆し、わたしの聖なるものを冒し、聖なるものと俗なるものとを分けず、汚れたものと、きよいものとの違いを教えなかった。また、彼らはわたしの安息日をないがしろにした。こうして、わたしは彼らの間で汚されている。
- 27 その町の高官たちは、獲物をかみ裂く狼のようだ。人々の血を流し、たましいを滅ぼして、自分の利得を貪っている。
- 28 その町の預言者たちはむなしい幻を見、まやかしの占いをして、漆喰で上塗りをし、主が語っていないのに「神である主はこう言われる」と言っている。
- 29 民衆も虐げを行い、物をかすめ、窮する人や貧しい人を苦しめ、寄留者を不法に虐げた。
- 30 この地を滅ぼすことがないように、わたしは、この地のために、わたしの前で石垣を築き、破れ口に立つ者を彼らの間に探し求めたが、見つからなかった。
- 31 それで、わたしは彼らの上に激しい憤りを注ぎ、激しい怒りの火で彼らを滅ぼし尽くし、彼らの頭上に彼らの生き方を返した—神である主のことば。』」

第23章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ、かつて二人の女がいた。同じ母の娘であった。
- 3 彼女たちはエジプトで淫行をした。若いときに淫行をした。その地で彼女たちの胸は抱きしめられ、その処女の乳房はもてあそばれた。

- 4 その名は、姉はオホラ、妹はオホリバ。二人はわたしのものとなり、息子や娘たちを産んだ。彼女たちの名のオホラはサマリアのこと、オホリバはエルサレムのことである。
- 5 オホラは、わたしのものであったのに、姦通し、その愛人アッシリアに、青い衣を着た軍人たちに欲情を抱いた。
- 6 彼らは総督や長官で、すべて若く魅惑的な男たちであり、馬に乗る騎兵であった。
- 7 オホラは彼らと姦通した。彼らはみなアッシリアの選り抜きの者であった。彼女は、自分が欲情を抱いた者たちのすべての偶像で身を汚した。
- 8 彼女はエジプト以来の淫行をやめようとしなかった。それは、彼女が若いとき、エジプト人が彼女と寝て、その処女の乳房をもてあそび、彼女に情欲を注いだからである。
- 9 それでわたしは、彼女が欲情を抱く愛人たちの手、アッシリア人の手に彼女を渡した。
- 10 彼らはオホラの裸をさらけ出し、その息子や娘たちを奪い取り、彼女を剣で殺してしまった。こうして彼女にさばきが下され、彼女は女たちの語りぐさとなった。
- 11 妹のオホリバはこれを見たが、姉よりいっそう恋情を募らせ、その淫行は姉の淫行よりひどかった。
- 12 彼女は隣のアッシリア人の総督や長官に欲情を抱いた。彼らはみな完全に武装した、馬に乗る騎兵であり、若く魅惑的な男たちであった。
- 13 わたしは彼女が身を汚すのを見たが、二人とも同じやり方であった。
- 14 オホリバは淫行を増し加え、壁に彫られた人々に目を留めた。すなわち、朱で描かれているカルデア人の肖像で、
- 15 腰に帯を締め、頭には垂れるほどのターバンを着け、みな士官のように見えた。彼らは、出生地をカルデアとするバビロン人の姿をしていた。
- 16 彼女は一目見て、彼らに欲情を抱き、使者たちをカルデアの彼らのもとに遣わした。
- 17 バビロン人は、彼女のもとに来て愛の床につき、彼女を情欲で汚した。彼女が彼らによって汚れるに及んで、彼女の心は彼らから離れ去った。
- 18 彼女は自分の淫行をさらけ出し、自分の裸をあらわにした。そのためわたしの心は、かつて彼女の姉から離れ去ったように、彼女からも離れ去った。
- 19 しかし彼女は、かつてエジプトの地で淫行をした、あの若かった日々を思い出して、淫行を重ねた。
- 20 彼女は、ろばのようなからだを持ち、馬のような精力を持つ彼らの側女になりたいと憧れた。
- 21 このように、エジプト人があなたの若い乳房をもてあそび、あなたの胸を抱きしめたあの若いときの淫らな行いを、あなたはしきりに望んだのだ。」
- 22 それゆえ、オホリバよ、神である主はこう言われる。「見よ。わたしは、あなたの心がすでに離れ去ったあなたの愛人たちを、あなたに対して駆り立てて、周りからあなたを攻めに来るようにする。
- 23 彼らはバビロン人、すべてのカルデア人、ペコデやショアやコアの人々、それに加えてアッシリアのすべての人々である。すべての若く魅惑的な男たち、総督、長官、士官、名士たち、馬に乗る者たちである。
- 24 彼らは、軍馬、戦車、車をもって、また民の大集団を率いてあなたに立ち向かい、大盾、盾、かぶとを着けて周りからあなたを攻める。わたしが彼らにさばきを委ねるので、彼らは自分たちのさばきにしたがって、あなたをさばく。

- 25 わたしがあなたに、わたしのねたみを向けるので、彼らは激しい憤りをもって、あなたに事を行う。彼らはあなたの鼻と耳を切り取り、残りの者は剣に倒れる。彼らはあなたの息子や娘たちを連れ去り、残りの者は火で焼き尽くされる。
- 26 彼らはあなたの着ている物をはぎ取り、あなたの美しい品々を奪い取る。
- 27 わたしはあなたの淫らな行いと、エジプトの地以来の淫行をやめさせ、あなたが彼らを仰ぎ見ず、もうエジプトを思い出さないようにする。」
- 28 神である主はこう言われる。「見よ。わたしは、あなたが憎む者の手、あなたの心が離れ去った者の手にあなたを渡す。
- 29 彼らは憎しみをもってあなたを取り扱う。すなわち、あなたの労苦の実をことごとく奪い取り、あなたを丸裸のまま捨て去る。こうして、あなたの淫行と淫乱と姦淫の恥は暴かれる。
- 30 これらのことがなされるのは、あなたが異邦の民を慕って姦淫をし、彼らの偶像であなたの身を汚したからである。
- 31 あなたが姉の道を歩いたので、わたしは彼女の杯をあなたの手に渡す。」
- 32 神である主はこう言われる。あなたは姉の杯、深くて大きい杯を飲む。物笑いと嘲りがたっぷり入った杯を。
- 33 あなたは酔いと悲しみに満たされる。恐怖と荒廃の杯、これがあなたの姉サマリアの杯。
- 34 あなたはこれを飲み、飲み干して、杯のかけらまでかみ、自分の乳房をかき裂く。わたしがこれを語ったからだ。一神である主のことば。
- 35 それゆえ、神である主はこう言われる。「あなたはわたしを忘れ、わたしをあなたのうしろに投げやったから、あなたも自分の淫らな行いと、淫行の責めを負え。」
- 36 主は私に言われた。「人の子よ、あなたはオホラとオホリバをさばくのか。それなら彼女たちに、その忌み嫌うべきわざを告げ知らせよ。
- 37 彼女たちは姦通し、その手は血に染まっている。彼女たちは自分たちの偶像と姦通し、わたしのために産んだ子どもさえも火の中を通らせ、食物として偶像に引き渡した。
- 38 しかも、彼女たちはわたしに対して、こんなことまでした。同じ日にわたしの聖所を汚し、わたしの安息日を汚したのだ。
- 39 彼女たちは、自分たちの偶像のために自分の子どもを殺し、その同じ日にわたしの聖所に来て、これを冒した。なんと、このようなことをわたしの家の中で行ったのだ。
- 40 さらに、あなたがたは人を送って、遠くから来る人々を招いた。使者が送られて彼らが来ると、あなたは彼らのために身を洗い、目の縁を塗り、飾り物で身を飾り、
- 41 豪華な寝台に横たわり、その前に食卓を整えて、その上にわたしの香と油を置いた。
- 42 そこでは、安逸を貪る群衆の騒ぎがあった。大勢の男たちのところに、荒野から大酒飲みが連れ込まれ、彼らは、彼女たちの腕に腕輪をはめ、頭に輝かしい冠をかぶらせた。
- 43 わたしは、姦通で疲れきった彼女について考えた。彼らは今、その女と姦淫をしている。
- 44 彼らは遊女のもとに行くように、彼女のもとに行った。彼らは、淫らな女たち、オホラとオホリバのもとに行ったのだ、と。
- 45 しかし、正しい人たちは、姦通した女に下す罰と殺人を犯した女に下す罰で彼女たちをさばく。彼女たちが姦通の者であり、その手が血に染まっているからだ。」
- 46 まことに、神である主はこう言われる。「一つの集団を彼らに向けて攻め上らせ、彼女たちを人々にとって、おののきのもと、また餌食とせよ。

- 47 集団は彼女たちを石で打ち殺し、剣で切り倒し、その息子や娘たちを殺し、その家々を火で焼き払う。
- 48 わたしはこの地から淫らな行いを取り除く。すべての女たちは自分自身を戒め、あなたがたがしたような淫らな行いをしなくなる。
- 49 あなたがたの淫らな行いの報いはあなたがたの上により、あなたがたは自分たちの偶像に対する罪責を負わなければならない。このとき、あなたがたは、わたしが神、主であることを知る。」

第24章

- 1 第九年の第十の月の十日、私に次のような主のことばがあった。
- 2 「人の子よ。この日、ちょうどこの日の日付を書き記せ。ちょうどこの日に、バビロンの王がエルサレムに攻め寄せたからだ。
- 3 あなたは、反逆の家の一つのたとえを語って言え。『神である主はこう言われる。鍋を火にかけよ。これを据え、水をこれに注ぎ入れよ。
- 4 これに肉片、ももと肩の良い肉片をみな一緒に入れ、選り抜きの骨でこれを満たせ。
- 5 選り抜きの羊を取れ。鍋の下には薪を積み、よく沸騰させて、その中の骨も煮よ。
- 6 それゆえ、神である主はこう言う。ああ、流血の都、さびついている鍋。そのさびは落とせない。一切れずつそれを取り出せ。くじで決めてはならない。
- 7 彼女の血は、まだそこにある。彼女はそれを裸岩の上に流し、地面に流して、土をかぶせようとはしなかった。
- 8 わたしが、憤りを募らせ、復讐するために、その血を裸岩の上に流して、おおわれないようにしたのだ。
- 9 それゆえ、神である主はこう言う。ああ、流血の都。わたしもこれに薪を積み上げよう。
- 10 薪を増やし、火を燃え立たせ、肉をよく煮、香料を混ぜ、骨を焦がせ。
- 11 鍋を空にして炭火にかけ、その銅を熱くして、その中の汚れを溶かし、さびがなくなるようにせよ。
- 12 しかし、その骨折りは無駄であった。そのひどいさびはそれから落ちず、そのさびは、なお火の中にあった。
- 13 あなたの汚れは淫らな行いだ。それでわたしはあなたをきよめようとしたが、あなたはきよくなるうともしなかった。あなたは、わたしがあなたに対する憤りを収めるまで、自分の汚れから決してきよくならない。
- 14 主であるわたしは言った。それは必ず起こる。わたしはそれを行ってなおざりにせず、惜しまず、思い直もしない。あなたの生き方と行いにしたがって、あなたはさばかれる—神である主のことば。』」
- 15 次のような主のことばが私にあった。
- 16 「人の子よ、見よ、わたしは一打ちで、あなたの目の喜びを取り去る。嘆くな。泣くな。涙を流すな。
- 17 死者のためにうめけ。しかし、喪に服してはならない。頭にターバンを巻き付け、足に履き物をはけ。口ひげをおおってはならない。人々からのパンを食べてはならない。」

- 18 その朝、私は民に語ったが、夕方、私の妻が死んだ。翌朝、私は命じられたとおりにした。
- 19 すると、民は私に尋ねた。「あなたがしているこれらのことは、私たちにとって何を意味するのか、説明してくれませんか。」
- 20 そこで私は彼らに答えた。次のような主のことばが私にあった、と。
- 21 「イスラエルの家に言え。『神である主はこう言われる。見よ。あなたがたの力の誇りであり、あなたがたの目が喜び、あなたがたの心が大切にするわたしの聖所を、わたしは汚す。あなたがたが見捨てた息子や娘たちは、剣で倒れる。』
- 22 あなたがたは、わたしがするとおりにすることになる。あなたがたは自分の口ひげをおおわず、人々からのパンを食べなくなる。
- 23 頭にターバンを巻き、足に履き物をはき、嘆かず泣かない。ただ、自分たちの咎のゆえに朽ち果て、互いに嘆き合うようになる。
- 24 エゼキエルはあなたがたのためのしるしとなり、彼がしたとおりを、あなたがたもするようになる。このことが起こるとき、あなたがたは、わたしが神、主であることを知る。』
- 25 人の子よ。彼らが力とするもの、栄えに満ちた喜び、目の喜ぶもの、心に慕うもの、彼らの息子や娘たちを、わたしが取り去る日、
- 26 その日、逃れた者が、この知らせを告げにあなたのもとにやって来る。
- 27 その日、あなたの口は逃れて来た者に開かれ、あなたは語る。もう黙っていてはならない。こうして、あなたが彼らのしるしとなるとき、彼らは、わたしが主であることを知る。」

第25章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ。アンモン人に顔を向け、彼らに預言せよ。
- 3 あなたはアンモン人に言え。『神である主のことばを聞け。神である主はこう言われる。わたしの聖所が冒されたとき、イスラエルの地が荒れ果てたとき、ユダの家が捕囚となって行ったとき、おまえは、あはは、と言って嘲った。』
- 4 それゆえ、わたしはおまえを東の人々に渡して、彼らの所有とする。彼らはおまえのうちに宿営を張り、おまえのうちに住まいをつくり、おまえの産物を食べ、おまえの乳を飲むようになる。
- 5 わたしがラバをらくだの牧場とし、アンモン人の地を羊の檻とするとき、おまえたちは、わたしが主であることを知る。
- 6 まことに、神である主はこう言われる。おまえは手を打ち、足を踏み鳴らし、イスラエルの地を心の底から嘲り、喜んだ。』
- 7 それゆえ、わたしはおまえに手を伸ばし、おまえを異邦の民に略奪の対象として与える。わたしは、おまえを諸国の民から断ち切り、国々の間から滅ぼし、根絶やしにする。そのときおまえは、わたしが主であることを知る。』」
- 8 神である主はこう言われる。「モアブとセイルは『見よ、ユダの家は異邦の民と変わらない』と言った。』
- 9 それゆえ、わたしはモアブの山地の町々、その国の誉れであるベテ・ハ・エシモテ、バアル・メオン、キルヤタイムの町々をことごとく開け放ち、

- 10 アンモン人と一緒に東の人々に渡してその所有とし、国々の間でアンモン人が記憶されないようにする。
- 11 わたしがモアブにさばきを下すとき、彼らは、わたしが主であることを知る。」
- 12 神である主はこう言われる。「エドムはユダの家に復讐を企て、復讐を果たして、咎ある者となった。
- 13 それゆえ—神である主はこう言われる—わたしはエドムに手を伸ばし、そこから人も家畜も断って、そこを廃墟にする。テマンからデダンに至るまで人々は剣で倒れる。
- 14 わたしは、わたしの民イスラエルの手によってエドムに復讐する。わたしの怒りと憤りのままに彼らがエドムに事を行うとき、エドムはわたしが復讐するということを知る—神である主のことば。」
- 15 神である主はこう言われる。「ペリシテ人は復讐を企て、心の底から嘲ってひどい復讐をし、いつまでも敵意をもって滅ぼそうとした。
- 16 それゆえ—神である主はこう言われる—見よ。わたしはペリシテ人に手を伸ばし、クレタ人を断ち切り、海辺の残った者を滅ぼす。
- 17 わたしは激しい憤りで彼らを懲らしめ、彼らに大いなる復讐をする。わたしが彼らに復讐するとき、彼らは、わたしが主であることを知る。」

第26章

- 1 第十一年の、その月の一日、私に次のような主のことばがあった。
- 2 「人の子よ。ツロはエルサレムについて、『あはは。国々の民の門は壊され、私に明け渡された。私は豊かになり、エルサレムは廃墟となった』と言った。
- 3 それゆえ—神である主はこう言われる— ツロよ、わたしはおまえを敵とする。海が波をうねらせるように、多くの国々をおまえに向けて攻め上らせる。
- 4 彼らはツロの城壁を荒らし、そのやぐらを壊す。わたしはそのちりを払い去って、そこを裸岩にする。
- 5 ツロは海の中の網干し場となる。わたしが語ったからだ。—神である主のことば— ツロは諸国の餌食となり、
- 6 それに属する沿岸側の町々も剣で滅ぼされる。そのとき彼らは、わたしが主であることを知る。」
- 7 まことに、神である主はこう言われる。「見よ。わたしは、王の王、バビロンの王ネブカドネツアルを、馬、戦車、騎兵、そして大軍勢とともに、北からツロに連れて来る。
- 8 彼はその沿岸側の町々を剣で滅ぼし、おまえに向かって壘を築き、城壁崩しを設け、大盾を立て、
- 9 破城槌でおまえの城壁を突き崩し、やぐらを斧で打ち壊す。
- 10 彼の馬の数があまりにも多いため、その土煙がおまえをおおう。打ち破られた町に入る者のように、彼がおまえの城門に入るとき、騎兵と車両と戦車の響きに、おまえの城壁は揺れ動く。
- 11 彼は、馬のひづめでおまえの大通りをすべて踏みにじり、剣でおまえの民を殺し、おまえの巨大な石柱も地に倒れる。

- 12 彼らはおまえの財宝を略奪し、商品をかすめ奪い、城壁を破壊し、住み心地のよい家を打ち壊し、石や木や土までも、水の中に投げ込む。
- 13 わたしはおまえの騒がしい歌をやめさせる。おまえの豎琴の音も、もう聞かれない。
- 14 わたしはおまえを裸岩とする。おまえは網干し場となり、二度と建て直されない。主であるわたしが語ったからだ。—神である主のことば。」
- 15 神である主はツロにこう言われる。「刺された者がうめき、おまえの中で虐殺が行われるとき、おまえが崩れ落ちるその響きに、島々は揺れ動かないだろうか。
- 16 海の君主たちはみな、その王座から降り、上着を脱ぎ捨て、あや織りの衣服を脱ぐ。彼らは戦慄を身にまとして地面に座り、おまえのことで絶えず身震いし、啞然とする。
- 17 彼らはおまえについて哀歌を唱えて言う。海に住む者よ、おまえはどのようにして海から消え失せたのか。その町と住民は海で最も強く、ほめそやされた町であったのに。その町の住民すべてに、恐怖がもたらされた。
- 18 今、島々は おまえが崩れ落ちる日に身震いし、海の島々は おまえの退却を見てうろたえる。」
- 19 まことに、神である主はこう言われる。「わたしがおまえを廃墟の町とし、住む者のない町々のようにするとき、大水をおまえの上に湧き上がらせ、豊かな水がおまえをおおうとき、
- 20 わたしはおまえを、穴に下った者たちとともに昔の民のもとに下らせ、穴に下った者たちとともに、昔から廃墟であったような地下の国に住ませる。わたしが誉れを与える生ける者の地に、おまえが住めないようにするためだ。
- 21 わたしはおまえを恐怖のもととする。おまえはもう存在しなくなり、人がおまえを尋ねても、永久におまえを見つけることはない—神である主のことば。」

第27章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ、ツロについて哀歌を唱えよ。
- 3 あなたはツロに言え。『海の出入り口に住み、多くの島々の民と取り引きをする者よ、神である主はこう言われる。ツロよ、おまえは、「私は美の極みだ」と言った。
- 4 おまえの領土は海の真ん中にあり、おまえを築いた者は、おまえを最高に美しく仕上げた。
- 5 彼らはセニルのもみの木で おまえのすべての船板を作り、レバノンの杉を使って、おまえの帆柱を作った。
- 6 バシャンの榿の木でおまえの櫂を作り、キティムの島々の檜に象牙をはめ込んで、おまえの甲板を作った。
- 7 エジプトのあや織りの亜麻布が、おまえの帆であり、おまえの旗じるしであった。エリシャの島々からの青色と紫色の布が、おまえの覆いであった。
- 8 シドンとアルワデの住民が、おまえの漕ぎ手であった。ツロよ、おまえのうちの熟練者が、おまえの船員であった。
- 9 ゲバルの長老と、その熟練者が、おまえのうちにあって破損を修理し、海のすべての船とその水夫たちが、おまえのうちにあって おまえに商品を持ち込んだ。
- 10 ペルシア、ルデ、プテの人々は、おまえの軍隊の戦士であり、おまえに盾とかぶとを掛け、彼らはおまえに輝きを添えた。

- 11 アルワデとヘレクの人々はおまえの周りの城壁の上に、またガマデ人はおまえのやぐらの中にいて、周りの城壁に丸い小盾を掛け、おまえを最高に美しく仕上げた。
- 12 タルシシュは、おまえがあらゆる財宝に富んでいたのので、おまえと商いをし、銀、鉄、すず、鉛をおまえの商品と交換した。
- 13 ヤワン、トバル、メシェクはおまえと取り引きをし、人間と青銅の器具をおまえの商品と交換した。
- 14 ベテ・トガルマは馬、軍馬、らばをおまえの商品と交換した。
- 15 デダン人はおまえと取り引きをし、多くの島々はおまえの支配する市場であり、彼らは象牙と黒檀をおまえに貢ぎとして持って来た。
- 16 アラムは、おまえの事業が多岐にわたったので、おまえと商いをし、トルコ石、紫色の布、あや織物、白亜麻布、珊瑚、紅玉をおまえの商品と交換した。
- 17 ユダとイスラエルの地もおまえと取り引きをし、ミニテの小麦、きび、蜜、香油、乳香をおまえの商品と交換した。
- 18 おまえの事業が多岐にわたり、あらゆる財宝に富んでいたのので、ダマスコモ、ヘルボンのぶどう酒とツァハルの羊毛でおまえと商いをした。
- 19 ダンとヤワンもおまえの商品と交換した。その商品の中にはウザルからの銑鉄、桂枝、菖蒲があった。
- 20 デダンは鞍に敷く織り布でおまえと取り引きをした。
- 21 アラビア人、ケダルの君主たちもみな、おまえの御用商人であり、子羊、雄羊、やぎで商いをした。
- 22 シェバとラアマの商人たちはおまえと取り引きをし、あらゆる上等の香料、宝石、また金をおまえの商品と交換した。
- 23 ハラン、カンネ、エデン、それにシェバの商人たち、アッシュルとキルマデはおまえと取り引きをした。
- 24 おまえの市場で、彼らは豪華な衣服、青色の衣、あや織物、固く撚った綱でしっかり留められた多彩な敷き物をもって、おまえと取り引きをした。
- 25 タルシシュ船がおまえの商品を運んだ。おまえは大海のただ中で満ちあふれて、大いに栄えた。
- 26 おまえの漕ぎ手はおまえを大海原に連れ出したが、東風が大海のただ中でおまえを打ち破った。
- 27 おまえの財宝、貨物、商品、おまえの水夫、船員、修繕工、おまえの商品を商う者、おまえの中にいるすべての戦士、おまえの間にいる全集団も、おまえが崩れ落ちる日には大海のただ中に沈んでしまう。
- 28 おまえの船員の叫び声に海辺は身震いする。
- 29 權を取る者、水夫、海の船員はみな、船から降りて陸に立ち、
- 30 おまえのために大声をあげて激しく泣き、頭にちりをかぶり、灰の中を転げ回る。
- 31 彼らはおまえのために頭を剃り、粗布をまとい、おまえのために心を痛めて泣き、痛々しく嘆く。
- 32 泣き声をあげて哀歌を歌い、おまえのために悲しんで歌う。だれがツ口のように海の真ん中で滅ぼされただろうか。

- 33 諸方の海から得たおまえの貨物が陸揚げされ、おまえは多くの国々の民を満ち足らせた。その豊かな財宝と商品で地の王たちを富ませた。
- 34 おまえが海で打ち破られ、おまえの商品とおまえの全集団が、おまえとともに海の深みに沈むとき、
- 35 島々の住民はみな、おまえのことで啞然とし、その王たちはおぞ気立ち、慌てふためく。
- 36 国々の民の商人たちはおまえを嘲り、おまえは恐怖のもととなり、とこしえに消え去る。』」

第28章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ、ツロの君主に言え。神である主はこう言われる。あなたの心は高ぶり、『私は神だ。海の真ん中で神の座に着いている』と言った。あなたは自分の心を神のように見なしたが、あなたは人であって、神ではない。
- 3 あなたはダニエルよりも知恵があり、どんな秘密もあなたに隠されていない。
- 4 あなたは自分の知恵と英知によって富を築き、金や銀を宝物倉に蓄えた。
- 5 商いに多くの知恵を使って富を増し、あなたの心は富のゆえに高ぶった。
- 6 それゆえ、神である主はこう言う。あなたは自分の心を神の心のように見なした。
- 7 それゆえ、わたしは諸国の中で最も横暴な他国人を連れて来て、あなたを攻めさせる。あなたの知恵の麗しさに向かって 彼らは剣を抜き、あなたのまばゆい輝きを汚し、
- 8 あなたを滅びの穴に投げ入れる。あなたは海のただ中で 刺し殺された者の死を遂げる。
- 9 それでもあなたは、自分を殺す者の前で『私は神だ』と言うのか。あなたを刺し殺す者たちの手の中であって、あなたは、人であり、神ではない。
- 10 あなたは他国人の手によって 無割礼の者として死ぬ。わたしがこれを語ったからだ。—神である主のことば。」
- 11 次のような主のことばが私にあった。
- 12 「人の子よ。ツロの王について哀歌を唱えて、彼に言え。神である主はこう言われる。あなたは全きものの典型であった。知恵に満ち、美の極みであった。
- 13 あなたは神の園、エデンにいて、あらゆる宝石に取り囲まれていた。赤めのう、トパーズ、ダイヤモンド、緑柱石、縞めのう、碧玉、サファイア、トルコ石、エメラルド。あなたのタンバリンと笛は金で作られ、これらはあなたが創造された日に整えられた。
- 14 わたしは、油注がれた守護者ケルビムとしてあなたを任命した。あなたは神の聖なる山にいて、火の石の間を歩いていた。
- 15 あなたの行いは、あなたが創造された日から、あなたに不正が見出されるまでは、完全だった。
- 16 あなたの商いが繁盛すると、あなたのうちに暴虐が満ち、こうしてあなたは罪ある者となった。そこで、わたしはあなたを汚れたものとして 神の山から追い出した。守護者ケルビムよ。わたしは火の石の間からあなたを消え失せさせた。
- 17 あなたの心は自分の美しさに高ぶり、まばゆい輝きのために自分の知恵を腐らせた。そこで、わたしはあなたを地に放り出し、王たちの前で見せ物とした。

- 18 あなたは不正な商いで不義を重ね、あなたの聖所を汚した。わたしはあなたのうちから火を出し、あなたを焼き尽くした。こうして、すべての者が見ている前で、わたしはあなたを地上の灰とした。
- 19 国々の民のうちであなたを知る者はみな、あなたのことで啞然とした。あなたは恐怖をもたらすものとなり、とこしえに消え失せる。」
- 20 次のような主のことばが私にあった。
- 21 「人の子よ。シドンに顔を向け、それに預言せよ。
- 22 神である主はこう言われる。シドンよ。わたしはおまえを敵とし、おまえのうちでわたしの栄光を現す。わたしがシドンにさばきを下し、わたしが聖であることをそこに示すとき、彼らは、わたしが主であることを知る。
- 23 わたしはそこに疫病を、その通りには流血を送り込む。四方から攻める剣のため、刺し殺された者がそのただ中に倒れる。そのとき彼らは、わたしが主であることを知る。」
- 24 「イスラエルの家には、彼らを侮ったすべての周囲の者たちが突き刺す茨も、痛みを与えとげも再び臨むことはない。そのとき彼らは、わたしが神、主であることを知る。」
- 25 神である主はこう言われる。「わたしがイスラエルの家を、散らされていた諸国の民の中から集めるとき、わたしは国々の目の前で、わたしが聖であることを示す。彼らは、わたしがわたしのしもべヤコブに与えた土地に住む。
- 26 そこに安らかに住み、家々を建て、ぶどう畑を作る。彼らは安らかに住む。周囲から彼らを侮るすべての者にわたしがさばきを下すとき、彼らは、わたしが彼らの神、主であることを知る。」

第29章

- 1 第十年の第十の月の十二日、私に次のような主のことばがあった。
- 2 「人の子よ。エジプトの王ファラオに顔を向け、彼とエジプト全体に預言し、
- 3 こう告げよ。神である主はこう言われる。エジプトの王ファラオよ、わたしはあなたに敵対する。あなたは、自分の川の中に横たわる巨獣で、『川は私のもの。私がこれを造ったのだ』と言っている。
- 4 わたしはあなたのおごに鉤をかけ、あなたの川の魚をあなたの鱗につけ、あなたと、その鱗についたすべての川の魚を、川の中から引き上げる。
- 5 わたしは、あなたとあなたの川のすべての魚を 荒野に投げ捨てる。あなたは野に倒れ、集められることも、一緒にされることもない。わたしがあなたを 地の獣と空の鳥の餌食とするとき、
- 6 エジプトの住民はみな、わたしが主であることを知る。彼らがイスラエルの家にとって 葦の杖にすぎなかったからだ。
- 7 彼らがあなたの手をつかむと、あなたは折れて、彼らの肩をみな砕いた。彼らがあなたに寄りかかると、あなたはくずおれて、彼らの腰をみな痛めさせた。
- 8 それゆえ、神である主はこう言う。わたしは剣をあなたの上にもたらし、人も家畜も、あなたのうちから絶ち滅ぼす。
- 9 こうして、エジプトの地は荒れ果てて廃墟となる。そのとき彼らは、わたしが主であることを知る。エジプトは『川は私のもの。私がこれを造ったのだ』と言った。

- 10 それゆえ、わたしは、あなたとあなたの川を敵とし、エジプトの地を、ミグドルからセベネ、さらにクシュの国境に至るまで、すっかり干上がった廃墟にする。
- 11 人の足もそこを通らず、家畜の足もそこを通らず、四十年の間だれも住むことがない。
- 12 わたしはエジプトの地を、荒れ果てた国々の間で荒れ果てさせ、その町々は四十年の間、廃墟の町々の間で荒れ果てる。わたしはエジプト人を諸国の間に散らし、国々に追いやる。」
- 13 まことに、神である主はこう言われる。「四十年の終わりになって、わたしはエジプト人を、散らされていた諸国の民の中から集め、
- 14 エジプトを回復させる。彼らをその出身地、パテロスの地に帰らせる。彼らはそこで、取るに足りない王国となる。
- 15 どの王国にも劣り、二度と諸国の上に自分を高くすることはない。彼らが諸国を支配しないように、わたしは彼らを小さくする。
- 16 イスラエルの家にとっては、もう頼みとはならなくなる。これに助けを求めたときの咎を思い起こさせることになる。このとき彼らは、わたしが神、主であることを知る。」
- 17 第二十七年の第一の月の一日、私に次のような主のことばがあった。
- 18 「人の子よ。バビロンの王ネブカドネツアルは、ツロに対して自分の軍隊を大いに働かせた。それで、皆の頭ははげ、皆の肩はすりむけた。だが、彼にも彼の軍隊にも、ツロからはその労役に対する報いがなかった。
- 19 それゆえ—神である主はこう言われる—わたしはバビロンの王ネブカドネツアルにエジプトの地を与える。彼はその富を取り上げ、物を分捕り、かすめ奪う。それが彼の軍隊への報いとなる。
- 20 彼の働きへの報酬として、わたしは彼にエジプトの地を与える。彼らがわたしのためにこれを行ったからである—神である主のことば。
- 21 その日、わたしはイスラエルの家のために、一つの角を生えさせる。そして、彼らの間であなたに口を開かせる。そのとき彼らは、わたしが主であることを知る。」

第30章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ、預言せよ。神である主はこう言われる。泣き叫べ。『ああ、その日』と。
- 3 その日は近い。主の日は近い。その日は暗雲の日、諸国の終わりの時だ。
- 4 剣はエジプトに下る。エジプトで刺された者が倒れ、その富が奪われ、その基が破壊されるとき、クシュに戦慄が走る。
- 5 クシュ、プテ、ルデ、あらゆる混血の民、クブ、そしてその同盟国の人々も、彼らとともに剣に倒れる。
- 6 —主はこう言われる— エジプトを支える者は倒れ、その強い誇りは地に落ち、ミグドルからセベネに至るまで みな剣に倒れる—神である主のことば—。
- 7 エジプトは荒れ果てた国々の間で荒れ果て、その町々は廃墟の町々の間で荒れ果てる。
- 8 わたしがエジプトに火をつけ、これを助ける者たちがみな碎かれるとき、彼らは、わたしが主であることを知る。

- 9 その日、わたしのもとから使者たちが船で出て行き、安穩としているクシュ人を脅かす。エジプトの日に、彼らの間に戦慄が走る。今、その日が来ようとしている。」
- 10 神である主はこう言われる。「わたしはバビロンの王ネブカドネツアルによって、エジプトの富を終わらせる。
- 11 彼とその民、すなわち諸国の中で最も横暴な者たちが、その地を滅ぼすために動員される。彼らは剣を抜いてエジプトを攻め、刺し殺された者でその地を満たす。
- 12 わたしはナイル川を干上がらせ、その国を悪人どもの手に売り渡し、その国とそこにあるすべての物を他国人の手によって荒れ果てさせる。主であるわたしがこれを語る。」
- 13 神である主はこう言われる。「わたしは偶像を滅ぼし、メンフィスから偽りの神々を取り除く。エジプトの地には、もう君主が立たなくなる。わたしはエジプトの地に恐れを臨ませる。
- 14 わたしはパテロスを荒らし、ツォアンに火をつけ、テーベにさばきを下す。
- 15 わたしはエジプトの砦シンにわたしの憤りを注ぎ、テーベの群衆を絶ち滅ぼす。
- 16 わたしはエジプトに火をつける。シンは苦しみに悶え、テーベは砕かれ、そしてメンフィスは白昼の敵に襲われる。
- 17 オンとピ・ベセテの若い男たちは剣に倒れ、その町々は捕らえられて行く。
- 18 わたしがエジプトのくびきを砕き、その強い誇りが絶たれるとき、タフパンヘスでは日は暗くなり、雲がそこをおおい、その娘たちは捕らえられて行く。
- 19 わたしがエジプトにさばきを下すとき、彼らは、わたしが主であることを知る。」
- 20 第十一年の第一の月の七日、私に次のような主のことばがあった。
- 21 「人の子よ、わたしはエジプトの王ファラオの片腕を砕いた。見よ。それは巻かれず、手当てをされず、包帯を当てて巻かれることなく、良くなって剣を取ることもできない。」
- 22 それゆえ、神である主はこう言われる。「わたしはエジプトの王ファラオに敵対し、丈夫な腕も砕かれた腕も、その両腕を砕く。そして、その手から剣を落とす。
- 23 わたしはエジプト人を諸国の間に散らし、国々に追いやる。
- 24 わたしはバビロンの王の腕を強くし、わたしの剣をその手に渡す。しかし、ファラオの腕は砕く。彼は刺された者がうめくように、バビロンの王の前でうめく。
- 25 わたしはバビロンの王の腕を強くし、ファラオの腕が垂れ下がるようにする。わたしがバビロンの王の手にわたしの剣を渡し、彼が手をエジプトの地に伸ばすとき、彼らは、わたしが主であることを知る。
- 26 わたしがエジプト人を諸国の間に散らし、国々に追いやるとき、彼らは、わたしが主であることを知る。」

第31章

- 1 第十一年の第三の月の一日、私に次のような主のことばがあった。
- 2 「人の子よ、エジプトの王ファラオと彼の大軍に言え。あなたの偉大さはだれに比べられるだろうか。
- 3 見よ、アッシリア。それはレバノンの杉。美しい枝、濃い陰をつくる森、その丈は高く、そのこずえは雲の中。

- 4 水がそれを育て、湧き出る水がこれを高くした。幾筋もの川が、それが植わっている周りに流れ、その流れは野のすべての木々に送られた。
- 5 その丈は野のどの木よりも高くなり、送られる豊かな水によって、小枝は茂り、大枝は伸びた。
- 6 小枝には空のあらゆる鳥が巣を作り、大枝の下では野のあらゆる獣が子を産み、その木陰には多くの国々がみな住んだ。
- 7 それは大きくなり、枝も伸びて美しかった。豊かな水にその根を下ろしていたからだ。
- 8 神の園の杉の木も、これとは比べ物にならない。もみの木も、この小枝とは比べられない。すずかけの木も、この若枝のようではなく、神の園にあるどの木も、その美しさにはかなわない。
- 9 わたしがその枝を茂らせ、美しく仕立てたので、神の園にあるエデンのすべての木々は、これを羨んだ。」
- 10 それゆえ、神である主はこう言われる。「それが高くそびえ、こずえを雲の中に伸ばし、その高さゆえにおごり高ぶったので、
- 11 わたしはこれを、諸国のうちの力ある者の手に渡した。その者はこれを厳しく罰し、わたしも、その悪行に応じてこれを追い出した。
- 12 こうして、諸国の中で最も横暴な他国人が、これを切り倒して投げ捨てた。山々に、またあらゆる谷間にその枝は落ち、大枝はこの地のすべての谷川で折られた。地のあらゆる民はその木陰から出て行き、これを見捨てた。
- 13 その倒された幹には空のあらゆる鳥が住み、その大枝のそばには野のあらゆる獣がいるようになる。
- 14 このことすべては、水のほとりのどんな木も、その丈を高くして、こずえを雲の中に伸ばさないようにするためであり、すべて、水に潤う木が高ぶってそびえないようにするためである。まことに、これらはみな、人の子らの間で、穴に下る者たちとともに、地下の国、死に渡された。」
- 15 神である主はこう言われる。「彼がよみに下る日に、わたしは人を喪に服させた。彼のゆえに深淵をおおい、川をせき止め、豊かな水を干上がらせたのである。わたしは彼のゆえにレバノンに憂いに沈ませたので、野のすべての木も彼のゆえにしおれた。
- 16 わたしが彼を穴に下る者たちとともによみに下らせたとき、わたしはその落ちる音で諸国を震えさせた。すると、地下の国では、エデンのあらゆる木、レバノンの選り抜きの良い木、水に潤うすべての木が慰められた。
- 17 彼とともに、それらもよみに下った。剣で刺し殺された者、そして諸国の間にあって彼の陰に住み、彼の腕となった者たちがいるところである。
- 18 あなたは栄えと偉大さにおいて、エデンの木々のどれに最も似ているだろうか。あなたはエデンの木々とともに、地下の国に落とされる。剣で刺し殺された者とともに、無割礼の者たちの間に横たわるようになる。これは、ファラオとそのすべての大軍のことである—神である主のことば。」

第32章

- 1 第十二年の第十二の月の一日、私に次のような主のことばがあった。

- 2 「人の子よ。エジプトの王ファラオについて哀歌を唱えて彼に言え。『あなたは自分を国々の若獅子だと思っている。しかし、あなたは大海の巨獣のようだ。川の中で暴れ回り、足で水をかき混ぜ、その豊かな流れを濁らせる。
- 3 一神である主はこう言われる― わたしは、多くの民族の群れを集め、あなたの上にわたしの網を広げる。彼らはあなたを地引き網で引き上げる。
- 4 わたしはあなたを地に投げ捨て、野に放り出す。空のあらゆる鳥をあなたの上に舞い降りさせ、全地の獣をあなたで満腹させる。
- 5 あなたの肉を山々にまき散らし、あなたの屍で谷を満たし、
- 6 その地を、あなたからあふれ流れる血で、山々に至るまで潤す。谷川もあなたの血で満たされる。
- 7 あなたが吹き消されるとき、わたしは空をおおい、星を暗くする。太陽を雲でおおい、月が光を放たないようにする。
- 8 わたしは空に輝くすべての光をあなたの上で暗くし、あなたの地を闇でおおう。一神である主のことば―
- 9 わたしが諸国の間で、あなたの知らない国々にあなたの破滅の知らせをもたらすとき、わたしは多くの国々の民の心を苛立たせる。
- 10 わたしは多くの国々の民をあなたのごことで茫然とさせる。彼らの王たちも、わたしが彼らの前でわたしの剣を振りかざすとき、あなたのごことでおぞ氣立つ。あなたが崩れ落ちる日に、彼らはみな自分のいのちを思い、その震えは止まらない。
- 11 まことに、神である主はこう言う。バビロンの王の剣があなたに下る。
- 12 わたしは、勇士の剣であなたの大軍を倒す。彼らはみな最も横暴な異邦の民だ。彼らはエジプトの誇りを踏みにじり、その大軍はみな滅ぼし尽くされる。
- 13 わたしはあらゆる家畜を、豊かな水のほとりから消し去る。人の足は二度とこれを濁さず、家畜のひづめもこれを濁さない。
- 14 そのとき、わたしはこの水を澄ませ、その川を油のように流れさせる。一神である主のことば―
- 15 わたしがエジプトの地に荒廃をもたらし、わたしがその全住民を打ち、その地がそこに満ちるすべてを失って荒れ果てるとき、彼らは、わたしが主であることを知る。』
- 16 これは、人々が悲しんで歌う哀歌である。国々の娘たちはこれを悲しんで歌う。エジプトとその大軍すべてのために、彼女たちはこの哀歌を悲しんで歌う―神である主のことば。」
- 17 第十二年の、その月の十五日、私に次のような主のことばがあった。
- 18 「人の子よ、エジプトの大軍のために嘆け。その民と力強い国々の娘たちを、穴に下る者たちとともに地下の国に下らせよ。
- 19 『あなたは麗しさの点でだれよりもまさっているというのか。下って行って、無割礼の者たちとともに横たわれ。』
- 20 彼らは、剣で刺し殺された者たちの間に倒れる。その国は剣に渡された。その国とその大軍すべてを引きずり降ろせ。
- 21 勇敢な勇士たちは、国を助けた者たちとともに、よみの中から彼について語る。『彼らは下って来て、剣で刺し殺された者、無割礼の者たちとともに横たわった』と。

- 22 そこにはアッシリアとその全集団がいる。周りには彼らの墓があり、みな、刺し殺された者、剣に倒れた者である。
- 23 アッシリアの墓は穴の奥の方にあり、その集団はその墓の周りにいる。彼らはみな、刺し殺された者、剣に倒れた者で、生ける者の地に恐怖をもたらした者たちである。
- 24 エラムとその大軍がその墓の周りにいる。彼らはみな、刺し殺された者、剣に倒れた者で、無割礼のまま地下の国に下った者、生ける者の地に恐怖をもたらした者たちで、穴に下る者とともに自らの恥辱を負っている。
- 25 その寝床は刺し殺された者たちの間に置かれ、その大軍すべてもその墓の周りにいる。みな、無割礼の者、剣で刺し殺された者である。彼らの恐怖が、生ける者の地にあり、穴に下る者とともに自らの恥辱を負っている。彼らは刺し殺された者たちの間に置かれる。
- 26 そこにはメシクとトバルがあり、その大軍のすべてもその墓の周りにいる。みな、無割礼の者、剣で刺し殺された者で、生ける者の地に恐怖をもたらしたからである。
- 27 無割礼の者として倒れた勇士たちとともに彼らは横たわることはできない。勇士たちは武具を持ってよみに下り、剣は頭の下に置かれている。咎が彼らの骨の上にある。勇士たちのもたらした恐怖が、生ける者の地にあったからである。
- 28 しかしあなたは、無割礼の者たちの間で碎かれ、剣で刺し殺された者たちとともに横たわる。
- 29 そこにはエドムとその王たち、そのすべての族長たちがいる。彼らは、その勇敢さにもかかわらず、剣で刺し殺された者たちとともに、無割礼の者たち、および穴に下る者たちとともに横たわる。
- 30 そこには北のすべての君主たち、すべてのシドン人がいる。彼らの勇敢さは恐怖をもたらしたが、恥を見、刺し殺された者たちとともに下ったのである。それで無割礼の彼らは、剣で刺し殺された者たちとともに横たわり、穴に下る者たちとともに自分たちの恥辱を負っている。
- 31 ファラオは彼らを見て、剣で刺し殺された自分の大軍、ファラオとその全軍勢のことで慰められる—神である主のことば—。
- 32 わたしが生ける者の地に恐怖をもたらしたので、ファラオとその大軍は、無割礼の者たちの間で、剣で刺し殺された者たちとともに横たわる—神である主のことば。」

第33章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ、あなたの民の者たちにこう告げよ。『わたしがある地に剣をもたらすとき、その国の民は自分たちの中から一人を取り、自分たちの見張りとする。』
- 3 さて、その人が、剣がその地に来るのを見て角笛を吹き鳴らし、民に警告を与えた場合、
- 4 角笛の音を聞いた者が警告を聞き入れないなら、剣が来てその者を討ち取るときに、その血の責任はその者の頭上にある。
- 5 角笛の音を聞きながら警告を聞き入れなければ、その血の責任は彼自身にある。しかし、警告を聞き入れていれば、その者は自分のいのちを救う。
- 6 しかし、見張りが、剣の来るのを見ながら角笛を吹き鳴らさず、そのため民が警告されず、剣が来て彼らの中の一人を討ち取った場合、その者は自分の咎のゆえに討ち取られるが、わたしはその血の責任を見張りに問う。』

- 7 人の子よ、わたしはあなたをイスラエルの家の見張りとした。あなたは、わたしの口からことばを聞くとき、わたしに代わって彼らに警告を与えよ。
- 8 わたしが悪しき者に『悪しき者よ、あなたは必ず死ぬ』と言うとき、もし、あなたがその悪しき者に、その道から離れるように警告しないなら、その悪しき者は自分の咎のゆえに死ぬ。そして、わたしは彼の血の責任をあなたに問う。
- 9 あなたが、悪しき者にその道から立ち返るよう警告しても、彼がその道から立ち返らないなら、彼は自分の咎のゆえに死ななければならない。しかし、あなたは自分のいのちを救うことになる。
- 10 人の子よ、あなたはイスラエルの家に言え。『あなたがたは「私たちの背きと罪は私たちの上にのしかかり、そのため私たちは朽ち果てた。私たちはどうして生きられよう」と言っている。』
- 11 彼らにこう言え。『わたしは生きている—神である主のことば—。わたしは決して悪しき者の死を喜ばない。悪しき者がその道から立ち返り、生きることを喜ぶ。立ち返れ。悪の道から立ち返れ。イスラエルの家よ、なぜ、あなたがたは死のうとするのか。』
- 12 人の子よ、あなたは自分の民の者たちにこう言え。『正しい人の正しさも、その人が背いたときには、それが彼を救うことはない。悪しき者も、その者がその悪から立ち返るときには、その悪につまずき倒れることはない。正しい人でも、罪ある者となるとき、自分の正しさによって生きることができない。』
- 13 わたしが正しい人に「あなたは必ず生きる」と言っても、もし彼が自分の正しさに抛り頼み、不正を行うなら、彼の正しい行いは何一つ覚えられず、自分の行った不正によって死ななければならない。
- 14 わたしが悪しき者に「あなたは必ず死ぬ」と言っても、もし彼が自分の罪から立ち返り、公正と義を行い、
- 15 その悪しき者が質物を返し、かすめた物を償い、不正を行わず、いのちの掟に従って歩むなら、彼は必ず生き、死ぬことはない。
- 16 彼が犯した罪は何一つ覚えられず、公正と義を行った彼は必ず生きる。』
- 17 あなたの民の者たちは『主の道は公正でない』と言っている。しかし、彼らの道こそ公正ではない。
- 18 正しい人でも、自分の正しい行いから離れ、不正を行うなら、彼はそのことのゆえに死ぬ。
- 19 悪しき者でも、自分の悪から離れ、公正と義を行うなら、そのことのゆえに彼は生きる。
- 20 それでも、あなたがたは『主の道は公正でない』と言う。イスラエルの家よ。わたしはあなたがたを、それぞれの生き方にしたがってさばく。」
- 21 私たちが捕囚となって十二年目の第十の月の五日、エルサレムから逃れた者が私のもとに来て、「都は占領された」と言った。
- 22 その逃れた者が来る前の夕方に、主の御手が私の上であり、朝になって彼が私のもとに来る前に、私の口は開かれた。こうして私の口は開かれて、もはや私は黙っていなかった。
- 23 次のような主のことばが私にあった。
- 24 「人の子よ。イスラエルの地の廢墟に住むこれらの者たちは、『アブラハムは一人でこの地を所有した。私たちは多い。当然、この地はわれわれの所有地として与えられている』と言っている。

- 25 それゆえ、彼らに言え。『神である主はこう言われる。あなたがたは血がついたままで食べ、自分たちの偶像を仰ぎ見、人の血を流しているのに、この地を所有しようとするのか。
- 26 あなたがたは自分の剣に拠り頼み、忌み嫌うべきことをし、それぞれ隣人の妻を汚しながら、この地を所有しようとするのか。』
- 27 あなたは彼らにこう言え。『神である主はこう言われる。わたしは生きている。あの廢墟にいる者は必ず剣に倒れる。野にいる者も、わたしは獣に与えて、その餌食とする。要害と洞穴にいる者は疫病で死ぬ。
- 28 わたしはその地を荒れ果てさせ、荒廢した地とする。その力強い誇りは失せ、イスラエルの山々は荒れ果て、だれもそこを通らなくなる。
- 29 わたしが、彼らの行ったすべての忌み嫌うべきわざのために、その地を荒れ果てさせて荒廢した地とするとき、彼らは、わたしが主であることを知る。』
- 30 人の子よ。あなたの民の者たちは城壁のそばや家々の戸口で、あなたについてこう語り合っている。『さあ、どんなことばが主から出るか聞きに行こう。』
- 31 彼らは群れをなしてあなたのもとにやって来る。そして、わたしの民はあなたの前に座り、あなたのことばを聞く。しかし、それを実行しようとはしない。彼らは口で甘いことばを語り、心で利得を追っている。
- 32 あなたは彼らにとっては、音楽に合わせて美しく歌う恋の歌のようだ。彼らはあなたのことばを聞くが、それを実行しようとはしない。
- 33 しかし、あのことは起こり、もう来ている。彼らは、自分たちの間に一人の預言者がいたことを知る。』

第34章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ、イスラエルの牧者たちに向かって預言せよ。預言して、牧者である彼らに言え。『神である主はこう言われる。わざわざだ。自分を養っているイスラエルの牧者たち。牧者が養わなければならないのは羊ではないか。
- 3 あなたがたは脂肪を食べ、羊の毛を身にまとい、肥えた羊を屠るが、羊は養わない。
- 4 弱った羊を強めず、病気のものを癒やさず、傷ついたものを介抱せず、追いやられたものを連れ戻さず、失われたものを捜さず、かえって力づくで、しかも過酷な仕方では彼らを支配した。
- 5 彼らは牧者がいないので散らされ、あらゆる野の獣の餌食となった。こうして彼らは散らされた。
- 6 わたしの羊はすべての山々、すべての高い丘をさまよった。わたしの羊は地の全面に散らされ、尋ね求める者もなく、捜す者もない。
- 7 それゆえ、牧者たちよ、主のことばを聞け。
- 8 わたしは生きている—神である主のことば—。わたしの羊はかすめ奪われ、牧者がいないために、あらゆる野の獣の餌食となってきた。それなのに、わたしの牧者たちはわたしの羊を捜し求めず、かえって自分自身を養って、わたしの羊を養ってこなかった。
- 9 それゆえ、牧者たちよ、主のことばを聞け。
- 10 神である主はこう言う。わたしは牧者たちを敵とし、彼らの手からわたしの羊を取り返し、彼らに羊を飼うのをやめさせる。もはや牧者たちが自分自身を養うことはなくなる。わたしは彼

らの口からわたしの羊を救い出し、彼らの餌食にさせない。』」

- 11 まことに、神である主はこう言われる。「見よ。わたしは自分でわたしの羊の群れを捜し求め、これを捜し出す。
- 12 牧者が、散らされた羊の群れのただ中にいるときに、その群れの羊を確かめるように、わたしはわたしの羊を確かめ、雲と暗黒の日に散らされたすべての場所から彼らを救い出す。
- 13 わたしは諸国の民の中から彼らを導き出し、国々から彼らを集め、彼らの地に連れて行き、イスラエルの山々や谷川のほとり、またその地のすべての居住地で彼らを養う。
- 14 わたしは良い牧草地で彼らを養い、イスラエルの高い山々が彼らの牧場となる。彼らはその良い牧場に伏し、イスラエルの山々の肥えた牧草地で養われる。
- 15 わたしがわたしの羊を飼い、わたしが彼らを憩わせる—神である主のことば—。
- 16 わたしは失われたものを捜し、追いやられたものを連れ戻し、傷ついたものを介抱し、病気のものに力づける。肥えたものと強いものは根絶やしにする。わたしは正しいさばきをもって彼らを養う。
- 17 わたしの群れよ。あなたがたについて、神である主はこう言う。見よ、わたしは羊と羊、雄羊と雄やぎの間をさばく。
- 18 あなたがたは良い牧草地で草を食べていながら、それでも足りないのか。その牧草地の残りを足で踏み荒らすとは。澄んだ水を飲みながら、その残りを足で濁すとは。
- 19 わたしの群れは、あなたがたの足が踏み荒らした草を食べ、あなたがたの足が濁した水を飲んでいる。」
- 20 それゆえ、神である主は彼らにこう言われる。「見よ、わたし自身が、肥えた羊と痩せた羊との間をさばく。
- 21 あなたがたが脇腹と肩で押しのけ、その角ですべての弱いものを突き倒し、ついに彼らを外に追い散らしてしまったので、
- 22 わたしはわたしの群れを救い、彼らが再び餌食とならないようにする。そして、わたしは羊と羊の間をさばく。
- 23 わたしは、彼らを牧する一人の牧者、わたしのしもベダビデを起こす。彼は彼らを養い、その牧者となる。
- 24 主であるわたしが彼らの神となり、わたしのしもベダビデが彼らのただ中で君主となる。わたしは主である。わたしが語る。
- 25 わたしは彼らと平和の契約を結び、悪い獣をその地から取り除く。彼らは安らかに荒野に住み、森の中で眠る。
- 26 わたしは、彼らにも、わたしの丘の周りにも祝福を与え、時にかなって雨を降らせる。それは祝福の雨となる。
- 27 野の木は実を実らせ、地は産物を生じ、彼らは心安らかに自分たちの土地にいるようになる。わたしが彼らのくびきの横木を砕き、彼らを奴隷にした者たちの手から救い出すとき、彼らは、わたしが主であることを知る。
- 28 彼らは二度と国々の餌食とならず、その地の獣も彼らを食い殺さない。彼らは安らかに住み、もう彼らを脅かす者はいない。
- 29 わたしは彼らのために立派な耕作地を開く。彼らは、再びその地で飢饉にあうこともなく、再び国々の侮辱を受けることもない。

- 30 このとき彼らは、わたしが、彼らとともにいる彼らの神、主であり、彼らイスラエルの家がわたしの民であることを知る—神である主のことば—。
- 31 あなたがたはわたしの羊、わたしの牧場の羊である。あなたがたは人間で、わたしはあなたがたの神である—神である主のことば。 」

第35章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ。セイルの山に顔を向け、これについて預言せよ。
- 3 神である主はこう言われる。 セイルの山よ。わたしはおまえを敵とする。 わたしはおまえに手を伸ばし、 おまえを全き荒廢の地とする。
- 4 わたしがおまえの町々を廢墟にし、 おまえを荒れ果てさせるとき、 おまえは、わたしが主であることを知る。
- 5 おまえはいつまでも敵意を抱き、イスラエル人の災難の時、すなわち彼らの最後の刑罰の時、彼らを劍の力に引き渡した。
- 6 それゆえ—神である主のことば—わたしは生きている。わたしは必ずおまえを血に渡す。血はおまえを追う。おまえは血を憎むことがなかった。だから、血がおまえを追いかける。
- 7 わたしはセイルの山を全くの廢墟とし、そこから人の往来を絶つ。
- 8 わたしはその山々を、刺し殺された者で満たし、おまえの丘、谷、すべての谷川に、劍で刺し殺された者たちが倒れる。
- 9 わたしはおまえを永遠に荒れ果てさせる。おまえの町々には住む者がいなくなる。そのときおまえたちは、わたしが主であることを知る。
- 10 おまえは、『これら二つの民、二つの国は、われわれのものだ。われわれはそれを占領しよう』と言った。しかし、そこには主がいたのである。
- 11 それゆえ—神である主のことば—わたしは生きている。わたしは必ずおまえを罰する。おまえが憎しみから彼らに対してふるまったのと、同じほどの怒りとねたみをもって。わたしがおまえをさばくとき、わたしは彼らに対して自らを現す。
- 12 そのときおまえは、わたしが主であることを知る。わたしは、おまえがイスラエルの山々に向かって『これは荒れ果てて、われわれの餌食となった』と言って侮辱したのをすべて聞いている。
- 13 おまえたちはわたしに向かって豪語し、わたしに向かってことばを重ねたが、わたしはそれを聞いている。
- 14 神である主はこう言う。全地が喜ぶほどに、わたしはおまえを荒れ果てさせる。
- 15 おまえは、イスラエルの家のゆずりの地が荒れ果てたことを喜んだが、わたしはおまえに同じようにする。セイルの山よ。おまえは荒れ果て、エドム全体もそうなる。そのとき彼らは、わたしが主であることを知る。 」

第36章

- 1 「人の子よ、あなたはイスラエルの山々に預言せよ。イスラエルの山々よ、主のことばを聞け。

- 2 神である主はこう言われる。敵がおまえたちに向かって『あはは、昔からの高き所がわれわれの所有となった』と言っている。
- 3 それゆえ、預言せよ。神である主はこう言われる。おまえたちは周りの民に荒らされ、踏みつけられ、ほかの国々の所有とされた、まさにその理由で、おまえたちは人々の語りぐさとなり、そしりの的となった。
- 4 それゆえ、イスラエルの山々よ、神である主のことばを聞け。神である主はこう言われる。山や丘、谷川や谷、荒れ果てた廃墟、また、ほかの周囲の国々にかすめ奪われ、嘲られて見捨てられた町々に向かって。
- 5 それゆえ、神である主はこう言われる。わたしは燃えるねたみをもって、ほかの国々とエドム全土に告げる。彼らは心の底から喜び、思い切り嘲って、わたしの国を自分たちの所有とし、牧場をかすめ奪ったのだ。
- 6 それゆえ、イスラエルの地について預言し、山や丘、谷川や谷に向かって言え。神である主はこう言われる。見よ。おまえたちが国々の侮辱を受けてきたので、わたしはねたみと憤りをもって告げる。
- 7 それゆえ、神である主はこう言われる。わたしは手を上げて厳かに誓う。おまえたちを取り囲む諸国の民は、必ず恥辱を負う。
- 8 だが、おまえたち、イスラエルの山々よ。おまえたちは枝を出し、わたしの民イスラエルのために実を結ぶ。彼らが帰って来るのが近いからだ。
- 9 というのは、わたしがおまえたちのところに行き、おまえたちのところに向かうからだ。おまえたちは耕され、種を蒔かれる。
- 10 わたしはおまえたちの上、イスラエルの全家に人を増やす。町々は住む所となり、廃墟は建て直される。
- 11 わたしはおまえたちの上に人と家畜を増やす。彼らは増えて、多くの子を生む。わたしはおまえたちを、昔のように人の住む所とし、以前よりも栄えさせる。そのときおまえたちは、わたしが主であることを知る。
- 12 わたしはおまえたちの上に人を、わたしの民イスラエルを歩かせる。彼らはおまえを所有し、おまえは彼らの相続地となる。おまえは二度と彼らに子を失わせることはない。
- 13 神である主はこう言われる。彼らはおまえたちに、『おまえは人間を食らい、自分の国民に子を失わせている』と言っている。
- 14 それゆえ、おまえは二度と人間を食らわず、二度とおまえの国民に子を失わせることはない—神である主のことば—。
- 15 わたしは二度と国々の侮辱をおまえに聞こえさせない。おまえは国々の民のそしりを二度と受けない。二度とおまえの国民をつまずかせることはない—神である主のことば—。
- 16 次のような主のことばが私にあった。
- 17 「人の子よ。イスラエルの家が自分の土地に住んでいたとき、彼らはその生き方と行いによって、その地を汚した。その生き方は、わたしの前では、月のさわりのある女の汚れのようであった。
- 18 それでわたしは、彼らとその地に流した血のために、また偶像でこれを汚したことのゆえに、わたしの憤りを彼らに注いだ。

- 19 わたしは彼らを諸国の間に散らし、彼らを国々に追い散らし、彼らの生き方と行いにしたがって彼らをさばいた。
- 20 彼らはどの国々に行っても、わたしの聖なる名を汚した。人々は彼らについて、『この人々は主の民なのに、主の国から出されたのだ』と言ったのだ。
- 21 わたしは、イスラエルの家がその行った国々の間で汚した、わたしの聖なる名を惜しんだ。
- 22 それゆえ、イスラエルの人に言え。神である主はこう言われる。イスラエルの人よ。わたしが事を行うのは、あなたがたのためではなく、あなたがたが行った国々の間であなたがたが汚した、わたしの聖なる名のためである。
- 23 わたしは、あなたがたが国々の間で汚したわたしの大いなる名が、聖であることを示す。あなたがたが彼らのただ中で汚した名である。わたしが彼らの目の前に、わたしがあなたがたのうちで聖であることを示すとき、国々は、わたしが主であることを知る—神である主のことば—。
- 24 わたしはあなたがたを諸国の間から導き出し、すべての国々から集め、あなたがたの地に連れて行く。
- 25 わたしがきよい水をあなたがたの上に振りかけるそのとき、あなたがたはすべての汚れからきよくなる。わたしはすべての偶像の汚れからあなたがたをきよめ、
- 26 あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。
- 27 わたしの霊をあなたがたのうちに授けて、わたしの掟に従って歩み、わたしの定めを守り行うようにする。
- 28 あなたがたは、わたしがあなたがたの先祖に与えた地に住み、あなたがたはわたしの民となり、わたしはあなたがたの神となる。
- 29 わたしはあなたがたをすべての汚れから救い、穀物と呼び寄せて増やし、飢えをあなたがたに送らない。
- 30 わたしは木の実と畑の産物を増やす。それであなたがたは、もう国々の間で飢饉のために恥辱を受けることはない。
- 31 あなたがたは自分たちの悪しき生き方と、良くなかった行いを思い出し、自分たちの不義と忌み嫌うべきわざを憎むようになる。
- 32 わたしが事を行うのは、あなたがたのためではない—神である主のことば—。そのことをあなたがたは知っていなければならない。イスラエルの人よ、恥じよ。あなたがたの生き方のゆえに辱めを受けよ。」
- 33 神である主はこう言われる。「わたしがあなたがたをすべての不義からきよめる日に、わたしは町々を人の住めるところとし、廃墟は建て直される。
- 34 荒れ果てた地は、通り過ぎるすべての者に荒れ野と見なされていたが、耕されるようになる。
- 35 このとき、人々はこう言うだろう。『あの荒れ果てていた地はエデンの園のようになった。廃墟となり、荒れ果て、破壊されていた町々も城壁が築かれ、人が住むようになった』と。
- 36 あなたがたの周りに残された諸国の民も、主であるわたしが破壊されていたところを建て直し、荒れ果てていたところに木を植えたことを知るようになる。主であるわたしが語り、これを行う。」

- 37 神である主はこう言われる。「わたしはイスラエルの家の求めに応じ、このことを彼らのためにする。わたしは人を羊の群れのように増やす。
- 38 ちょうど、聖なるものとして献げられる羊の群れのように、例祭のときのエルサレムの羊の群れのように、廃墟であった町々を人の群れで満たす。そのとき彼らは、わたしが主であることを知る。」

第37章

- 1 主の御手が私の上にあった。私は主の霊によって連れ出され、平地の真ん中に置かれた。そこには骨が満ちていた。
- 2 主は私にその周囲をくまなく行き巡らせた。見よ、その平地には非常に多くの骨があった。しかも見よ、それらはすっかり干からびていた。
- 3 主は私に言われた。「人の子よ、これらの骨は生き返ることができるだろうか。」私は答えた。「神、主よ、あなたがよくご存じです。」
- 4 主は私に言われた。「これらの骨に預言せよ。『干からびた骨よ、主のことばを聞け。』
- 5 神である主はこれらの骨にこう言う。見よ。わたしがおまえたちに息を吹き入れるので、おまえたちは生き返る。
- 6 わたしはおまえたちに筋をつけ、肉を生じさせ、皮膚でおおい、おまえたちのうちに息を与え、おまえたちは生き返る。そのときおまえたちは、わたしが主であることを知る。』」
- 7 私は命じられたように預言した。私が預言していると、なんと、ガラガラと音がして、骨と骨とが互いにつながった。
- 8 私が見ていると、なんと、その上に筋がつき、肉が生じ、皮膚がその上をすっかりおおった。しかし、その中に息はなかった。
- 9 そのとき、主は言われた。「息に預言せよ。人の子よ、預言してその息に言え。『神である主はこう言われる。息よ、四方から吹いて来い。この殺された者たちに吹きつけて、彼らを生き返らせよ。』」
- 10 私が命じられたとおりに預言すると、息が彼らの中に入った。そして彼らは生き返り、自分の足で立った。非常に大きな集団であった。
- 11 主は私に言われた。「人の子よ、これらの骨はイスラエルの全家である。見よ、彼らは言っている。『私たちの骨は干からび、望みは消え失せ、私たちは断ち切られた』と。
- 12 それゆえ、預言して彼らに言え。『神である主はこう言われる。わたしの民よ、見よ。わたしはあなたがたの墓を開き、あなたがたをその墓から引き上げて、イスラエルの地に連れて行く。
- 13 わたしの民よ。わたしがあなたがたの墓を開き、あなたがたを墓から引き上げるとき、あなたがたは、わたしが主であることを知る。
- 14 また、わたしがあなたがたのうちにわたしの霊を入れると、あなたがたは生き返る。わたしはあなたがたを、あなたがたの地に住まわせる。このとき、あなたがたは、主であるわたしが語り、これを成し遂げたことを知る—主のことば。』」
- 15 次のような主のことばが私にあった。
- 16 「人の子よ。あなたは一本の杖を取り、その上に『ユダと、それにつくイスラエルの人々のために』と書き記せ。もう一本の杖を取り、その上に『エフライムの杖、ヨセフと、それにつく

イスラエルの全家のために』と書き記せ。

- 17 その両方をつなぎ、一本の杖とし、あなたの手の中で一つとなるようにせよ。
- 18 あなたの民の者たちがあなたに向かって、『これがあなたにとって何を意味するのか、私たちに説明してくれませんか』と言うとき、
- 19 彼らに告げよ。『神である主はこう言われる。見よ。わたしは、エフライムの手にあるヨセフの杖と、それにつくイスラエルの諸部族を取り、それらをユダの杖に合わせて一本の杖とし、わたしの手の中で一つとする。』
- 20 あなたが書き記した杖を、彼らの見ている前で手に取り、
- 21 彼らに告げよ。『神である主はこう言われる。見よ。わたしはイスラエルの子らを、彼らが行っていた国々の間から取り、四方から集めて彼らの地に導いて行く。
- 22 わたしが彼らを、その地、イスラエルの山々で一つの国とするとき、一人の王が彼ら全体の王となる。彼らは再び二つの国となることはなく、決して再び二つの王国に分かれることはない。
- 23 彼らは再び、その偶像や忌まわしいもの、またあらゆる背きによって身を汚すことはない。わたしは、彼らがかつて罪に陥ることになった背信から彼らを救い、彼らをきよめる。彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。
- 24 わたしのしもベダビデが彼らの王となり、彼ら全体のただ一人の牧者となる。彼らはわたしの定めに従って歩み、わたしの掟を守り行う。
- 25 彼らは、わたしがわたしのしもベヤコブに与え、あなたがたの先祖が住んだ地に住むようになる。そこには彼らとその子らとその子孫たちが、とこしえに住み、わたしのしもベダビデが永遠に彼らの君主となる。
- 26 わたしは彼らと平和の契約を結ぶ。これは彼らとの永遠の契約となる。わたしはそれを彼らに与え、彼らを増やし、わたしの聖所を彼らのうちに永遠に置く。
- 27 わたしの住まいは彼らとともにあり、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。
- 28 わたしの聖所が永遠に彼らのうちにあるとき、諸国の民は、わたしがイスラエルを聖なる者とする主であることを知る。』」

第38章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「人の子よ。メシェクとトバルの大首長である、マゴグの地のゴグに顔を向け、彼に預言せよ。
- 3 『神である主はこう言われる。メシェクとトバルの大首長であるゴグよ。今、わたしはおまえを敵とする。
- 4 わたしはおまえを引き回し、おまえのあごに鉤をかけ、おまえと、おまえの全軍勢を出陣させる。それはみな完全に武装した馬や騎兵、大盾と盾を持ち、みな剣を取る大集団だ。
- 5 ペルシアとクシュとプテも彼らとともにいて、みな盾を持ち、かぶとを着けている。
- 6 ゴメルとそのすべての軍隊、北の果てのベテ・トガルマとそのすべての軍隊、それに多くの国々の民がおまえとともにいる。
- 7 備えをせよ。おまえも、おまえのもとに召集された全集団も構えよ。おまえは彼らを統率せよ。

- 8 多くの日が過ぎて、おまえは徴集され、多くの年月の後、おまえは、一つの国に侵入する。そこは剣から立ち直り、多くの国々の民の中から、久しく廃墟であったイスラエルの山々に集められた者たちの国である。その民は国々の民の中から導き出され、みな安らかに住んでいる。
- 9 おまえは嵐のように攻め上り、おまえと、おまえの全部隊、それに、おまえにつく多くの国々の民は、地をおおう雲のようになる。
- 10 神である主はこう言う。その日には、おまえの心に様々なことが思い浮かぶ。おまえは悪巧みをめぐらして、
- 11 こう言うだろう。「私は無防備な国に攻め上ろう。安心して暮らす平穏な者たちのところに侵入しよう。彼らはみな城壁もなく住んでいる。かんぬきも門もない」と。
- 12 それは、おまえが略奪し、獲物をかすめ奪うため、また今は人の住むようになった廃墟と、国々から集められて地の中心に住み、家畜と財産を所有した民とに向かって手を伸ばすためだ。
- 13 シェバやデダンやタルシシュの商人たち、およびそのすべての若い獅子たちは、おまえに言うだろう。「おまえは分捕るために来たのか。獲物をかすめ奪うために隊を構えたのか。銀や金を運び去り、家畜や財産を取り、大いに略奪しようとするつもりか」と。』
- 14 それゆえ、人の子よ、預言してゴグに言え。『神である主はこう言われる。わたしの民イスラエルが安心して住んでいるとき、まさに、その日、おまえは知ることになる。
- 15 おまえは北の果てのおまえの国から、多くの国々の民とともに来る。彼らはみな馬に乗る者で、大集団、大軍勢だ。
- 16 おまえはわたしの民イスラエルを攻めに上り、地をおおう雲のようになる。終わりの日に、そのことは起こる。ゴグよ、わたしはおまえに、わたしの地を攻めさせる。それは、わたしがおまえを使って、国々の目の前にわたしが聖であることを示し、彼らがわたしを知るためだ。
- 17 神である主はこう言う。おまえは、わたしが昔、わたしのしもべであるイスラエルの預言者たちを通して語った、まさにその者ではないか。この預言者たちは長年にわたり、わたしがおまえに彼らを攻めさせると預言していたのだ。』
- 18 ゴグがイスラエルの地を攻めるその日—神である主のことは—わたしの憤りは激しく燃え上がる。
- 19 わたしは、ねたみをもって、激しい怒りの火をもって告げる。その日には必ずイスラエルの地に大きな地震が起こる。
- 20 海の魚、空の鳥、野の獣、地面を這うすべてのもの、地上のすべての人間は、わたしの前で震え上がり、山々はくつがえり、崖は落ち、すべての城壁は地に倒れる。
- 21 わたしは剣を呼び寄せて、わたしのすべての山々でゴグを攻めさせる—神である主のことは—。剣による同士討ちが起こる。
- 22 わたしは疫病と流血で彼に罰を下し、彼と、彼の部隊と、彼とともにいる多くの国々の民の上に豪雨、雹、火、硫黄を降らせる。
- 23 わたしは、わたしが大いなる者であること、わたしが聖であることを示し、多くの国々の見ている前でわたしを知らせる。そのとき彼らは、わたしが主であることを知る。」

第39章

- 1 「人の子よ、あなたはゴグに向かって預言せよ。『神である主はこう言われる。メシエクトバルの大首長であるゴグよ、わたしはおまえを敵とする。
- 2 わたしはおまえを引き回し、おまえを駆りたて、北の果てから上らせ、イスラエルの山々に連れて来る。
- 3 おまえの左の手から弓をたたき落とし、右の手から矢を落とす。
- 4 おまえと、おまえのすべての部隊、おまえとともにいる国々の民は、イスラエルの山々に倒れ、わたしはおまえをあらゆる種類の猛禽や野獣の餌食とする。
- 5 おまえは野に倒れる。わたしがこれを語るからだ—神である主のことば—。
- 6 わたしはマゴグと、島々に安住している者たちに火を放つ。彼らは、わたしが主であることを知る。
- 7 わたしは、わたしの聖なる名をわたしの民イスラエルの中に告げ知らせ、二度とわたしの聖なる名を汚させない。諸国の民は、わたしが主であり、イスラエルの聖なる者であることを知る。
- 8 今、それは来て、成就する—神である主のことば—。それは、わたしが語ってきた日である。
- 9 イスラエルの町々の住民は出て来て、武器、すなわち、盾と大盾、弓と矢、手槍と槍を燃やし、それらで火をおこす。彼らは、七年間それらで火を燃やす。
- 10 彼らは野から薪を運んだり、森から木を切り出したりする必要はない。武器で火を燃やすからだ。彼らは略奪した者たちから略奪し、かすめ奪った者たちからかすめ奪う—神である主のことば—。
- 11 その日、わたしは、イスラエルのうちに、ゴグのために墓場となる場所を設ける。それは、海の東にある去りゆく者たちのための谷である。そこは通行人の道をふさぐ。そこにゴグと、その大軍すべてが埋められ、そこはハモン・ゴグの谷と呼ばれる。
- 12 七か月間、イスラエルの家は、その地をきよめるために彼らを埋め続ける。
- 13 その国のすべての民が埋める。こうして、わたしの栄光が現される時、そのことは彼らにとって名誉となる—神である主のことば—。
- 14 すなわち、選り分けられた特定の人々が地を巡り歩き、去りゆく者たち、地の面に取り残されている者たちを埋めて、その地をきよめる。彼らは七か月の終わりまで探し回る。
- 15 巡り歩く者たちは地を巡り歩き、人間の骨を見ると、埋める者たちがそれをハモン・ゴグの谷に埋めるまで、そのそばに標識を立てておく。
- 16 そこの町の名はハモナとも言われる。こうして彼らは地をきよめる。』
- 17 人の子よ、神である主はこう言う。あらゆる種類の鳥と、あらゆる野の生き物に言え。『集まって来い。わたしがおまえたちのために屠るわたしのいけにえに、イスラエルの山々の上での大いなる祝宴に、四方から集まれ。おまえたちはその肉を食べ、その血を飲め。
- 18 勇士たちの肉を食べ、地の君主たちの血を飲め。雄羊、子羊、雄やぎ、雄牛、それらはすべてバシヤンの肥えたものだ。
- 19 わたしがおまえたちのために屠ったいけにえの中から、脂肪をたらふく食べ、その血を酔うほど飲むがよい。

- 20 おまえたちはわたしの食卓で、馬や騎手、勇士やすべての戦士をたらふく食べる一神である主のことば。』
- 21 わたしが国々の間にわたしの栄光を現すとき、国々の民はみな、わたしが行ったわたしのさばきと、わたしが彼らの上に置いたわたしの手を見る。
- 22 その日以降、イスラエルの家は、わたしが彼らの神、主であることを知る。
- 23 国々の民は、イスラエルの家がわたしの信頼を裏切った咎のゆえに捕らえ移され、わたしが彼らから顔を隠したこと、また彼らを敵の手に渡したゆえに、彼らがみな剣に倒れたことを知る。
- 24 わたしは彼らの汚れと背きに応じて彼らを罰し、わたしの顔を彼らから隠した。」
- 25 それゆえ、神である主はこう言われる。「今、わたしはヤコブを回復させ、イスラエルの全家をあわれむ。これは、わが聖なる名への、わたしのねたみによる。
- 26 彼らが自分たちの地に、だれにも脅かされずに安らかに住むとき、彼らは自らの恥辱と、わたしに対するすべての不信との責めを負う。
- 27 わたしが彼らを諸国の民の間から帰らせ、彼らの敵の地から集めるとき、多くの国々が見ている前で、わたしは彼らのうちにわたしが聖であることを示す。
- 28 わたしは彼らを国々に引いて行かせたが、また彼らを彼らの地に集め、もう国々には一人も残さない。このとき彼らは、わたしが彼らの神、主であることを知る。
- 29 わたしは二度と、わたしの顔を彼らから隠すことはない。わたしの霊をイスラエルの家の上に注ぐからである一神である主のことば。」

第40章

- 1 私たちが捕囚となって二十五年目の年の初め、その月の十日、都が占領されてから十四年目のちょうどその日に、主の御手が私の上であり、私をそこへ連れて行った。
- 2 すなわち、神々しい幻のうちに私はイスラエルの地へ連れて行かれ、非常に高い山の上に降ろされた。その南の方に、町のようなものが造られていた。
- 3 主が私をそこに連れて行くと、そこに一人の人がいた。その姿は青銅でできているようであり、その手に麻のひもと測り竿を持って、門のところに立っていた。
- 4 その人は私に話しかけられた。「人の子よ。あなたの目で見、耳で聞き、わたしがあなたに見せるすべてのことを心に留めよ。わたしがあなたを連れて来たのは、あなたにこれを見せるためだ。あなたが見ることをみな、イスラエル之家に告げよ。」
- 5 そこに、神殿の外側を囲んでいる壁があった。その人は手に六キュビトの測り竿を持っていた。その一キュビトは、普通の一キュビトに一手幅を足した長さであった。彼がその外壁の厚さを測ると一竿であり、その高さも一竿であった。
- 6 それから彼は東側に面した門に行き、その階段を上った。彼が門の敷居を測ると、その幅は一竿で、もう一つの門の敷居も幅は一竿であった。
- 7 控え室は長さ一竿、幅一竿であり、控え室と控え室の間は五キュビトであった。門の内側の玄関の間のそばにある敷居は一竿であった。
- 8 彼が門の内側の玄関の間を測ると一竿、
- 9 すなわち、門の玄関の間を測ると八キュビト、その壁柱は二キュビトで、門の玄関の間は内側にあった。

- 10 東門の控え室は両側に三つずつあり、三つとも同じ寸法であった。壁柱も、両側とも同じ寸法であった。
- 11 門の入り口の幅を測ると十キュビト、門の内側の幅の長さは十三キュビトであった。
- 12 控え室の前に出た仕切りは、両側ともそれぞれ一キュビトであった。控え室は両側とも六キュビトであった。
- 13 彼がその門を、控え室の片方の屋根の端からもう片方の屋根の端まで測ると、一つの入り口からもう一つの入り口までの幅は二十五キュビトであった。入り口と入り口は向かい合っていた。
- 14 壁柱を測ると六十キュビトであった。門の周囲を巡る壁柱は庭に面していた。
- 15 入り口の門の前から内側の門の玄関の間の前までは五十キュビトであり、
- 16 門の内側にある控え室と壁柱には格子窓が取り付けられ、玄関の間もそうであった。内側の周りには窓があり、壁柱には、なつめ椰子の木が彫刻してあった。
- 17 それから、彼は私を外庭に連れて行った。すると、そこには庭の周りに部屋があり、石畳があった。三十の部屋が石畳に面していた。
- 18 石畳は門のわきにあり、ちょうど門の長さと同じであった。これは下の石畳である。
- 19 彼が下の門の端から内庭の外の端までその幅を測ると、東も北も百キュビトであった。
- 20 彼は外庭にある北向きの門の長さと同幅を測った。
- 21 それには両側に三つずつ控え室があり、壁柱も玄関の間も先の門と同じ寸法であった。その長さは五十キュビト、幅は二十五キュビトであった。
- 22 その窓も玄関の間もなつめ椰子の木の彫刻も、東向きの門と同じ寸法であった。七段の階段を上って行くと、その先に玄関の間があった。
- 23 東門と同様に、北門にも内庭の門が向かい合っていた。彼が門から門まで測ると、百キュビトであった。
- 24 次に、彼は私を南の方へ連れて行った。すると、そこに南向きの門があった。その壁柱と玄関の間を彼が測ると、それはほかの門と同じ寸法であった。
- 25 壁柱と玄関の間の周囲に窓があり、それはほかの窓と同じであった。門の長さは五十キュビト、幅は二十五キュビトであった。
- 26 そこに上るのに七段の階段があり、その先に玄関の間があった。その両側の壁柱には、なつめ椰子の木が彫刻してあった。
- 27 内庭には南向きの門があり、彼が南の方にこの門からもう一つの門まで測ると、百キュビトであった。
- 28 彼は私を、南門を通過して内庭に連れて行った。南門を測ると、ほかの門と同じ寸法であった。
- 29 その控え室も壁柱も玄関の間もほかのと同じ寸法で、壁柱と玄関の間の周囲に窓があった。門の長さは五十キュビト、幅は二十五キュビトであった。
- 30 玄関の間の周囲は長さ二十五キュビト、幅五キュビトであった。
- 31 その玄関の間は外庭に面し、その壁柱には、なつめ椰子の木が彫刻してあった。その階段は八段であった。
- 32 次に、彼は私を内庭の東の方に連れて行った。その門を測ると、ほかの門と同じ寸法であった。

- 33 その控え室も壁柱も玄関の間もほかのと同じ寸法で、壁柱と玄関の間の周囲に窓があった。門の長さは五十キュビト、幅は二十五キュビトであった。
- 34 その玄関の間は外庭に面し、両側の壁柱には、なつめ椰子の木が彫刻してあった。階段は八段であった。
- 35 彼は私を北の門に連れて行った。それを測ると、ほかの門と同じ寸法であった。
- 36 その控え室も壁柱も玄関の間もほかのと同じ寸法で、その周囲に窓があった。門の長さは五十キュビト、幅は二十五キュビトであった。
- 37 その玄関の間は外庭に面し、両側の壁柱には、なつめ椰子の木が彫刻してあった。階段は八段であった。
- 38 門の壁柱のそばには戸のある部屋があり、そこは全焼のささげ物をすすぎ洗う場所であった。
- 39 門の玄関の間の両側には、全焼のささげ物、罪のきよめのささげ物、代償のささげ物を屠るための台が、それぞれ二つずつあった。
- 40 北の門の入り口へ上って行くと、外側に二つの台があり、門の玄関の間のもう一つの側にも二つの台があった。
- 41 すなわち、門の片側に四つの台があり、もう一つの側に四つの台があり、この八つの台の上でいけにえを屠るのであった。
- 42 また、全焼のささげ物のために四つの台があり、長さ一キュビト半、幅一キュビト半、高さ一キュビトの切り石であった。その上に、全焼のささげ物やいけにえを屠るための道具が置かれていた。
- 43 内側には、周囲に一手幅の鉤が取り付けられてあり、ささげ物の肉は台の上に置かれるようになっていた。
- 44 内門の向こうには歌い手たちの部屋があり、北門のわきにある部屋は南を向き、南門のわきにある部屋は北を向いていた。
- 45 彼は私に言った。「この南向きの部屋は、神殿の任務に当たる祭司たちのためのものであり、
- 46 北向きの部屋は、祭壇の任務に当たる祭司たちのためのものである。彼らはツアドクの子孫であり、レビの子孫の中で主に近づいて仕える者たちである。」
- 47 彼が庭を測ると、長さ百キュビト、幅百キュビトの正方形であった。祭壇は神殿の前にあった。
- 48 彼が私を神殿の玄関の間に連れて行って、玄関の間の壁柱を測ると、両側とも五キュビトであり、その門の幅は十四キュビト、その門の両脇の壁はそれぞれ三キュビトであった。
- 49 玄関の間の長さは二十キュビト、奥行は十一キュビトであった。そこへ上るのに階段があり、両側の壁柱のそばにはそれぞれ円柱が立っていた。

第41章

- 1 彼は私を本殿へ連れて行った。その壁柱を測ると、その幅は両側とも六キュビトであった。これが壁柱の幅であった。
- 2 入り口の幅は十キュビト、入り口の両脇の壁はそれぞれ五キュビトであり、本殿の長さを測ると四十キュビト、幅は二十キュビトであった。
- 3 彼が奥に入り、入り口の壁柱を測ると二キュビト、入り口は六キュビト、入り口の両脇の壁は七キュビトであった。

- 4 彼はまた、本殿の奥に長さ二十キュビト、幅二十キュビトを測って、私に「これは最も聖なる所だ」と言った。
- 5 彼が神殿の壁の厚さを測ると六キュビト、神殿の周囲を囲む脇間の幅は四キュビトであった。
- 6 脇間は三階建てで、各階に三十あった。それらは神殿の壁に差し込まれていた。脇間がぐるりと取り囲んでいたのも、それが支えとなっていた。しかし神殿の壁には、支えが差し込まれていなかった。
- 7 脇間の幅は、螺旋階段で上に上るごとに広がっていた。というのは、神殿はその建物の四方を、上の方まで脇間で取り囲まれていたからである。そのため、神殿には、地階から中間の階を通して最上階に上る場合、上の方により広い空間があることになる。
- 8 私は神殿の周りが高くなっているのを見た。脇間の土台は、長めの六キュビトの測り竿いっばいであった。
- 9 脇間の外側の壁の厚さは五キュビトであった。神殿の脇間と
- 10 部屋との間には空き地があり、それが神殿の周囲を幅二十キュビトで囲んでいた。
- 11 脇間の入り口は空き地の方を向いていて、一つの入り口は北向き、もう一つの入り口は南向きであった。その空き地は幅五キュビトで周囲を囲んでいた。
- 12 西側の聖域にある建物は、その奥行が七十キュビト、その建物の周りの壁は、厚さ五キュビト、その間口は九十キュビトであった。
- 13 彼が神殿を測ると、長さは百キュビトであった。また、その聖域と建物とその壁とで、長さ百キュビトであった。
- 14 また、東側の聖域と神殿に面する幅も百キュビトであった。
- 15 彼が神殿の裏にある聖域に面した建物の長さ、その両側のバルコニーを測ると、百キュビトであった。本殿と、その前の庭の玄関の間、
- 16 敷居と格子窓と、三階になったバルコニーには、床から窓まで羽目板が張り巡らされ、窓はおおわれ、
- 17 それは入り口の上部、神殿の内側と外側に及んでいた。そして、これらを囲むどの壁の内側にも外側にも綿密に考案された図柄があり、
- 18 ケルビムとなつめ椰子の木が彫刻してあった。なつめ椰子の木はケルビムとケルビムの間にあり、それぞれのケルビムには二つの顔があった。
- 19 人間の顔は一方のなつめ椰子の木に向かい、若い獅子の顔はもう一方のなつめ椰子の木に向かい、このように神殿全体の周りに彫刻してあった。
- 20 床から入り口の上まで、ケルビムとなつめ椰子の木が彫刻してあった。本殿の壁も同様であった。
- 21 本殿の戸口の柱は四角で、至聖所の前には何か
- 22 木の祭壇に見えるものがあり、高さは三キュビト、長さは二キュビトで、その四隅も台も側面も木でできていた。彼は私に「これが主の前にある机だ」と言った。
- 23 また、本殿と至聖所にそれぞれ二つの扉があり、
- 24 それらの扉にはそれぞれ二つの戸が折りたたむようになっていた。すなわち、一つの扉には二枚の戸があり、もう一方の扉にも二枚の戸があった。
- 25 本殿の扉には、壁に彫刻されていたのと同じような、ケルビムとなつめ椰子の木が彫刻してあった。外側の玄関の間の前には木のひさしがあった。

26 玄関の間の両脇の壁には、格子窓となつめ椰子の木があり、神殿の脇間とひさしも同様であった。

第42章

- 1 彼は私を北の方の外庭に連れ出し、聖域に面し、北方の建物に面している部屋へ連れて行った。
- 2 その長さは百キュビト、その端に北の入り口があり、幅は五十キュビトであった。
- 3 二十キュビトの内庭に面し、また外庭の石畳に面して、三階になったバルコニーが向かい合っていた。
- 4 部屋の前には内側への通路があり、その幅は十キュビトで、長さは百キュビトであった。その部屋の入り口は北に向いていた。
- 5 最上階にある部屋は、バルコニーが場所を取ったので、建物の地階の部屋よりも、また中間の階の部屋よりも狭かった。
- 6 なぜなら、これらは三階建てであり、庭の柱のような柱がないからである。それで、最上階の部屋は地階の部屋よりも、また中間の階の部屋よりも狭かった。
- 7 また、これらの部屋の前の外庭の方に、部屋に沿って外側に石壁があった。その長さは五十キュビトであった。
- 8 というのは、外庭に面する部屋の長さは五十キュビトだからである。そこで、本殿に面する側は百キュビトとなる。
- 9 これらの部屋の下には、外庭から入れるように、東側に出入り口があった。
- 10 聖域や建物に面している、南側の庭の厚い石壁の中には、部屋があった。
- 11 その部屋の前には通路があった。部屋は北側の部屋と同じように見え、長さも同じ、幅も同じで、そのすべての出口も、その構造において入り口と同様であった。
- 12 南側の部屋の入り口も同様で、通路の先端に入り口があり、東側の石壁に面し、そこから入れる通路があった。
- 13 彼は私に言った。「聖域に面している北の部屋と南の部屋は、聖なる部屋であって、主に近く祭司たちが最も聖なるささげ物を食する所である。彼らはそこに最も聖なるもの、すなわち、穀物のささげ物、罪のきよめのささげ物、代償のささげ物を置く。その場所は聖だからである。
- 14 祭司たちは、聖所に入ったら、聖所からそのまま外庭に出てはならない。彼らが奉仕に用いる服は聖であるから、そこに置き、ほかの服に着替えてから民に属するところに近づくのである。」
- 15 彼は神殿の内側を測り終えると、東向きの門に私を連れ出し、神殿の周囲を測った。
- 16 彼が測り竿で東側を測ると、測り竿で五百竿であった。
- 17 北側を測ると、測り竿で五百竿であった。
- 18 南側を測ると、測り竿で五百竿であった。
- 19 彼が西側に回って測り竿で測ると、五百竿であった。
- 20 彼が外壁の周りを巡って四方を測ると、その長さは五百竿、幅も五百竿で、聖なるものと俗なるものとを分けていた。

第43章

- 1 彼は私を東向きの門に連れて行った。
- 2 すると見よ、イスラエルの神の栄光が東の方から現れた。その音は大水のとどろきのようで、地はその栄光で輝いた。
- 3 私が見た幻は、かつて主がこの町を滅ぼすために来たときに私が見た幻のようであり、またその幻は、かつて私がケバル川のほとりで見た幻のようでもあった。私はひれ伏した。
- 4 主の栄光が東向きの門を通して神殿に入って来た。
- 5 霊が私を引き上げ、私を内庭に連れて行った。なんと、主の栄光が神殿に満ちていた。
- 6 私のそばに人が立っていたが、私は、神殿の中から声が私に語りかけるのを聞いた。
- 7 その声は私に言われた。「人の子よ。ここはわたしの玉座のある場所、わたしの足の踏む場所、わたしが永遠にイスラエルの子らの中で住む場所である。イスラエルの家は、その民もその王たちも、もう二度と、淫行や高き所の王たちの死体で、わたしの聖なる名を汚さない。
- 8 彼らはかつて、自分たちの敷居をわたしの敷居のそばに設け、自分たちの戸口の柱をわたしの戸口の柱の傍らに立て、わたしと彼らとの間には、ただ壁があるだけであった。そして彼らの忌み嫌うべきわざによって、わたしの聖なる名を汚した。そこでわたしは怒って、彼らを絶ち滅ぼした。
- 9 今、彼らにその淫行や王たちの死体を、わたしから遠ざけさせなければならない。そのとき、わたしは永遠に彼らの中に住む。
- 10 人の子よ。あなたは、イスラエルの家が自分たちの不義によって辱められるため、彼らに神殿を示し、彼らにその模型を測らせよ。
- 11 もし彼らが、自分たちの行ったあらゆることによって恥じるなら、あなたは彼らに神殿の構造とその模型、その出口と入り口、すなわち、そのすべての構造を、神殿のすべての掟、すべての構造、すべてのおしえとともに示し、彼らの目の前でそれを書き記せ。彼らとそのすべての構造と掟を守り、それらを行うためである。
- 12 神殿に関するおしえは次のとおりである。山の頂の周囲全体は最も聖なる所である。これが神殿に関するおしえである。
- 13 キュビトによる祭壇の寸法は次のとおりである。このキュビトは、普通のキュビトに一手幅足したものである。祭壇の溝は深さ一キュビト、幅は一キュビト、周囲の縁取りは一ゼレトである。祭壇の高さは次のとおりである。
- 14 この地面に接する溝から下の台座までは二キュビト、幅は一キュビト。この低いほうの台座から高いほうの台座までは四キュビト、幅は一キュビト。
- 15 祭壇の炉は高さ四キュビトであり、祭壇の炉から上の方へ四本の角が出ている。
- 16 祭壇の炉は長さ十二キュビト、幅十二キュビトの正方形である。
- 17 その台座は長さ十四キュビト、幅十四キュビトの正方形で、その周囲の縁は半キュビト、周囲の溝は一キュビトであり、その階段は東に面している。」
- 18 その声は私に言われた。「人の子よ、神である主はこう言う。祭壇の上で全焼のささげ物を献げ、血を振りかけるための祭壇を造る日には、次のことが祭壇に関する掟となる。
- 19 わたしに仕えるためにわたしに近づく、ツアドクの子孫のレビ人の祭司たちに、あなたは罪のきよめのささげ物として若い雄牛一頭を与えよ—神である主のことば—。

- 20 あなたはその血を取り、祭壇の四本の角と、台座の四隅と、周りの縁に付けて祭壇から罪を除き、そのための宥めを行う。
- 21 また、罪のきよめのささげ物の雄牛を取り、これを聖所の外の、神殿の特定の場所で焼かなければならない。
- 22 二日目に、傷のない雄やぎを罪のきよめのささげ物として献げ、雄牛で罪を除いたように祭壇から罪を除く。
- 23 罪を除き終えたら、傷のない若い雄牛と、群れのうちの傷のない雄羊を献げる。
- 24 それらを主の前に献げ、祭司たちがそれらの上に塩をまき、全焼のささげ物として主に献げる。
- 25 七日間、あなたは毎日、罪のきよめのささげ物として雄やぎ一匹を献げ、傷のない若い雄牛一頭と、群れのうちの傷のない雄羊一匹を献げる。
- 26 七日間にわたって祭壇のための宥めを行い、それをきよめ、聖別する。
- 27 この期間が終わり、八日目とその後は、祭司たちが祭壇の上で、あなたがたの全焼のささげ物と交わりのいけにえを献げる。そうすれば、わたしはあなたがたを受け入れる—神である主のことば。」

第44章

- 1 彼が私を聖所の東向きの外の門に連れ戻すと、門は閉じていた。
- 2 主は私に言われた。「この門は閉じたままにしておけ。開けてはならない。だれもここから入ってはならない。イスラエルの神、主がそこから入ったからだ。これは閉じたままにしておかなければならない。
- 3 君主だけが、君主として主の前でパンを食べるために、そこに座ることができる。彼は門の玄関の間を歩いて入り、そこを歩いて出て行く。」
- 4 彼は私を、北の門を歩いて神殿の前に連れて行った。私が見ると、なんと、主の栄光が主の宮に満ちていた。私はひれ伏した。
- 5 すると、主は私に言われた。「人の子よ。主の宮のすべての掟とそのすべてのおしえについて、わたしがあなたに告げていることをすべて心に留め、それに目を注ぎ、耳を傾けよ。神殿の入り口と、聖所のすべての出口を心に留めよ。
- 6 あなたは、反逆のイスラエルの家にこう言え。『神である主はこう言われる。イスラエルの家よ。あなたがたのあらゆる忌み嫌うべきわざは、もう十分だ。
- 7 あなたがたは、心に割礼を受けず、肉体にも割礼を受けていない異国の民を連れて来て、わたしの聖所にいさせ、わたしの神殿を汚した。あなたがたは、わたしのパンと脂肪と血を献げたが、あなたがたの行った忌み嫌うべきあらゆるわざによって、わたしとの契約を破った。
- 8 あなたがたは、わたしの聖所での任務も果たさず、かえって、自分たちの代わりにほかの者たちを、わたしの聖所で務めを果たす者として置いた。』」
- 9 神である主はこう言われる。「心に割礼を受けず、肉体にも割礼を受けていない異国の民は、だれもわたしの聖所に入ってはならない。イスラエルの子らの中にいる異国の民はみなそうだ。
- 10 イスラエルが迷って自分たちの偶像を慕い、わたしから迷い出たとき、レビ人もわたしから離れ去ったので、彼らは自分たちの咎を負わなければならない。

- 11 彼らは神殿の門で番をし、神殿で奉仕をして、わたしの聖所で仕え、また、民のために全焼のささげ物といけにえを屠り、こうして民の前に立って、彼らのために仕えるはずなのだ。
- 12 レビ人たちは民の偶像の前で民に仕え、そのことでイスラエルの家を不義に引き込むものとなった。それゆえ、わたしは彼らに手を上げて厳かに誓う—神である主のことば—。彼らは自分たちの咎を負わなければならない。
- 13 彼らは、祭司としてわたしに仕えるために、わたしに近づいてはならない。わたしのあらゆる聖なるもの、また最も聖なるものに近づいてはならない。彼らは、恥辱と、自分たちの行った忌み嫌うべきわざの責めを、負わなければならない。
- 14 わたしは彼らに、神殿のあらゆる奉仕と、そこで行われる神殿のすべての任務を果たさせる。
- 15 しかし、イスラエルの子らが迷ってわたしから離れたときも、わたしの聖所の任務を果たした、ツァドクの子孫のレビ人の祭司たちは、わたしに近づいてわたしに仕え、わたしの前に立ち、わたしに脂肪と血を献げることができる—神である主のことば—。
- 16 彼らはわたしの聖所に入ることができる。わたしの机に近づいてわたしに仕え、わたしへの務めを果たすことができる。
- 17 彼らは、内庭の門に入るときには、亜麻布の服を着なければならない。内庭の門、および神殿の中で務めをするときは、毛織物を身に着けてはならない。
- 18 頭には亜麻布のターバンをかぶり、腰には亜麻布のももひきををはく。汗の出るようなものを身に着けてはならない。
- 19 彼らが外庭に出て、外庭の民のところに出て行くときは、務めのときに着ていた服を脱ぎ、それを聖所の部屋に置き、ほかの服を着なければならない。その服によって民を聖なる者とするためのないためである。
- 20 彼らは頭を剃ってはならない。髪を長く伸ばしすぎてもいけない。頭の毛はきちんと切りそるえなければならない。
- 21 祭司はだれでも、内庭に入るとき、ぶどう酒を飲んで서는ならない。
- 22 やもめや離縁された女を妻にしてはならない。イスラエルの民のうちの処女を妻としなければならない。しかし、やもめでも、それが祭司のやもめであれば、妻としてもよい。
- 23 彼らはわたしの民に、聖なるものと俗なるものとの違いを教え、汚れたものときよいものとの区別を告げ知らせなければならない。
- 24 争いがあるときには、わたしの定めにしたがってさばきの座に着き、これをさばかなければならない。わたしのすべての例祭には、わたしのおしえと掟を守り、わたしの安息日を聖なるものとしなければならない。
- 25 彼らは、死んだ人間に近づいて身を汚してはならない。ただし、自分の父、母、息子、娘、兄弟、未婚の姉妹によって汚れることは許される。
- 26 その場合、祭司はきよめられた後、さらに七日を数えなければならない。
- 27 聖所で仕えるために聖所の内庭に入る日には、罪のきよめのささげ物を献げなければならない—神である主のことば—。
- 28 祭司たちへのゆずりとなるのはこれである。わたしが彼らへのゆずりである。あなたがたはイスラエルの中で彼らに所有地を与えてはならない。わたしが彼らの所有である。
- 29 彼らの食物は、穀物のささげ物、罪のきよめのささげ物、代償のささげ物である。イスラエルのうちで、聖絶されたものはみな、彼らのものである。

- 30 あらゆる種類の初物、あなたがたのあらゆる奉納物のうちの最上の奉納物は、すべて祭司たちのものであり、あなたがたの麦粉の初物も祭司に与えなければならない。あなたの家に祝福が宿るためである。
- 31 祭司たちは、死んだ動物や、野獣にかみ裂かれたものはすべて、鳥であれ獣であれ、食べてはならない。」

第45章

- 1 「あなたがたが相続地としてその地をくじで分けるときは、その地から奉納地として聖なる区域を主に献げなければならない。その長さは二万五千キュビト、幅は一万キュビト。その全域は聖なる地である。
- 2 このうち、縦横五百キュビトの正方形を聖所に充て、五十キュビトの空き地がその周りになるようにする。
- 3 この区域の中から、長さ二万五千キュビト、幅一万キュビトを測り、その中に最も聖なる所、聖所があるようにせよ。
- 4 これはこの地の聖なる部分である。これは、聖所で仕え、主に近づいて仕える祭司たちのものとなる。ここを彼らの家の敷地とし、聖所のための聖なる所とする。
- 5 また、長さ二万五千キュビト、幅一万キュビトの地は、神殿で奉仕をするレビ人のものとし、二十の部屋を彼らの所有としなければならない。
- 6 聖なる奉納地に沿って、幅五千キュビト、長さ二万五千キュビトを町の所有とし、これをイスラエルの全家のものとする。
- 7 君主の土地は、聖なる奉納地と町の所有地との両側にあり、聖なる奉納地と町の所有地に面し、西側は西の方へ、東側は東の方へ延びている。その長さは一つの部族の割り当て地と同じで、西の境界線から東の境界線にまで及んでいる。
- 8 これがイスラエルの中の彼の所有地である。わたしの君主たちは二度とわたしの民を虐げることなく、この地は部族ごとに、イスラエルの家に与えられる。」
- 9 神である主はこう言われる。「イスラエルの君主たちよ、もう十分だ。暴虐と暴行を取り除き、公正と正義を行え。わたしの民を重税で追い立てることをやめよ—神である主のことば—。
- 10 正しい天秤、正しいエパ升、正しいバテ升を使え。
- 11 エパとバテを同一量にせよ。バテはホメルの十分の一、エパもホメルの十分の一とせよ。その量はホメルを単位とせよ。
- 12 一シェケルは二十ゲラである。二十シェケルと二十五シェケルと十五シェケルとで一ミナとせよ。
- 13 あなたがたが献げる奉納物は次のとおりである。小麦一ホメルから六分の一エパ、大麦一ホメルから六分の一エパ。
- 14 バテの単位で量られる定められた分は、一コルから十分の一バテである。一コルは一ホメルと同じく十バテである。
- 15 さらに、羊の群れから二百匹ごとに一匹の羊。これらをイスラエルの潤った地から得て、穀物のささげ物、全焼のささげ物、交わりのいけにえとし、彼らのために宥めを行え—神である主のことば—。

- 16 国のすべての民は、この奉納物をイスラエルの君主に納めなければならない。
- 17 君主は、各種の祭りの日、新月の祭り、安息日、すなわちイスラエルの家のあらゆる例祭に、全焼のささげ物、穀物のささげ物、注ぎのぶどう酒を供える義務がある。彼はイスラエルの家の宥めのために、罪のきよめのささげ物、穀物のささげ物、全焼のささげ物、交わりのいけにえを献げなければならない。」
- 18 神である主はこう言われる。「第一の月の一日に、あなたは傷のない若い雄牛を取り、聖所から罪を除かなければならない。
- 19 祭司は罪のきよめのささげ物から血を取り、それを神殿の戸口の柱、祭壇の台座の四隅、そして内庭の門柱に塗る。
- 20 その月の七日にも、あなたは、迷い出る者や浅はかな者のゆえにこのように献げ、神殿のために宥めを行わなければならない。
- 21 第一の月の十四日に、あなたがたは過越の祭りを守り、その祭りの七日間、種なしパンを食べる。
- 22 その日に君主は、自分のために、また、国のすべての民のために、罪のきよめのささげ物として雄牛を献げる。
- 23 その祭りの七日間、彼は全焼のささげ物として傷のない七頭の雄牛と七匹の雄羊を、七日間、毎日、主に献げなければならない。また一匹の雄やぎを、罪のきよめのささげ物として、毎日、献げなければならない。
- 24 穀物のささげ物として、雄牛一頭に一エパ、雄羊一匹に一エパを献げる。油は一エパごとに一ヒンとする。
- 25 第七の月の十五日の祭りにも、七日間、これと同じように献げる。罪のきよめのささげ物、全焼のささげ物、穀物のささげ物、それに油を、同じように献げる。」

第46章

- 1 神である主はこう言われる。「内庭の東向きの門は、仕事をする六日間は閉じられるが、安息日には開けられなければならない。また、新月の祭りの日にも開けられなければならない。
- 2 君主は外側の門の玄関の間を歩いて入り、門の戸口の柱のそばに立つ。祭司たちは彼の全焼のささげ物と、交わりのいけにえを献げ、彼は門の敷居のところで礼拝する。それから彼は出て行く。しかし、門は夕暮れまで閉じてはならない。
- 3 民衆も、安息日と新月の祭りの日には、その門の入り口で主の前に礼拝をする。
- 4 君主が安息日に主に献げる全焼のささげ物は、傷のない子羊六匹と、傷のない雄羊一匹である。
- 5 また、穀物のささげ物は、雄羊一匹について一エパ。子羊については、彼が献げることができる分量の穀物のささげ物。油は一エパごとに一ヒンである。
- 6 新月の祭りの日には、傷のない若い雄牛一頭と、傷のない子羊六匹と雄羊一匹である。
- 7 穀物のささげ物をするために、雄牛一頭に一エパ。雄羊一匹に一エパ。子羊については、手に入れることができる分でもよい。油は一エパごとに一ヒンである。
- 8 君主が入るときには門の玄関の間を歩いて入り、そこを歩いて出て行かなければならない。
- 9 しかし、民衆が例祭の日主の前に入るとき、北の門を歩いて礼拝に来る者は南の門を歩いて出て行き、南の門を歩いて入る者は北の門を歩いて出て行かなければならない。自分が入った

門を通過して帰ってはならない。その反対側から出て行かなければならない。

- 10 君主は、彼らが入るときに一緒に入り、彼らが出るときに一緒に出なければならない。
- 11 祭りと例祭での穀物のささげ物は、雄牛一頭に一エパ、雄羊一匹に一エパ。子羊については献げることができる分量。油は一エパごとに一ヒンである。
- 12 また君主が、進んで献げるものとして全焼のささげ物を、あるいは、進んで献げるものとして交わりのいけにえを主に献げるときには、彼のために東向きの門を開けなければならない。彼は安息日に献げるのと同じように、全焼のささげ物と交わりのいけにえを献げなければならない。そして彼は出て行くが、出て行った後、その門は閉じられる。
- 13 あなたは毎日、傷のない一歳の子羊一匹を、全焼のささげ物として主に献げなければならない。これを毎朝、献げなければならない。
- 14 それに添えて、毎朝、六分の一エパの穀物のささげ物、上等の小麦粉に振りかけるための油三分の一ヒンを献げる。これが主への穀物のささげ物であり、永遠に続く掟である。
- 15 こうして、子羊、穀物のささげ物、そして油を、常供の全焼のささげ物として、毎朝、献げなければならない。」
- 16 神である主はこう言われる。「もし君主が、贈り物として自分の相続地を自分の息子たちに与えるなら、それは息子たちのものとなり、それは相続地として彼らの所有地となる。
- 17 しかし、もし君主が自分の相続地の一部を、贈り物として奴隷の一人に与えるなら、それは解放の年まではその奴隷のものであるが、その後で君主に返される。ただ息子たちだけが、相続地を自分のものとすることができる。
- 18 君主は、民の相続地を奪って民をその所有地から追い出してはならない。彼は自分の所有地から、息子たちに相続地を受け継がせなければならない。それは、わたしの民がその所有地から一人でも散らされないようにするためである。」
- 19 それから彼は私を、門のわきにある出入り口から、北向きになっている祭司たちの聖所の部屋に連れて行った。すると、西の方の隅に一つの場所があった。
- 20 彼は私に言った。「ここは祭司たちが、代償のためのささげ物や罪のきよめのささげ物を煮たり、穀物のささげ物を焼いたりする場所である。これらの物を外庭に持ち出して、民を聖なるものとしなためである。」
- 21 彼は私を外庭に連れ出し、庭の四隅を通らせた。すると庭の隅には、それぞれまた、ほかの庭があった。
- 22 庭の四隅に仕切られた庭があり、それは長さ四十キュビト、幅三十キュビトで、四つともみな同じ寸法であった。
- 23 その四つとも周りは石の壁で囲まれ、石の壁の下の方には調理場が作られていた。
- 24 彼は私に言った。「これは、神殿で奉仕をしている者が、民からのいけにえを煮る調理場である。」

第47章

- 1 彼は私を神殿の入り口に連れ戻した。見ると、水が神殿の敷居の下から東の方へと流れ出ていた。神殿が東に向いていたからである。その水は祭壇の南、神殿の右側の下から流れ出ていた。
- 2 次に、彼は私を北の門から連れ出し、外を回らせ、東向きの外門に行かせた。見ると、水は右側から流れ出ていた。

- 3 その人は手に測り縄を持って東の方に出て行き、千キュビトを測り、私にその水を渡らせると、それは足首までであった。
- 4 彼がさらに千キュビトを測り、私にその水を渡らせると、水は膝に達した。彼がさらに千キュビトを測り、私を渡らせると、水は腰に達した。
- 5 彼がさらに千キュビトを測ると、水かさが増して渡ることでできない川となった。川は泳げるほどになり、渡ることでできない川となった。
- 6 彼は私に「人の子よ、あなたはこれを見たか」と言って、私を川の岸に連れ帰った。
- 7 私が帰って来て見ると、川の両岸に非常に多くの木があった。
- 8 彼は私に言った。「この水は東の地域に流れて行き、アラバに下って海に入る。海に注ぎ込まれると、その水は良くなる。
- 9 この川が流れて行くどこでも、そこに群がるあらゆる生物は生き、非常に多くの魚がいるようになる。この水が入ると、その水が良くなるからである。この川が入るところでは、すべてのものが生きる。
- 10 漁師たちは、そのほとりに立つ。エン・ゲディからエン・エグライムまでが網を干す場所になる。その魚は大海の魚のように、種類が非常に多くなる。
- 11 しかし、その沢と沼は水が良ならず、塩を取るのに使われる。
- 12 川のほとりには、こちら側にもあちら側にも、あらゆる果樹が生長し、その葉も枯れず、実も絶えることがなく、毎月、新しい実をつける。その水が聖所から流れ出ているからである。その実は食物となり、その葉は薬となる。」
- 13 神である主はこう言われる。「あなたがたがイスラエルの十二の部族に、この地を相続地として与えるときの境界は、次のとおりである。ヨセフには二つ分を与える。
- 14 あなたがたは、それを等分に割り当てなければならない。それは、わたしがかつて、あなたがたの父祖たちに与えると誓約したものである。この地は相続地としてあなたがたのものである。
- 15 その地の境界線は次のとおりである。北側は、大海からヘテロンの道を経て、レボ・ハマテ、ツェダデ、
- 16 ベロタ、および、ダマスコの領土とハマテの領土の間にあるシブライム、さらに、ハウランの領土に面したハツェル・ハ・ティコンに至る。
- 17 こうして、境界線は海から始まり、ダマスコの境界のハツェル・エナンに至り、北は北の方へ、ハマテの境界にまで至る。これが北側である。
- 18 東側は、ハウランとダマスコの間と、ギルアデとイスラエルの地の間のヨルダン川が、東の海を経てタマルに至るまでの境界線である。これが東側である。
- 19 南側は、タマルから南に向かって、メリバテ・カデシュの泉とエジプト川に至り、大海に至るまでである。これが南側である。
- 20 西側は、大海が境界となり、レボ・ハマテに面した地点にまで至る。これが西側である。
- 21 あなたがたは、この地をイスラエルの部族ごとに割り当てなければならない。
- 22 あなたがたと、あなたがたの間で子を生んで、あなたがたの間に寄留している者にと、この地を自分たちの相続地として、くじで割り当てなければならない。あなたがたは彼らを、イスラエルの子らのうちに生まれた者と同じように扱わなければならない。彼らはイスラエルの部族の中であって、あなたがたと一緒に、くじで相続地の割り当てを受けなければならない。

- 23 寄留者には、その滞在している部族の中で、その相続地を与えなければならない—神である主のことは。

第48章

- 1 部族の名は次のとおりである。北の端からヘテロンの道を経てレボ・ハマテに至り、北にハマテを望む、ダマスコの境界のハツアル・エナンまで—東側から西側まで—これがダンの分である。
- 2 ダンの地域に接して、東側から西側までがアシエルの分。
- 3 アシエルの地域に接して、東側から西側までがナフタリの分。
- 4 ナフタリ地域に接して、東側から西側までがマナセの分。
- 5 マナセの地域に接して、東側から西側までがエフライムの分。
- 6 エフライム地域に接して、東側から西側までがルベンの分。
- 7 ルベンの地域に接して、東側から西側までがユダの分である。
- 8 ユダの地域に接して、東側から西側までが、あなたがたの献げる奉納地となる。その幅は二万五千キュビト、その長さは、東側から西側に及ぶ部族の割り当て地の一つと同じである。聖所はその中央にある。
- 9 あなたがたが主に献げる奉納地は、長さ二万五千キュビト、幅一万キュビトである。
- 10 祭司たちへの聖なる奉納地は次のとおりである。北側は二万五千キュビト、西側は一万キュビトの幅、東側は一万キュビトの幅、南側は二万五千キュビトの長さである。主の聖所はその中央にある。
- 11 この区域は、ツアドクの子孫で聖なる者とされた祭司たちのものである。彼らは、イスラエルの子らが迷い出たとき、レビ人が迷い出たように迷い出ることなく、わたしへの務めを果たした。
- 12 彼らの地域はレビ部族の地域に接し、奉納地のうちでも最も聖なる地である。
- 13 レビ部族の分は、祭司たちの地域に接して、長さ二万五千キュビト、幅一万キュビトである。すなわち、全体の長さは二万五千キュビト、幅は一万キュビトである。
- 14 彼らはそのどの部分も、売ったり取り替えたりしてはならない。その初めの土地を譲り渡してはならない。主の聖なるものだからである。
- 15 幅五千キュビト、長さ二万五千キュビトの残りの地所は、町の一般用であり、居住地と放牧地のためである。町はその中央に建てられなければならない。
- 16 その大きさは次のとおりである。北側は四千五百キュビト、南側は四千五百キュビト、東側は四千五百キュビト、西側は四千五百キュビトである。
- 17 また、町の放牧地は、北へ二百五十キュビト、南へ二百五十キュビト、東へ二百五十キュビト、西へ二百五十キュビトである。
- 18 残りの地所の長さは、聖なる奉納地に接し、東へ一万キュビト、西へ一万キュビトである。それは聖なる奉納地に接している。そこから収穫した物は町の働き人の食物となる。
- 19 その町の働き人はイスラエルの全部族から出て、これを耕す。
- 20 奉納地の全体は二万五千キュビト四方であり、あなたがたは、聖なる奉納地を町の所有地とともに献げることになる。

- 21 聖なる奉納地と町の所有地の両側にある残りの地所は、君主のものである。これは二万五千キュビトの奉納地に面し、そこから東の境界までである。西の方も、その二万五千キュビトに面し、そこから西の境界までである。これは部族の割り当て地にも接していて、君主のものである。聖なる奉納地と神殿の聖所とは、その中央にある。
- 22 君主の所有する地区の中にあるレビ人の所有地と、町の所有地を除いて、ユダの地域とベニヤミンの地域との間にある部分は、君主のものである。
- 23 なお、残りの部族は、東側から西側までがベニヤミンの分。
- 24 ベニヤミンの地域に接して、東側から西側までがシメオンの分。
- 25 シメオンの地域に接して、東側から西側までがイッサカルの分。
- 26 イッサカルの地域に接して、東側から西側までがゼブルンの分。
- 27 ゼブルンの地域に接して、東側から西側までがガドの分。
- 28 その境界線は、ガドの地域の南側を延び、タマルからメリバテ・カデシュの水、さらにエジプト川に沿って大海に至る。
- 29 以上が、あなたがたがイスラエルの部族ごとに、相続地としてくじで分ける土地であり、以上が彼らの割り当て地である一神である主のことば。
- 30 町の出口は次のとおりである。北側は四千五百キュビトの長さで、
- 31 町の門にはイスラエルの部族の名がつけられている。北側の三つの門は、ルベンの門一つ、ユダの門一つ、レビの門一つ。
- 32 東側も四千五百キュビトで、三つの門がある。ヨセフの門一つ、ベニヤミンの門一つ、ダンの門一つ。
- 33 南側も四千五百キュビトの長さで、三つの門がある。シメオンの門一つ、イッサカルの門一つ、ゼブルンの門一つ。
- 34 西側も四千五百キュビトで、三つの門がある。ガドの門一つ、アシェル、ナフタリの門一つ。
- 35 町の周囲は一万八千キュビト。この町の名は、その日から『主はそこにおられる』となる。」